

幼儿教育学科

2026 年 4 月 6 日 更新

科 目 名	日本国憲法（人権）		単 位 数	2	授業時間数	3 0	担当教員	わたなべ のぶひさ 渡 辺 演 久
ナンバリングコード	PUL11101		授業形態	講義	実務経験			
授 業 方 式	対面 ・ 遠隔 ・ その他（							

科 目 名	体育実技			単 位 数	I	授業時間数	4 4	担当教員	きたほら せいいち 北 洞 誠 一
ナバ`リング`コード`	DMB21101			授業形態	実技	実務経験			
授 業 方 式	対面 ・遠隔・その他（ ）						アクティブ・ラーニングの実施		有・無
授 業 の 内 容	本講義では、生涯にわたって運動・スポーツと親しむための基礎的技能の習得、正しい知識、実践方法について学ぶとともに、運動・スポーツを通して他者との関り方について考えることをねらいとする。また、将来幼児教育者として必要な幼児の運動あそびに関する知識、技能、さらに子どもの指導や援助の技術について理解を深めることを目的としている。毎回、ボディワークのショートレッスンを実践して、自分の身体と向き合う時間を作る。								
到 達 目 標	1.運動・スポーツに親しむための基礎的技能を習得している。 2.自己の身体に関心をもち、健康の維持・向上を実践していく知識・方法を習得している。 3.運動・スポーツを通して協調性・社会性を身に付けている。 4.幼児教育者として必要な幼児の運動遊びに関する基本的な知識と技術を習得している。								
学位授与方針	幼児教育学科（3、4 ）地域保育学科（ ）文化表現学科（ ）								
授 業 計 画	第1回	内容	オリエンテーション。身体の調整力を育む「からだあそび」	予習	乳幼児期におけるハイハイの必要性を調べる				
				復習	授業内容をノートにまとめる				
	第2回	内容	自分の身体と向き合うボディワークを体験する	予習	フェルデンクライスメソッドについて調べる				
				復習	身体の変化と気づきをノートにまとめる				
	第3回	内容	ソフトバレーボール①	予習	ソフトバレーボールのルールを調べる				
				復習	ソフトバレーボールと通常のバレーボールの違いをまとめる				
	第4回	内容	ソフトバレーボール②	予習	ソフトバレーボールの歴史を調べる				
				復習	ソフトバレーボールを他の方法で行うアイデアをまとめる				
	第5回	内容	マット遊びⅠ：マットを道具とした遊び	予習	教科書のマット遊びの部分を読んでくる				
				復習	授業で学習したことをノートにまとめる				
	第6回	内容	マット遊びⅡ：回転遊び	予習	教科書のマット遊びの部分を読んでくる				
				復習	授業で学習したことをノートにまとめる				
	第7回	内容	バレーボール①	予習	バレーボールのルールを調べる				
				復習	バレーボールとソフトバレーボールの違い改めてまとめる				
	第8回	内容	バレーボール②	予習	バレーボールの歴史を調べる				
				復習	バレーボールの楽しさと運動効果をノートにまとめる				
	第9回	内容	跳び箱遊びⅠ：台として遊ぶ	予習	教科書の跳び箱遊びの部分を読んでくる				
				復習	授業で学習したことをノートにまとめる				
	第10回	内容	跳び箱遊びⅡ：いろいろな跳び越し	予習	教科書の跳び箱遊びの部分を読んでくる				
				復習	授業で学習したことをノートにまとめる				
	第11回	内容	バドミントン①	予習	バドミントンのルールを調べる				
				復習	ゲームの進行で難しかったところを書き出す				
	第12回	内容	バドミントン②	予習	バドミントンのルールを確認する				
				復習	バドミントンの歴史を調べる				
	第13回	内容	ボール遊びⅠ：一人遊び	予習	教科書のボール遊びの部分を読んでくる				
				復習	授業で学習したことをノートにまとめる				
	第14回	内容	ボール遊びⅡ：ペア遊び・グループ遊び	予習	教科書のボール遊びの部分を読んでくる				
				復習	授業で学習したことをノートにまとめる				
	第15回	内容	バスケットボール①	予習	バスケットボールのルールを調べる				
				復習	バスケットボールの運動効果についてまとめる				
	第16回	内容	バスケットボール②	予習	バスケットボールの歴史を調べる				
				復習	バスケットボールの歴史をノートにまとめる				
	第17回	内容	縄遊びⅠ：短縄遊び	予習	教科書の短縄遊びの部分を読んでくる				
				復習	授業で学んだ内容をノートにまとめる				
	第18回	内容	縄遊びⅡ：長縄遊び	予習	教科書で長縄遊びの部分を読んでくる				
				復習	授業で学んだ内容をノートにまとめる				
		内容			予習	教科書で巧技台の部分を読んでくる			

	第 19 回		巧技台遊びⅠ	復習	巧技台のパーツの名称をまとめる
	第 20 回	内容	巧技台遊びⅡ	予習	巧技台のパーツの名称を確認する
				復習	授業で学んだことをノートにまとめる
	第 21 回	内容	フープ遊び	予習	フープを使った遊びを調べる
				復習	授業で学んでことをノートにまとめる
	第 22 回	内容	いろいろな鬼ごっこ	予習	鬼ごっこの遊び方を調べる
				復習	授業で学んだことをノートにまとめる
	第 23 回	内容		予習	
				復習	
	第 24 回	内容		予習	
				復習	
	第 25 回	内容		予習	
				復習	
	第 26 回	内容		予習	
				復習	
	第 27 回	内容		予習	
				復習	
	第 28 回	内容		予習	
				復習	
	第 29 回	内容		予習	
				復習	
	第 30 回	内容		予習	
				復習	
予習に要する学習時間：概ね 30 分を目安とする。 復習に要する学習時間：概ね 30 分を目安とする。					
課題へのフィードバック	Google クラスルームの課題提出に対してフィードバックを行う。				
成績評価	試験期間における定期試験：実施（ ）する／（○）しない 成績評価の方法： 筆記試験（30 %）、レポート・課題（30 %）、作品・発表（ %）、実技（30 %）、授業態度【積極的参加】（10 %）				
教科書	乳幼児・児童の運動あそびと表現あそび				
参考文献					
補足事項	実技は基本的に裸足で行うので、ストッキングを脱いでくること また髪の毛は運動時に邪魔にならないように括ること 体育館は毎回班ごとにモップがけを行う				

科 目 名	体育実技		単 位 数	I	授業時間数	4 4	担当教員	しおざき 塩 崎 みづほ
ナンバリングコード	DMB11101		授業形態	実技	実務経験			
授 業 方 式	対面 ・ 遠隔 ・ その他（ ）					アクティブ・ラーニングの実施		有 ・ 無
授 業 の 内 容	本講義では、生涯にわたって運動・スポーツと親しむための基礎的技能の習得、正しい知識、実践方法について学ぶとともに、運動・スポーツを通して他者との関り方について考えることをねらいとする。また、将来幼児教育者として必要な幼児の運動あそびに関する知識、技能、さらに子どもの指導や援助の技術について理解を深めることを目的としている。							
到 達 目 標	1.運動・ダンス・スポーツに親しむための基礎的技能を習得している。 2.自己の身体に関心を持ち、健康の維持・向上を実践していく知識・方法を習得している。 3.運動・ダンス・スポーツを通して協調性・社会性を身に付けている。 4.幼児教教育者として必要な幼児の運動遊びに関する基本的な知識と技能を習得している。							
学位授与方針	幼児教育学科（ 1・2・5 ）地域保育学科（ ）文化表現学科（ ）							
授 業 計 画	第1回	内容	ガイダンス 履修上の注意、体育実技の目的等 ウォームアップ創作	予習	シラバスを読み、本授業のねらい、内容について把握する			
				復習	本時の活動の振り返りフォームへ入力をする			
	第2回	内容	鬼あそびについて考えよう	予習	鬼あそびについて3つ以上あげ、ルールを記入してくる			
				復習	鬼あそびの意義についてまとめる			
	第3回	内容	フープを使った遊び	予習	フープの特性についてまとめる			
				復習	本時の内容を年齢ごとに遊びを分ける			
	第4回	内容	米袋を使った遊び	予習	米袋を作成してくる			
				復習	米袋の遊びをまとめ、一つ新しい遊びを考えてくる			
	第5回	内容	新聞紙を使った遊び	予習	新聞紙を使った遊びについて調べてくる。			
				復習	本時の活動の振り返りフォームを記入し、まとめる			
	第6回	内容	ダンス① 「走るー止まる」	予習	ストレッチをする			
				復習	本時の内容の振り返りとまとめノートを作成する			
	第7回	内容	ダンス② 「集まるーとび散る」	予習	前時のウォームアップの実践をする			
				復習	本時の内容の振り返りとまとめノートを作成する			
	第8回	内容	ダンス③ 「リズムミカルな動き」 歌詞と曲のリズムをとらえたダンス	予習	童謡の曲について調べてくる			
				復習	本時の内容を、意義とステップ、感想にまとめる			
	第9回	内容	縄を使った遊び	予習	縄遊びの箇所の教科書を読み、1つ以上遊びを選んでくる			
				復習	本時の内容を、年齢ごとに遊びを分ける			
	第10回	内容	マットを使った遊び	予習	マット遊びの箇所の教科書を読み、安全面の配慮についてまとめる			
				復習	本時の内容をも発達ごとにノートまとめる			
	第11回	内容	巧技台を使った遊び	予習	巧技台の歴史、使い方について調べてくる			
				復習	本時の内容を発達ごとにノートにまとめる			
	第12回	内容	跳び箱を使った遊び	予習	幼児期の跳び箱遊びについて調べる			
				復習	本時の内容を発達別にノートにまとめる			
	第13回	内容	ボールを使った遊び①幼児期の遊び	予習	幼児期のボール遊びの意義について調べる			
				復習	本時の活動内容を発達別にノートにまとめる			
	第14回	内容	バドミントン	予習	バドミントンのルールについて調べる			
				復習	バドミントンの特性についてノートにまとめる			
	第15回	内容	バスケットボール	予習	バスケットボールの歴史、ルールについて調べる			
				復習	バスケットボールの特性についてノートにまとめる			
	第16回	内容	ソフトバレーボール	予習	バレーボールの歴史、ルールについて調べる			
				復習	本時の活動の意義についてノートにまとめる			
	第17回	内容	運動遊びの指導法① 「ルールのある遊びの指導実践のリハーサル」	予習	ルールのある遊びを調べ実践に向けた準備をする			
				復習	指導の流れ、言葉かけについてノートにまとめる			
	第18回	内容	運動遊びの指導法② 「ルールのある遊びの模擬授業①鬼遊び」	予習	実際の指導をイメージして言葉かけを考えてくる			
				復習	実践した感想、反省点を記入する			
		内容		予習	実際の指導をイメージして言葉かけを考えてくる			

	第 19 回		運動遊びの指導法③ 「ルールのある遊びの模擬授業②ボールを使った遊び」	復習	実践した感想、反省点を記入する
	第 20 回	内容	運動遊びの指導法④ 「ルールのある遊びの模擬授業 ③フープや縄を使った遊び」	予習	実際の指導をイメージして言葉かけを考えてくる
				復習	実践した感想、反省点を記入する
	第 21 回	内容	ボールを使った遊び②ドッジボール	予習	様々なドッジボールのルールを調べてくる
				復習	本時の活動の振り返りとまとめをノートに記入する
	第 22 回	内容	フリスビー作成 フリスビーを使った遊び	予習	フリスビーに必要な材料を集める
				復習	実践後の振り返りをノートにまとめる
	予習に要する学習時間：概ね 20 分を目安とする。 復習に要する学習時間：概ね 25 分を目安とする。				
課題へのフィードバック	ノートやレポート課題の提出の際、コメントを記入して返却する。 発表の際は、講評をする。				
成績評価	試験期間における定期試験：実施（ ）する／（○）しない 成績評価の方法： 筆記試験（ ）、レポート・課題（20%）、作品・発表（30%）、実技（30%）、授業態度【積極的参】（20%）				
教科書	『乳幼児・児童の運動あそびと表現あそび からだところを育む指導法』（宮下恭他編著、大学図書出版）				
参考文献	『書名』（著者名、出版社名）				
補足事項	実技の際は、原則指定のジャージを着用のこと 評価表： https://drive.google.com/file/d/10FW0oRkghQiIVJ7BdIDumglfioSixiRP/view?usp=sharing				

科 目 名	体育講義		単 位 数	I	授業時間数	I 6	担当教員	きたほら せいいち 北 洞 誠一	
ナバ`リング`コート`	DMB21102		授業形態	講義	実務経験				
授 業 方 式	対面 ・ 遠隔 ・ その他（ ）					アクティブ・ラーニングの実施		有・ 	
授 業 の 内 容	心身の健康保持増進は、豊かなライフスタイルを送る上で必要不可欠である。健康と運動との関わりに関する正しい知識を身に付け、理解を深めることを目的とする。また、自身の身体の仕組みについて知識を深め、自らの健康維持増進の方法を考え、実践していく力を養うことを狙いとする。								
到 達 目 標	1. 健康に関する正しい知識を学び、健康的なライフスタイルを実践する力を身に付けている。 2. 各年齢に適した食事や運動実践方法について理解をしている。 3. 自己管理や、子どもの健康・運動の援助指導を適切に行えるよう、基礎知識を習得している。								
学位授与方針	幼児教育学科（1、2、4）地域保育学科（ ）文化表現学科（ ）								
授 業 計 画	第1回	内容	現代社会と健康	予習	教科書の該当箇所を読んでくる				
				復習	レジュメを中心に、学んだことを確認する				
	第2回	内容	食事と健康	予習	教科書の該当箇所を読んでくる				
				復習	レジュメを中心に、学んだことを確認する				
	第3回	内容	心の健康と運動	予習	教科書の該当箇所を読んでくる				
				復習	レジュメを中心に、学んだことを確認する				
	第4回	内容	青年期の性	予習	教科書の該当箇所を読んでくる				
				復習	レジュメを中心に、学んだことを確認する				
	第5回	内容	運動と健康	予習	教科書の該当箇所を読んでくる				
				復習	レジュメを中心に、学んだことを確認する				
	第6回	内容	体力について	予習	教科書の該当箇所を読んでくる				
				復習	レジュメを中心に、学んだことを確認する				
	第7回	内容	トレーニングの基礎理論	予習	教科書の該当箇所を読んでくる				
				復習	レジュメを中心に、学んだことを確認する				
	第8回	内容	スポーツ障害と応急処置	予習	教科書の該当箇所を読んでくる				
				復習	レジュメを中心に、学んだことを確認する				
	第9回	内容		予習					
				復習					
	第10回	内容		予習					
				復習					
	第11回	内容		予習					
				復習					
	第12回	内容		予習					
				復習					
	第13回	内容		予習					
				復習					
	第14回	内容		予習					
				復習					
	第15回	内容		予習					
				復習					
	予習に要する学習時間：概ね 30 分を目安とする。 復習に要する学習時間：概ね 30 分を目安とする。								
	課題へのフィードバック	投稿された Google クラスルームの課題に解答することにより、課題へのフィードバックを行う							
	成績評価	試験期間における定期試験：実施（ ）する／（○）しない 成績評価の方法： 筆記試験（30 %）、レポート・課題（50 %）、作品・発表（0 %）、実技（0 %）、授業態度【積極的参加】（20 %）							
教科書	大学生のための体育講義								
参考文献									
補足事項	Google クラスルームを活用して、課題提出や連絡の取り合いを行う								

科 目 名	体育講義		単 位 数	Ⅰ	授業時間数	Ⅰ 6	担当教員	しおざき 塩 崎 みづほ	
ナバ`リング`コード`	DMB11102		授業形態	講義	実務経験				
授 業 方 式	対面 ・ 遠隔 ・ その他（ ）				アクティブ・ラーニングの実施		有 ・ 無		
授 業 の 内 容	現代社会は、健康や運動に関する情報があふれている。よってそれらに対応していく力をつけることが望まれる。本講義では健康・運動・体力について正しい知識を学び、自ら健康の維持増進の方法を考え、実践していく力を養うことがねらいである。								
到 達 目 標	1. 健康に関する正しい知識を学び、健康的なライフスタイルを実践する力を身に付けている。 2. 各年齢に適した食事や休息、運動実践の方法について理解している。 3. 幼児教育者としての自己の健康管理、子どもたちの健康・運動の援助指導を適切に実践できる基礎的知識を習得している。								
学位授与方針	幼児教育学科（Ⅰ・3・4）地域保育学科（ ）文化表現学科（ ）								
授 業 計 画	第1回	内容	受講上の留意事項について 現代社会と健康	予習	教科書Ⅰを読んてくる				
				復習	p.10 について調べてまとめる				
	第2回	内容	青年期と性 感染症について知ろう	予習	教科書4を読んてくる 感染症について調べてくる				
				復習	p.34 について調べ、まとめる				
	第3回	内容	運動と健康、体力について	予習	教科書5を読んてくる				
				復習	教科書6について読み、本時の内容と照合しまとめる				
	第4回	内容	体力テストの企画と実践 実践後グループディスカッション	予習	幼児の体力テストの資料を読んてくる				
				復習	実践結果と企画、実践した感想をまとめる				
	第5回	内容	課題について取り組む	予習	自分自身の興味ある課題を見つけてくる				
				復習	資料を見つけ、要旨をまとめる				
	第6回	内容	テーマ設定と研究目的の決定 内容の整理	予習	研究の目的を各自でまとめてくる				
				復習	担当箇所について資料をもとに整理する				
	第7回	内容	スライド作成と発表のリハーサル	予習	スライドの構成を考えてくる				
				復習	スライドを見直し訂正箇所をまとめる				
	第8回	内容	発表 まとめ	予習	発表練習をする				
				復習	授業のまとめ、発表までの振り返りを行う				
予習に要する学習時間：概ね 90 分を目安とする。 復習に要する学習時間：概ね 90 分を目安とする。									
課題へのフィードバック	毎時の復習問題について解説する 質問に関しては、コメントすると同時に授業内にて説明をする								
成績評価	試験期間における定期試験：実施（ ）する／（○）しない 成績評価の方法：筆記試験（0%）、レポート・課題（60%）、作品・発表（20%）、実技（ %）、授業態度【積極的参加】（20%）								
教科書	『大学生のための体育講義 今日つくる未来・今日を生きる知恵』（茗井香保里編著、推敲舎）								
参考文献	『健康づくりのための運動科学』（鵜木秀夫編、化学同人） 『大学生の健康・スポーツ科学』（大学生の健康・スポーツ科学研究会編、道和本院）								

補足事項	授業は11月頃より開始（詳細は掲示にて知らせる） 毎回教科書を持参し、復習課題を提出すること 発表評価表： https://drive.google.com/file/d/INwPQGTz0d65umqc5xbYe8uRDpeeihq9g/view?usp=sharing
------	---

科 目 名	カレッジリテラシー	単 位 数	I	授業時間数	30	担当教員	せき とねがわ ほりうち 関・利根川・堀内
ナバ`リング`コード`	SEMI1109	授業形態	講義	実務経験			
授 業 方 式	対面 ・ 遠隔 ・ その他 ()				アクティブ・ラーニングの実施		有 ・ 無
授 業 の 内 容	この授業では、短期大学の教育に必要な基礎学力や学ぶための姿勢、レポートの書き方、プレゼンテーションの工夫等について講義、およびグループワークを行う。また、本学の建学の理念を理解し、特色を持った保育者像を描くための講義を行う。						
到 達 目 標	1. 短期大学における基礎学力、学ぶ姿勢を身につけている。 2. 本学の建学の理念を理解し、特色を持った保育者像を持つことができている。 3. 社会人としてのマナーや礼儀作法を身につけることができている。						
学位授与方針	幼児教育学科 (2・3・5) 地域保育学科 () 文化表現学科 ()						
授 業 計 画	第1回	内容	【関①】 授業ガイダンス、自己紹介、図書室の利用方法と図書館利用者証について、レポート作成について	予習	シラバスを読み、授業の概要を捉える		
				復習	本時の活動を振り返り、まとめる		
	第2回	内容	【関②】 レポート作成、自己紹介スケッチブックシアターの製作 (グループワーク)	予習	図書館で参考文献を2冊借りる		
				復習	レポートを完成させる		
	第3回	内容	【関③】 自己紹介スケッチブックシアターの製作 (グループワーク)	予習	スケッチブックシアターの材料を準備する		
				復習	レポートを完成させる		
	第4回	内容	【関④】 レポート提出、スケッチブックシアターを見合う (グループディスカッション)	予習	スケッチブックシアターの練習をする		
				復習	4回分の授業の振り返りとまとめ		
	第5回	内容	【堀内①】 言葉遣いと人間関係のマナー、電話のマナー、手紙・はがきのマナー	予習	社会人として必要な基礎力について考えてみる		
				復習	授業内で見つけた課題について取り組むこと		
	第6回	内容	【堀内②】 箸使い・食事のマナー	予習	箸を準備、持ち方を確認する		
				復習	授業で学んだ事を日常生活で活用してみる		
	第7回	内容	【堀内③】 職場のルール、来客応対・席次のマナー、立ち居振る舞い	予習	鏡に姿を映し、姿勢や歩き方を確認する		
				復習	全3回を振り返り社会人としての基礎力をつける		
	第8回	内容	【利根川①】 講義内容の説明、秋草かつえ先生について知る、短大生チェックリスト	予習	シラバスを読み、全8回の概要を知る		
				復習	本時の内容を振り返る		
	第9回	内容	【利根川②】 女性の生き方・働き方とジェンダー①『建学の心』を読む、チーム決め	予習	『建学の心』を読む		
				復習	『建学の心』を読み、スライド内容を作成する		
	第10回	内容	【利根川③】 女性の生き方・働き方とジェンダー②プレゼンについて、内容を考える	予習	『建学の心』を読み、スライド内容を作成する		
				復習	『建学の心』を読み、スライド内容を作成する		
	第11回	内容	【利根川④】 女性の生き方・働き方とジェンダー③内容の話し合い、スライドをまとめ、共有する。	予習	『建学の心』を読み、スライド内容を作成する		
				復習	スライド内容を作成し、他と共有しながら内容を練る		
	第12回	内容	【利根川⑤】 女性の生き方・働き方とジェンダー④建学の心と保育テーマ内容を錬成し、共有する。	予習	スライド内容を作成し、他と共有しながら内容を練る		
				復習	スライド内容を作成し、他と共有しながら内容を練る		
	第13回	内容	【利根川⑥】 女性の生き方・働き方とジェンダー⑤スライドの完成と、プレゼンのリハーサル	予習	スライド内容をチェックし合い、発表準備をする		
				復習	スライド内容をチェックし合い、発表準備をする		
	第14回	内容	【利根川⑦】 女性の生き方・働き方とジェンダー⑥建学の心と保育をテーマにスライドを発表する	予習	スライド内容をチェックし合い、発表準備をする		
				復習	スライド発表の振り返りをする		
	第15回	内容	【利根川⑧】 女性の生き方・働き方とジェンダー⑦スライド発表を振り返る	予習	スライド発表の振り返りをする		
				復習	講義を振り返り、自分の保育観について考える		
	予習に要する学習時間：概ね90分を目安とする。 復習に要する学習時間：概ね90分を目安とする。						
課題へのフィードバック	Google Classroom を用いて課題や小テストのフィードバックを行う 演習時に模範解答を示し説明・指導する。レポートは添削をして返却する。発表については講評をする。						
成績評価	試験期間における定期試験：実施 () する / () しない 成績評価の方法：筆記試験 (%)、レポート・課題 (50 %)、作品・発表 (30 %)、実技 (%)、授業態度【授業参加】(20 %)						
教科書	『建学の心』冊子 『改訂2版 わかる・話せる・使える保育のマナーと言葉』(長島和代, わかば社)						
参考文献	『書名』(著者名、出版社名) 『改訂2版 わかる・書ける・使える保育の基本用語』(長島和代, わかば社)						

補足事項	卒業および資格取得のための必修科目なので、全員が履修すること。 関4回、利根川8回、堀内3回
------	---

科 目 名	キャリアデザイン		単 位 数	I	授業時間数	30	担当教員	ひょうどう まさこ 兵 藤 雅子
ナンバリングコード	SEM11110		授業形態	講義	実務経験			
授 業 方 式	対面 ・ 遠隔 ・ その他（ ）					アクティブ・ラーニングの実施		有 ・ 無
授 業 の 内 容	本講義では、キャリアを「将来の正解を見つけること」ではなく、「自分自身の問いを起点に、選択や判断を重ねていくプロセス」として捉える。 受講者は、自己理解を出発点として、職業・役割・仕事といった狭義のキャリアにとどまらず、自らの人生を主体的に選択していくという広義のキャリアの考え方について学ぶ。授業では、問いを立てるワーク、対話、内省を中心としたアクティブラーニングを通して、自身の感情や違和感、関心を言語化し、それらを判断基準へとつなげていくプロセスを体験する。また、外部講師との協創を取り入れ、多様な価値観や社会の変化に触れることで、自分の問いを相対化し、更新していく機会を設ける。これらの学びを通して、変化の大きい社会においても、自ら問い続けながら判断基準を磨き、主体的にキャリアを考え続けていく姿勢の形成を目指す。							
到 達 目 標	到達目標①自己理解を通して、自身の感情や価値観、関心の背景にある問いを言語化し、狭義および広義のキャリアの観点から、自分自身のキャリアを説明できるようになる。到達目標②社会の変化や価値観の多様性に触れながら、他者の視点を踏まえて自分の考えを相対化し、自身の問いや判断基準を見直し・更新して考察できるようになる。到達目標③授業内での対話や外部講師との協創を通して得た気づきをもとに、自ら問い続けながら将来の選択や行動を考え、主体的にキャリアを設計しようとする姿勢を身につける。							
学位授与方針	幼児教育学科（ ） 地域保育学科（ ） 文化表現学科（ ）							
授 業 計 画	第1回	内容	ガイダンス：キャリアを問いから捉える	予習	キャリアの定義を考えておく			
				復習	印象に残った問いを挙げ、その問いに関係していると思う価値観を考える			
	第2回	内容	問いをひらく①：感情・違和感・関心	予習	最近、感情が動いた出来事（嬉しかったこと、違和感を覚えたことなど）を1つ思い出してくる。			
				復習	今日扱った問いの中で最も心が動いたものを1つ選び、その背景にあると感じた自分の価値観を書く			
	第3回	内容	問いをひらく②：自分の問いをつくる	予習	第2回の復習内容を読み返し、自分が気になっている問いを1つ選んでおく。			
				復習	今日つくった「自分の問い」と、その問いの背景にあると感じた価値観を1つ書く。			
	第4回	内容	自分を知る①：価値観とは何か（録画）	予習	これまでの講義で自分らしいと思う価値観をピックアップしておく（複数可）			
				復習	もっとも大切だと思う価値観からの経験談をかく			
	第5回	内容	自分を知る②：選択と判断基準	予習	これまでの人生や学校生活の中で印象に残っている「選択」を1つ思い出してくる。			
				復習	その選択の際に、自分が優先していた判断基準は何だったかを書き、それがどの価値観につながっているかを整理する			
	第6回	内容	狭義と広義のキャリア（働くとは）（録画）	予習	なんのために働くのかを考える			
				復習	「働くこと」や「キャリア」について、今日の講義を通して気づいた自分の価値観や考えの変化を書く			
	第7回	内容	社会と出会う①（録画） 特別なニーズをもつ子供たち	予習	講義内容に関連するテーマについて、自分が気になっていることや疑問を1つ考えておく			
				復習	講義を通して心が動いた場面を1つ挙げ、その場面で反応した自分の価値観や問いを書く。			
	第8回	内容	社会と出会う②（録画） 保育園経営者の考え	予習	前回の復習内容を読み返し、揺れた価値観や気になっている問いを確認しておく。			
				復習	保育園経営者の考えに触れて、自分の価値観がどのように揺れたか、または強まったかを書く。			
	第9回	内容	保育×ビジネス ①（課題起点）	予習	「保育」と「ビジネス」が結びつくことについて、自分のイメージや違和感を簡単に整理しておく。			
				復習	今日扱った課題について、自分が大切にしたいと感じた価値観や判断基準を書く。			
	第10回	内容	保育×ビジネス ②	予習	前回の内容を振り返り、特に気になった点や疑問を整理しておく。			
				復習	保育とビジネスを考える中で、自分の価値観がどのように整理・更新されたかを書く			
	第11回	内容	問いを深める	予習	これまでに書いてきた問いや価値観の記録を見返しておく。			
				復習	今も考え続けている問いを1つ挙げ、その問いが以前よりどのように深まったかを書く。			
	第12回	内容	問い鍛える：選択と迷い	予習	現在、少し迷っていることや決めきれないことを1つ考えてくる。			
				復習	その迷いの背景にある価値観や判断基準を整理し、なぜ迷いが生まれているのかを書く。			
	第13回	内容	主体的に選ぶということ（録画）	予習	主体的の意味について考えておく			
				復習	「主体的に選ぶ」とは自分にとってどういうことかを、自分の価値観と結びつけて書く。			

	第 14 回	内容	キャリアの語り直し	予習	これまでの復習課題（価値観・問い）をすべて見返しておく。
				復習	今の自分を表す価値観を 5 つ挙げ、変わった点・変わらない点を整理する。
	第 15 回	内容	価値観を集める：統合ワーク	予習	これまでの復習課題をすべて持参（またはデータで準備）する。
				復習	これまでに整理してきた価値観と問いをもとに、自分の判断基準の特徴と、今後問い続けていきたいテーマをまとめる
	予習に要する学習時間：概ね 分を目安とする。 復習に要する学習時間：概ね 分を目安とする。				
	課題へのフィードバック	講義中においてフィードバックを行う			
成績評価	試験期間における定期試験：実施（ ）する／（○）しない 成績評価の方法： 筆記試験（ %）、レポート・課題（ 80%）、作品・発表（ %）、実技（ %）、授業態度【積極的参加 】（20%）				
教科書	『書名』（著者名、出版社名） なし				
参考文献	『書名』（著者名、出版社名） 熊平美香著 「リフレクション」「ダイアオーグ」 出版社：ディスカヴァー・トゥエンティワン				
補足事項					

科 目 名	基礎教養講座		単 位 数	I	授業時間数	30	担当教員	まつき ほか 松木 他
ナバ`リング`コード`	SEMI107		授業形態	講義	実務経験			
授 業 方 式	対面 ・ 遠隔 ・ その他（ ）					アクティブ・ラーニングの実施		有 ・ 無
授 業 の 内 容	この授業では、短期大学での学修に必要な学力の向上を図りつつ、社会人として求められるスキルと教養を身につける。また、グループワークやグループディスカッションを通して多様な価値観に触れ、広い視野で物事を捉える力や考える力、協力する力を養う。授業を通して、単なる知識の習得に留まらず「社会で通用する自分」をデザインすることを目指す。							
到 達 目 標	1. 主体的に大学生活を送る姿勢を身につけている。 2. 社会人として必要なコミュニケーション能力及び生活技術を身につけている。 3. 社会人としての基礎教養を身につけている。							
学位授与方針	幼児教育学科（1・2・5）地域保育学科（ ）文化表現学科（ ）							
授 業 計 画	第1回	内容	授業ガイダンス【三好】	予習	学生便覧及びシラバスを読む。			
			短大保育者養成課程での学びと資格取得の概要【小口】	復習	学生便覧を読む。			
	第2回	内容	ICTの使い方① classroomの使い方【三好】	予習	ワークブック9、11ページを読む。			
				復習	Classroom の使い方についてまとめる。			
	第3回	内容	ICTの使い方② Classroomにおける課題の作成と提出の仕方【三好】	予習	Classroom の機能について調べる。			
				復習	課題の提出の仕方についてまとめる。			
	第4回	内容	入学前ワークブック①【丸橋】 オンデマンド授業の振り返り、生活技術を身につけよう	予習	ワークブックを完成させる。			
				復習	ワークブック30ページを見直す。			
	第5回	内容	入学前ワークブック②【松木】 漢字・算数・文章力	予習	ワークブック16～21ページを完成させる。			
				復習	分からなかった箇所を見直して覚える。			
	第6回	内容	入学前ワークブック③【丸橋】 グループワーク 生活技術を身につけよう	予習	『保育のマナーと言葉』52-53ページを読む。			
				復習	ワークブック30ページCの項目に取り組む。			
	第7回	内容	入学前ワークブック④【松木】 漢字・算数・文章力	予習	ワークブック16～21ページを見直す。			
				復習	分からなかったものを解き直す。			
	第8回	内容	入学前ワークブック④【伊澤】 ニュースを読み解く	予習	興味を持ったニュースについて自分なりの考えをまとめる。			
				復習	授業を振り返り、ワークブックで取り上げた新聞記事について自分の考えをまとめる。			
	第9回	内容	保育の基本用語①【松木】 実習日誌の漢字を書いてみよう	予習	『保育の基本用語』9-14ページを読む。			
				復習	間違えたところを見直す。			
	第10回	内容	保育の基本用語②【松木】 実習日誌の漢字を書いてみよう	予習	『保育の基本用語』16-39ページをやる。			
				復習	間違えたところを見直す。			
	第11回	内容	保育の基本用語③【松木】 保育の基本用語の意味を確認しよう	予習	『保育の基本用語』42-94ページをやる。			
				復習	間違えたところを見直す。			
	第12回	内容	保育の文章・記録の書き方①【小口】 話し言葉について	予習	『保育のマナーと言葉』60-65ページを読む。			
				復習	ワークシートを復習する。			
	第13回	内容	保育の文章・記録の書き方②【小口】 書き言葉について	予習	『保育のマナーと言葉』84-85ページを読む。			
				復習	ワークシートを復習する。			
第14回	内容	保育の文章・記録の書き方③【小口】 さまざまな文書の書き方と電子メールのマナー	予習	『保育のマナーと言葉』98-107ページを読む。				
			復習	ワークシートを復習する。				
第15回	内容	まとめ【大熊・松木】 グループディスカッション	予習	これまでの授業でやったことを見直す				
			復習	後期に向けた心構えをまとめる				
予習に要する学習時間：概ね90分を目安とする。 復習に要する学習時間：概ね90分を目安とする。								
課題へのフィードバック	Google Classroom を用いて課題や小テストのフィードバックを行う。授業内で提出及び発表するものは授業内で講評を行う。							
成績評価	試験期間における定期試験：実施（ ）する／（ ○ ）しない 成績評価の方法： 筆記試験（10%）、レポート・課題（30%）、作品・発表（ %）、実技（30%）、授業態度【積極性】（30%）							
教科書	『改訂2版 わかる・書ける・使える 保育の基本用語』（長島和代編，わかば社） 『改訂2版 わかる・話せる・使える保育のマナーと言葉』（長島和代編，わかば社） 「保育者になりたい人のためのワークブック」（幼児教育学科）							
参考文献								
補足事項	https://drive.google.com/file/d/1xGYQzz1GEUg4aACbB2SDLU4MP8-cGIE-/view?usp=sharing							

科 目 名	保育教養講座		単 位 数	I	授業時間数	30	担当教員	まるはし さとみ 丸 橋 聡美	
ナバ`リング`コード`	SEMI1108		授業形態	講義	実務経験				
授 業 方 式	対面 ・ 遠隔 ・ その他（ ）					アクティブ・ラーニングの実施		有 ・ 無	
授 業 の 内 容	本科目は、保育者に求められる語彙力、読解力、保育の基礎用語、文章表現力を身につけ、保育の実践記録の記入や読み取り、指導計画案の作成、レポートの書き方など演習を通じて学ぶ。グループワーク等に参加し、A L（アクティブ・ラーニング）補習を活用しながら、学習する意欲・態度を身につける。								
到 達 目 標	1．専門科目を理解するための読解力が身についている。 2．保育分野の基礎的な用語を説明できる。 3．実習日誌や指導案作成等の基礎となる文章表現力を身につけている。								
学位授与方針	幼児教育学科（ 1・2 ）地域保育学科（ ）文化表現学科（ ）								
授 業 計 画	第1回	内容	オリエンテーション/保育の実践記録の意義/基本事項/保育の基礎用語/A L補習の説明	予習	シラバスを読んでおく				
				復習	保育記録の意義を理解する。基礎用語を要約する				
	第2回	内容	保育の実践記録の文章表現方法/環境図の書き方/ねらいの立て方	予習	教科書p12～21を読んでおく				
				復習	課題①を覚える。基礎用語の説明を要約する				
	第3回	内容	保育の実践記録の仕方①幼稚園の一日を視聴し、記入する（ICT活用）	予習	幼稚園・保育園の一日の流れを確認する				
				復習	課題②を行い理解する。基礎用語の説明を要約する				
	第4回	内容	保育の実践記録②実習日誌への記入	予習	課題③を読んでおく				
				復習	課題③を行う。				
	第5回	内容	保育の実践記録③解説/保育の基礎用語	予習	課題③を行い、誤字脱字等確認する				
				復習	解説を聞き、課題③の補足をし、記録の仕方を理解する。				
	第6回	内容	保育の実践記録④考察の記録の書き方/保育の基礎用語	予習	教科書p48～50を読む				
				復習	課題④をまとめる。基礎用語の説明を要約する				
	第7回	内容	保育の実践記録⑤エピソード記録の書き方（ICT活用）	予習	教科書p51～57を読む				
				復習	課題⑤を行い、記録の記入の仕方を理解する。				
	第8回	内容	部分実習指導案の立案の手順とポイント/文章表現	予習	教科書p66～を読む				
				復習	指導案の作成の仕方をまとめる				
	第9回	内容	部分実習指導計画①絵本の読解と指導案作成（グループワーク）	予習	子どもの発達にあった絵本を調べ、まとめる				
				復習	教科書p82,83を参考に指導案を完成させる				
	第10回	内容	主活動の指導案作成A①制作ゲーム活動の教材研究（グループワーク）	予習	幼児の遊びゲーム活動を調べる				
				復習	遊びのシートの記入。				
	第11回	内容	主活動の指導案作成A②指導案作成（グループワーク）	予習	遊びのシートを作成し、指導案の立案の仕方を確認する				
				復習	指導案を作成する				
	第12回	内容	主活動の指導案作成A③解説（グループワーク）	予習	指導案の書き方を確認する				
				復習	教科書p84,85を参考に指導案を完成させる				
	第13回	内容	主活動の指導案作成B①制作活動教材研究（グループワーク）	予習	教科書p88,89を読む				
				復習	教材研究、遊びのシートの記入。				
	第14回	内容	主活動の指導案作成B②指導案作成（グループワーク）	予習	指導案を作成するポイントを確認する				
				復習	指導案を完成させる				
	第15回	内容	主活動の指導案作成B③解説・まとめ（グループワーク）	予習	課題プリントを読んでおく				
				復習	計画の重要性と指導案作成について理解する				
	予習に要する学習時間：概ね 20分を目安とする。 復習に要する学習時間：概ね 60分を目安とする。								
	課題へのフィードバック	課題作成後、解説をする							
	成績評価	試験期間における定期試験：実施（ ）する／（○）しない 成績評価の方法：課題（70%）、授業態度【積極的な課題への取組み】（30%）							
教科書	『実習日誌・実習指導案 パーフェクトガイド』（小樫智子編、わかば社） 『幼稚園教育要領』『保育所保育指針』								
参考文献	『改訂版 わかる・書ける・使える 保育の基本用語』（長島和代編、わかば社）								

補足事項	必修科目のため、全員が履修すること。各自意欲をもって取組み、基礎学力の向上を図ること。A L（アクティブ・ラーニング）補習を活用すること。授業内で課題が終わらない場合は期日までに必ず行い終わらせること。 ルーブリック：
------	---

科 目 名	情報機器操作		単 位 数	I	授業時間数	30	担当教員	ほしの おさむ 星野 治
ナンバリングコード	EDT11101		授業形態	講義	実務経験			
授 業 方 式	対面 ・ 遠隔 ・ その他（ ）					アクティブ・ラーニングの実施		有 ・ 無
授 業 の 内 容	Microsoft Office に含まれる事務処理系ソフトウェア群のうち、文書作成用ソフトウェア（Word）、表計算用ソフトウェア（Excel）およびプレゼンテーション用ソフトウェア（PowerPoint）の基本的な取り扱いかたを学ぶ。 第2回～第14回の授業では、相隣り合う2～3コマずつの授業をペアとして進行する。各ペアの前半ではソフトウェアの基本操作を主に講義形式で、同じく後半ではソフトウェアの応用操作を主に自習形式で学びつつ、2～3コマの授業時間を使って1つの課題を仕上げる。							
到 達 目 標	1. 幼児教育・保育の現場での情報メディア活用法を習得している。 2. パソコン初心者は、「覚えるよりも慣れること」の大切さを理解している。 3. パソコン経験者は、「より賢いパソコン活用の仕方」を理解している。							
学位授与方針	幼児教育学科（ 1,3 ）地域保育学科（ ）文化表現学科（ ）							
授 業 計 画	第1回	内容	ガイダンス 情報リテラシー、サインイン・サインアウト、Windows の基礎知識、日本語入力、Gmail、Classroom、その他			予習	シラバスを読んでおく。	
						復習	パソコンの基本操作を確実に行う。	
	第2回	内容	Word の学習(1a) やさしい文書の作成、その他			予習	Word の編集画面の内容を理解する。	
						復習	教科書を用いて入力練習をする。	
	第3回	内容	Word の学習(1b) 表の取り扱い、文章の修飾(フォント、下線、網かけ、レイアウト、等々)、その他			予習	表の取り扱い（Word の場合）について確認する。	
						復習	指定された課題（表付き文書）を作成する。	
	第4回	内容	Word の学習(2a) 文章の修飾（クリップアート、ワードアート、図・画像の挿入、ページ罫線）、その他			予習	文書の基本的な修飾機能について確認する。	
						復習	指定された課題（修飾付き文書）を作成する。	
	第5回	内容	Word の学習(2b) やや高度な文書加工（ページ番号、ヘッダー・フッター、段落、文字列の検索・置換）、その他			予習	文書の応用的な修飾機能について確認する。	
						復習	指定された課題（応用修飾付き文書）を作成する。	
	第6回	内容	Excel の学習(1a) 基本的な表（数表）の作成、その他			予習	Excel の編集画面の内容を理解する。	
						復習	表作成を通して Word の操作との違いを理解する。	
	第7回	内容	Excel の学習(1b) 表（数表）の作成（関数の取り扱い、文字の装飾、行・列の加工、等々）、その他			予習	教科書などを通して組み込み関数を確認する。	
						復習	指定された課題（計算付き数表）を作成する。	
	第8回	内容	Excel の学習(2a) データ処理の応用（条件判定、セル参照、グラフ）、その他			予習	条件判定の指定方法について確認する。	
						復習	指定された課題（条件付き数表）を作成する。	
	第9回	内容	Excel の学習(2b) より高度なデータ処理（簡単なデータベース、フィルタリング）、その他			予習	入力値の並べ替え方法について確認する。	
						復習	指定された課題（入力値の抽出処理）を作成する。	
	第10回	内容	PowerPoint の学習(1) スライド作成の基本（文字入力、スライドの編集(挿入・削除・置換)）、その他			予習	PowerPoint の編集画面の内容を理解する。	
						復習	指定された課題（簡単なスライド）を作成する。	
	第11回	内容	PowerPoint の学習(2) スライド作成の応用（図表・画像の挿入、マルチメディア効果）、その他			予習	スライドの応用的な修飾方法について確認する。	
						復習	指定された課題（前回の成果物の改良）を作成する。	
	第12回	内容	ソフトウェアの応用(1) 長文レポート（鑑賞文など）の作成、その他			予習	各ソフトウェアの基本操作を再確認する。	
						復習	指定された課題（両ソフトの同時利用）を作成する。	
	第13回	内容	ソフトウェアの応用(2) Excel を用いた数学問題の求解、その他			予習	各ソフトウェアの応用操作を再確認する。	
						復習	指定された課題（数学問題の求解など）を作成する。	
	第14回	内容	ソフトウェアの応用(3) Word や Excel を併用したスライドの作成、その他			予習	各ソフトウェアの基本操作を再確認する。	
						復習	指定された課題（授業時に指示する）を作成する。	
		内容	全体のまとめ			予習	これまでの課題全般に目を通しておく。	

	第15回	幼児教育・保育の現場での情報リテラシーに関する各自の 見解のまとめ	復習	授業時に指定された内容のレポートを作成する。
	予習に要する学習時間：概ね90分を目安とする。 復習に要する学習時間：概ね90分を目安とする。			
課題へのフィードバック	提出されたレポート・課題については、必要に応じて改訂増補された成果物の再提出を求める。			
成績評価	試験期間における定期試験：実施（ ）する／（○）しない 成績評価の方法： レポート・課題（50%）、授業態度【積極的参加】（50%）			
教科書	『Windows11 対応 30 時間でマスター Office2024』（実教出版企画開発部、実教出版株式会社）			
参考文献	必要に応じて紹介する。			
補足事項	1. 授業の進行状況に応じて、授業計画の内容を適宜変更する場合がある。 2. パソコンとスマートフォンとは、用途も使い勝手も互いに全く異なるIT機器同士である。スマートフォンの操作はできる反面パソコンに対して苦手意識があるという人は、時間の許す限り、たとえば授業時間外にネットサーフィンを行う等して、パソコンの取り扱いに慣れ親しむようにしてほしい。 3. 本科目のルーブリックを右記リンクに示す。 https://			

科 目 名	英 語		単 位 数	2	授業時間数	6 0	担当教員	なかじま なおき 中 島 尚樹
ナバ`リング`コード`	ENL11101		授業形態	演習	実務経験			
授 業 方 式	対面 ・ 遠隔 ・ その他（							

	第 21 回	内容	Unit 5 What's Wrong with Hitomi? (一般動詞の過去形) [グループワークで会話練習]	予習	テキスト U 5 の Grammar Aid の部分を読む。
				復習	U 5 の Conversation の B を聞いて音読する。
	第 22 回	内容	Unit 11 Hitomi Wants a New Look (接続詞)	予習	テキスト U 11 の Grammar Aid の部分を読む。
				復習	U 11 の Conversation の B を聞いて音読する。
	第 23 回	内容	文法: Wh 疑問文 (疑問詞が主語の場合とそれ以外の場合の Wh 疑問文)	予習	知っている疑問詞をまとめる。
				復習	出てきた疑問詞を整理し、例文を作る。
	第 24 回	内容	Unit 13 I'm Meeting a Friend (疑問詞)	予習	テキスト U 13 の Grammar Aid の部分を読む。
				復習	U 13 の Conversation の B を聞いて音読する。
	第 25 回	内容	文法: 現在進行形 (現在時の動作の進行を表す表現)	予習	プリント 11 の説明を読む
				復習	プリント 11 の練習問題の訳をノートに書く。
	第 26 回	内容	文法: 現在進行形と現在形 (現在進行形と現在形の違い)	予習	プリント 12 の説明部分の例文を訳す。
				復習	現在進行形と現在形の違いについてまとめる。
	第 27 回	内容	文法: 過去進行形 (過去のある時点の動作の進行を表す表現)	予習	プリント 13 の説明部分を読む。
				復習	これまでの単語をまとめ、単語帳を作る。
	第 28 回	内容	Unit 6 It Won't Hurt (進行形) [グループワークで会話練習]	予習	テキスト U 6 の Grammar Aid の部分を読む。
				復習	U 6 の Conversation の B を聞いて音読する。
	第 29 回	内容	Unit 8 Small Talk (未来形)	予習	テキスト U 8 の Grammar Aid の部分を読む。
				復習	これまでの語彙と構文を整理して総復習する。
	第 30 回	内容	まとめ: 一般動詞の過去形、現在・過去進行形など。 (文法問題の練習と英作文)	予習	これまでの構文を整理し、疑問点をまとめる。
				復習	試験に出る英作文を覚える。
予習に要する学習時間: 概ね 15 分を目安とする。 復習に要する学習時間: 概ね 45 分を目安とする。					
課題へのフィードバック	試験は、試験後に解答についての解説をし、達成度に関するコメントを加えます。				
成績評価	試験期間における定期試験: 実施 (○) する / () しない 成績評価の方法: 筆記試験 (90%)、授業態度【積極的な参加や真摯な学習態度】(10%)				
教科書	『書名』(著者名、出版社名) <i>English Aid</i> (Robert Hickling・白倉美里、金星堂)				
参考文献	『書名』(著者名、出版社名)				
補足事項	初回の授業でテキストの音声のダウンロードの仕方を説明しますので、教科書を持参してください。 ループリンク: https://drive.google.com/file/d/16ydJC2lpNzon_m9_Pefn4QcvzTHTIrc2/view?usp=sharing				

科 目 名	英 語		単 位 数	2	授業時間数	6 0	担当教員	まつき ひさこ 松木 久子	
ナンバリングコード	ENL11101		授業形態	演習	実務経験				
授 業 方 式	対面 ・ 遠隔 ・ その他（ ）					アクティブ・ラーニングの実施		有 ・ 無	
授 業 の 内 容	保育現場で必要とされる実践的な英語力を養うことを目的とします。英語の基礎学力と基本的な英語のコミュニケーション能力を身に付けられるように指導します。								
到 達 目 標	1. 保育現場で必要とされる英語の基本的な語彙を理解している。 2. 英語の基本的な文法を理解した上で、簡単な英語の会話がができる。 3. 英語の基礎学力（読む・書く・聞く・話す）が身に付いている。								
学位授与方針	幼児教育学科（ 2・4・5 ）								
授 業 計 画	第1回	内容	オリエンテーション：諸注意と必要事項	予習	シラバスをよく読んでおく				
				復習	1年間の授業流れを確認しておく				
	第2回	内容	挨拶・自己紹介	予習	挨拶・自己紹介について調べまとめておく				
				復習	授業内容をまとめておく				
	第3回	内容	幼稚園や保育所（園）についての英語の単語を理解する	予習	就学前教育に関する英単語を調べておく				
				復習	理解できる・できない単語を明確にしておく				
	第4回	内容	子どもの遊び・遊具・玩具に関する英単語を学ぶ	予習	遊具・玩具に関する英単語を調べておく				
				復習	理解できる・できない単語を明確にしておく				
	第5回	内容	リスニング：世界のおとぎ話（裸の王様・北風と太陽）	予習	日本語で2つの話を読んで、内容を把握する				
				復習	聞き取れる・取れない箇所を明確にしておく				
	第6回	内容	時間・季節・天候についての英単語を学ぶ	予習	時間・季節・天候に関する英単語を調べておく				
				復習	理解できない単語をまとめておく				
	第7回	内容	顔や体の部位ならびに怪我や病気に関する英単語を学ぶ	予習	事前に英単語を調べてまとめておく				
				復習	理解できない単語をまとめておく				
	第8回	内容	DVD鑑賞：日本の昔話（桃太郎等）	予習	日本語で昔話を読んで、内容を確認しておく				
				復習	保育現場で活用できるフレーズをまとめておく				
	第9回	内容	自分の家族や友人について英語で語る	予習	自分の家族や友人について英語でまとめておく				
				復習	英語で述べられるように練習する				
	第10回	内容	動物やペットについての英単語を学ぶ	予習	動物やペットに関する英単語を調べておく				
				復習	理解できる・できない単語を明確にしておく				
	第11回	内容	リスニング：グリム童話（赤ずきん・シンデレラ）	予習	日本語で2つの話を読んで、内容を理解する				
				復習	聞き取れる・取れない箇所を明確にしておく				
	第12回	内容	衣服・食べ物についての英単語を学ぶ	予習	衣服・食べ物についての英単語を調べておく				
				復習	理解できない単語をまとめておく				
	第13回	内容	色・形・数字についての英単語を学ぶ	予習	色・形・数字についての英単語を調べておく				
				復習	理解できない単語をまとめておく				
	第14回	内容	DVD鑑賞：日本の昔話（一休さん等）	予習	日本語で昔話を読んで、内容を把握しておく				
				復習	保育現場で活用できるフレーズをまとめておく				
	第15回	内容	前期授業全体のまとめ	予習	理解できない単語や表現についてまとめておく				
				復習	自分の弱点について明確にしてまとめておく				
	第16回	内容	規則動詞と不規則動詞について学ぶ	予習	保育現場で必要となる動詞について調べておく				
				復習	理解できない単語についてまとめておく				
	第17回	内容	可算名詞と不可算名詞について学ぶ	予習	保育現場で必要とされる名詞について調べる				
				復習	理解できない単語についてまとめておく				
	第18回	内容	保護者に用意してもらう所持品についての英単語を学ぶ	予習	所持品についての英単語を調べておく				
				復習	理解できない単語についてまとめておく				
	第19回	内容	幼児向けDVD・音楽を鑑賞する（1）	予習	地域性とシーンの関係性を調べる				
				復習	保育現場で活用できるフレーズをまとめておく				
	第20回	内容	登園・降園に関する英語表現について学ぶ	予習	登園・降園に関する英単語を調べておく				
				復習	理解できない単語についてまとめておく				

	第 21 回	内容	保育者の仕事に関する英語表現について学ぶ	予習	保育者の仕事について英語で書き出しておく
				復習	理解できない英語表現についてまとめておく
	第 22 回	内容	リスニング：イソップ物語（アリとキリギリス・狼少年）	予習	日本語で 2 つの話を読んで、内容を確認する
				復習	聞き取れる・取れない箇所を明確にしておく
	第 23 回	内容	食べ物に関する英語表現について学ぶ	予習	保育現場における食べ物についてまとめておく
				復習	理解できない単語についてまとめておく
	第 24 回	内容	園への道順・案内や周辺に関する英語表現について学ぶ	予習	道順・案内についての英語表現を調べる
				復習	理解できない英語表現についてまとめておく
	第 25 回	内容	リスニング：アンデルセン童話（おやゆび姫・人魚姫）	予習	日本語で 2 つの童話を読んで、理解しておく
				復習	聞き取れる・取れない箇所をまとめておく
	第 26 回	内容	遠足や園外活動に関する英語表現について学ぶ	予習	交通手段に関する英単語について調べておく
				復習	理解できない英語表現についてまとめておく
	第 27 回	内容	ネイティブの先生との打ち合わせに挑戦してみる	予習	必要とされる英語表現についてまとめておく
				復習	理解できない英語表現についてまとめておく
	第 28 回	内容	幼児向け DVD・音楽を鑑賞する（2）	予習	地域性とシーンとの関連性を調べる
				復習	保育現場で活用できるフレーズをまとめておく
	第 29 回	内容	【発表】自分自身について英語で語ってみる	予習	発表内容を英語でまとめておく
				復習	他の人の内容も踏まえてまとめ直しておく
	第 30 回	内容	全体のまとめと確認	予習	理解できなかった事柄をまとめておく
				復習	保育現場で活用できることについてまとめる
予習に要する学習時間：概ね 90 分を目安とする。 復習に要する学習時間：概ね 90 分を目安とする。					
課題へのフィードバック	小テストを数回にわたって実施し、解答について解説を行い理解度について把握していきます。				
成績評価	試験期間における定期試験：実施（ ）する／（ ○ ）しない 成績評価の方法： 筆記試験（50%）、レポート・課題（20%）、発表（20%）、授業態度【発言の頻度等】（10%）				
教科書	特に指定はしません。 授業中に必要に応じて、資料を配布します。				
参考文献	授業中に必要に応じて、紹介していきます。				
注意事項	わからない・知らない単語は貪欲に辞書を引いて調べてほしいと思います。英語は便利で使い勝手の良い外国語であることを理解してください。				

科 目 名	表現とアート	単 位 数	2	授業時間数	3 0	担当教員	おぐち しおぎき はせがわ 小口・塩崎・長谷川
ナバ'リング'コード'	ART11101	授業形態	講義	実務経験			
授 業 方 式	対面 ・ 遠隔 ・ その他（ ）				アクティブ・ラーニングの実施		有 ・ 無
授 業 の 内 容	領域「表現」に関する、乳幼児期の特徴を捉え、乳幼児の感性や創造性を豊かにする表現遊びや音環境、造形表現の効果的な使い方について学ぶ。また、総合的な表現をグループで検討・実践することで、保育者として必要な知識・技能やコミュニケーション力を高め、豊かな感性と表現力を身に付ける。さらに ICT を活用し、スマートフォンやタブレット端末を使用し、コメントや評価など双方向型授業も行う。						
到 達 目 標	1. 見る・聴く・動く・作るなどの様々な表現を楽しむことを通して、イメージを豊かにすることができている。 2. 生活の中での出来事を、様々な素材を生かして表現することができる。 3. それぞれの表出・表現を受け止め、表現する過程を工夫し、より楽しめるよう発展させることができている。 4. 他者を受け入れ、互いに共感あう活動を通して、表現の楽しさの要因についての知識を深め、生かすことができている。						
学位授与方針	幼児教育学科（ 2・5 ） 地域保育学科（ ） 文化表現学科（ ）						
授 業 計 画	第1回	内容	オリエンテーション：総合的な表現について理解する。	予習 復習	領域「表現」のねらいの箇所を読んでくる 本時の課題の確認と準備をする		
	第2回	内容	発表の方法を理解し、グループの意見を集約して共通テーマに沿った構成を考える。	予習 復習	テーマに沿った作品構成を考え、課題用紙に記入する テーマに沿った歌や動き、造形についてまとめる。		
	第3回	内容	テーマに合った表現を考えグループごとに発表内容を構成用紙に入力する。	予習 復習	テーマにあった表現方法を考える。 授業内の話し合いを確認しながら、発表内容の概要をまとめる		
	第4回	内容	テーマにあった動きを考え、グループ創作する。創作した作品を動画で撮影し、振り返りに活用する。	予習 復習	テーマに合わせた身体表現の題材について考えてくる 本時の活動を動画にまとめる		
	第5回	内容	音や音楽の表現の効果について理解し、グループごとに計画をする。	予習 復習	音楽表現の仕方について考え、ノートに記入する 本時の内容についてノートにまとめ、音楽を扱うことを理解する		
	第6回	内容	大道具、小道具などについての視覚的表現効果について理解し、グループごとに計画をする。	予習 復習	造形物制作の道具、材料について調べ理解しておく 発表内容に合わせた制作分担について共有しておく		
	第7回	内容	発表内容に合わせ、身体表現や音楽表現、造形表現を工夫し、全体の流れを動画や画像で記録する（ICTの活用）。	予習 復習	発表内容の概要をふまえ、身体表現や音楽、造形表現の案を考えたり、関連する楽曲を調べたりする 動画を確認し、身体表現や音楽表現の方法をノートにまとめ、動画を活用しながら練習する（ICTの活用）		
	第8回	内容	リハーサル（第1回）	予習 復習	発表の内容を確認し、練習する 各自で振り返り、修正箇所を考える		
	第9回	内容	リハーサル（第1回）をふまえ、表現内容の修正点などについて検討する。道具などの作成を進める。	予習 復習	発表の修正箇所をまとめる 検討した内容をノートにまとめる		
	第10回	内容	表現の再検討をふまえ、発表内容をブラッシュアップして最終案を検討する。	予習 復習	練習のスケジュールを考える 本時の動画等を活用しながら練習する（ICTの活用）		
	第11回	内容	リハーサル（第2回）	予習 復習	前時までの内容を確認し、発表の進行について理解を深める 表現内容の修正点とその理由をノートにまとめる		
	第12回	内容	発表会の準備：発表会の運営について理解し、計画する。	予習 復習	前時までの授業内容を確認し、表現内容の修正案を考える 本時の動画等を活用しながら練習する（ICTの活用）		
	第13回	内容	発表会	予習 復習	最終案を確認し、自分の役割を覚える 発表の振り返りをふまえ、総合的な表現の要点をノートにまとめる		
	第14回	内容	振り返り：発表会を振り返り、グループディスカッションをする。	予習 復習	前時までのノートを確認し、総合的な表現についてまとめておく グループ討議をふまえ、総合的な表現の意義について、ノートにまとめる		
	第15回	内容	まとめ：発表作品を動画にまとめる（グループ活動）	予習 復習	発表作品を動画にまとめる素材を考える 各グループの動画作品を見て感想を記入する		
	予習に要する学習時間：概ね 20 分を目安とする。 復習に要する学習時間：概ね 25 分を目安とする。						
課題へのフィードバック	学生の振り返りにコメントをする。 作品について、指導、講評を行う。						
成績評価	試験期間における定期試験：実施（ ）する／（○）しない						

	成績評価の方法： 筆記試験（ ）、レポート・課題（10%）、作品・発表（ 40%）、実技（30%）、授業態度【積極的参加】（20%）
教科書	『遊んで育て！表現の力—保育で使える活動例と指導法』（塩崎みづほ・小口偉・長谷川恭子、推敲舎）
参考文献	『書名』（著者名、出版社名）
補足事項	活動しやすい服装で参加してください。 人数を50名定員とします。超えた場合は、抽選などで調整をする場合があります。 塩崎（15回）、小口（15回）、長谷川（15回） ループリック評価：https://drive.google.com/file/d/1sa8eQcxUcZVV_Czhd-kQQcIXa0LDT3Tn/view?usp=sharing

科 目 名	データサイエンス		単 位 数	2	授業時間数	3 0	担当教員	ほしの おさむ 星野 治	
ナンバリングコード	STS11101		授業形態	演習	実務経験				
授 業 方 式	対面 ・ 遠隔 ・ その他（ ）					アクティブ・ラーニングの実施		有 ・ 無	
授 業 の 内 容	本授業では、教科書を通してデータサイエンスの基本を学習するとともに、パソコンの表計算ソフトウェアを使用して実在データ（学外事業体が公開提供している集計データなど）の数値処理業務の一端を模擬的に体験し、情報リテラシー（情報倫理や情報セキュリティなどを前提とする、業務上の判断能力）の在りかたを具体的に考察する。 この授業は各年度一年生（学科不問）向けの科目として開講されるが、在学生（二年生以上／学科不問）も履修することができる。								
到 達 目 標	1. テキスト読解やデータ処理演習を通して、データが内包する様々な情報の意味を理解できる。 2. パソコンを積極的に活用する作業について、その利便性や問題点を理解できる。 3. 今後の社会に必要とされる基本的な数理的思考や、データの分析・活用ができる。								
学位授与方針	幼児教育学科（ 3,4,5 ）地域保育学科（ ）文化表現学科（ ）								
授 業 計 画	第1回	内容	ガイダンス：ようこそデータサイエンスへ	予習	シラバスを読み、授業全体の流れを把握する。				
				復習	教科書第1章の内容を再度精読して理解し、授業全体の学習に向けた心構えを行う。				
	第2回	内容	A I にサポートされる社会	予習	教科書第2章を通読する。				
				復習	教科書第2章の内容を再度精読し理解する。				
	第3回	内容	情報をめぐる世の中の潮流	予習	教科書第3章を通読する。				
				復習	教科書第3章の内容を再度精読し理解する。				
	第4回	内容	広がるデータ活用の幅	予習	教科書第4章を通読する。				
				復習	教科書第4章の内容を再度精読し理解する。				
	第5回	内容	A I 開発の歴史といま	予習	教科書第5章を通読する。				
				復習	教科書第5章の内容を再度精読し理解する。				
	第6回	内容	情報倫理とセキュリティ	予習	教科書第6章を通読する。				
				復習	教科書第6章の内容を再度精読し理解する。				
	第7回	内容	データの種類とその活用	予習	教科書第7章を通読する。				
				復習	教科書第7章の内容を再度精読し理解する。				
	第8回	内容	データリテラシー （パソコンを用いた数値処理演習①）	予習	教科書第8章を通読する。				
				復習	教科書第8章の内容を再度精読し理解する。				
	第9回	内容	データの収集と視覚化 （パソコンを用いた数値処理演習②）	予習	教科書第9章を通読する。				
				復習	教科書第9章の内容を再度精読し理解する。				
	第10回	内容	データの解析方法 （パソコンを用いた数値処理演習③）	予習	教科書第10章を通読する。				
				復習	教科書第10章の内容を再度精読し理解する。				
	第11回	内容	情報の利活用と方法	予習	教科書第11章を通読する。				
				復習	教科書第11章の内容を再度精読し理解する。				
	第12回	内容	A I による生活のアップデート	予習	教科書第12章を通読する。				
				復習	教科書第12章の内容を再度精読し理解する。				
	第13回	内容	A I による社会のアップデート	予習	教科書第13章を通読する。				
				復習	教科書第13章の内容を再度精読し理解する。				
	第14回	内容	秩序あるデータの重要性	予習	教科書第14章を通読する。				
				復習	教科書第14章の内容を再度精読し理解する。				
	第15回	内容	全体のまとめ：これからの学びに向けて	予習	教科書第15章を通読する。				
				復習	教科書第15章の内容を再度精読して理解し、情報リテラシーに関する今後の学びに備える。				
	予習に要する学習時間：概ね25分を目安とする。 復習に要する学習時間：概ね25分を目安とする。								
	課題へのフィードバック	授業開講期間中、授業内容に関するリアクションペーパーを作成し提出する。 授業開講期間中、実在の集計データに対する統計処理を行い、その処理結果から得られる解釈・考察の内容をレポート化する。 授業開講期間中、履修者全員に対してスクーリング（面談）を実施し、学修状況の確認などを行う。							
	成績評価	試験期間における定期試験：実施（ ）する／（ ○ ）しない 成績評価の方法： レポート・課題（75%）、授業態度【積極的参加】（25%）							
教科書	『大学基礎 データサイエンス』（伊藤大河ほか、実教出版株式会社）								
参考文献	必要に応じて紹介する。								
補足事項	1. この授業は、学修計画に余裕のある在学生も履修できる（実習期間中の授業の開講については別途指示する）。 2. 数値処理演習では、Microsoft Excel を利用する。 3. 上記「授業計画」の内容は、授業の実際の進行具合などに応じて、適宜変更されることがある。 4. 担当教員の業務都合などの理由により授業の開講日時が変更される場合、教務課の掲示板やポータルサイト等にて通知する。 5. 本科目のルーブリックを右記リンクに示す。 https://								

科 目 名	S D G s 入門		単 位 数	2	授業時間数	3 0	担当教員	ほしの きたの 星野・北野他
ナバ`リング`コード`	SES1101		授業形態	講義	実務経験			
授 業 方 式	対面 ・ 遠隔 ・ その他（ ）					アクティブ・ラーニングの実施		有 ・ 無
授 業 の 内 容	この授業は、所属学科を問わず、誰でも履修することができる。 SDGs（Sustainable Development Goals／日本語訳「持続可能な開発目標」）の具体的な内容の学習を通して、日本および世界の現状を知るとともに、社会の一員としての自己啓発意識を育てる。この授業では全 17 個ある目標のうち、特に本学の学生に必要な 14 個の目標について学ぶ。							
到 達 目 標	1．SDGs の提唱意義および内容を理解している。 2．SDGs への理解を通して、日本および世界の現状を見抜く洞察力を習得している。 3．SDGs の学習を通して、社会人としての自覚を持ち、社会への貢献に係る考察力を身に付けている。							
学位授与方針	幼児教育学科（ 3,4,5 ）地域保育学科（ ）文化表現学科（ ）							
授 業 計 画	第 1 回	内容	総論（授業の進め方、MDGs から SDG へ、SDGs 制定の歴史的背景、MDGs と SDGs の相違、その他）【北野・星野】	予習	シラバスに目を通しておく。			
				復習	授業の目的を理解する。			
	第 2 回	内容	目標 6：すべての人々に水と衛生へのアクセスと持続可能な管理を確保する【北野】	予習	SDGs の「目標 6」について概要を把握する。			
				復習	配布資料などを通して授業内容を理解する。			
	第 3 回	内容	目標 2：飢餓に終止符を打ち、食料の安定確保と栄養状態の改善を達成するとともに、持続可能な農業を推進する【橋本】	予習	SDGs の「目標 2」について概要を把握する。			
				復習	配布資料などを通して授業内容を理解する。			
	第 4 回	内容	目標 3：あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保し、福祉を推進する【関】	予習	SDGs の「目標 3」について概要を把握する。			
				復習	配布資料などを通して授業内容を理解する。			
	第 5 回	内容	目標 4：すべての人々に包摂的かつ公平で質の高い教育を提供し、生涯学習の機会を促進する【伊澤】	予習	SDGs の「目標 4」について概要を把握する。			
				復習	配布資料などを通して授業内容を理解する。			
	第 6 回	内容	目標 5：ジェンダーの平等を達成し、すべての女性と女児のエンパワーメントを図る【信田】	予習	SDGs の「目標 5」について概要を把握する。			
				復習	配布資料などを通して授業内容を理解する。			
	第 7 回	内容	目標 7：すべての人々に手ごろで信頼でき、持続可能かつ近代的なエネルギーへのアクセスを確保する【北野】	予習	SDGs の「目標 7」について概要を把握する。			
				復習	配布資料などを通して授業内容を理解する。			
	第 8 回	内容	目標 1：あらゆる場所のあらゆる形態の貧困を終わらせる【加賀谷】	予習	SDGs の「目標 1」について概要を把握する。			
				復習	配布資料などを通して授業内容を理解する。			
	第 9 回	内容	目標 8：すべての人々のための持続的、包摂的かつ持続可能な経済成長、生産的な完全雇用およびディーセント・ワークを推進する【信田】	予習	SDGs の「目標 8」について概要を把握する。			
				復習	配布資料などを通して授業内容を理解する。			
	第 10 回	内容	目標 12：持続可能な消費と生産のパターンを確保する【北野】	予習	SDGs の「目標 12」について概要を把握する。			
				復習	配布資料などを通して授業内容を理解する。			
	第 11 回	内容	目標 14：海洋と海洋資源を持続可能な開発に向けて保全し、持続可能な形で利用する【中村】	予習	SDGs の「目標 14」について概要を把握する。			
				復習	配布資料などを通して授業内容を理解する。			
	第 12 回	内容	目標 15：陸上生態系の保護、回復および持続可能な利用の推進、森林の持続可能な管理、砂漠化への対処、土地劣化の阻止および逆転、ならびに生物の多様性損失の阻止を図る【中村】	予習	SDGs の「目標 15」について概要を把握する。			
				復習	配布資料などを通して授業内容を理解する。			
	第 13 回	内容	目標 13：気候変動とその影響に立ち向かうため、緊急対策を取る【北野】	予習	SDGs の「目標 13」について概要を把握する。			
				復習	配布資料などを通して授業内容を理解する。			
第 14 回	内容	目標 11：都市と人間の居住地を包摂的、安全、レジリエントかつ持続可能にする【河崎】	予習	SDGs の「目標 11」について概要を把握する。				
			復習	配布資料などを通して授業内容を理解する。				
第 15 回	内容	目標 16：持続可能な開発に向けて平和で包摂的な社会を推進し、すべての人に司法へのアクセスを提供するとともに、あらゆるレベルにおいて効果的で責任ある法制的な制度を構築する【渡辺】 総括（全体のまとめ、その他）【北野・星野】	予習	SDGs の「目標 16」について概要を把握する。				
			復習	これまでの全配布資料などを通して授業全体を理解するとともに、今後の履修者自身の SDGs への貢献について考察する。				
予習に要する学習時間：概ね 6 0 分を目安とする。 復習に要する学習時間：概ね 1 2 0 分を目安とする。								
課題へのフィードバック	毎回の授業におけるリアクションペーパー等の記述および提出（詳細は各回の担当教員が指示する）を通して、SDGs 全般への理解を深める。							

成績評価	試験期間における定期試験：実施（ ）する／（○）しない 成績評価の方法： レポート・課題（５０％）、授業態度【積極的参加】（５０％）
教科書	必要に応じて紹介する。
参考文献	必要に応じて紹介する。
注意事項	１． 本科目は、複数の教員が共同担当するオムニバス形式の対面授業として開講する。担当教員は取り扱うテーマごとに異なる。 ２． 2025（令和7）年度開講分の担当教員[授業担当コマ数]は次のとおりである（担当順。各教員の担当授業回は「授業計画」欄を参照）。 北野大[6]、橋本洋子[1]、関維子[1]、伊澤永修[1]、信田理奈[2]、加賀谷崇文[1]、中村陽一[2]、河崎由美子[1]、渡辺演久[1]、星野治[2] ３． リアクションペーパーとは別に、追加の課題が出題されることがある（詳細は、各授業の担当教員の指示に従うこと）。 ４． 本科目のルーブリックを右記リンクに示す。 https://

科 目 名	心理学入門		単 位 数	2	授業時間数	30	担当教員	いとう あきよし 伊藤 明 芳	
ナンバリングコード	PSY3111		授業形態	講義	実務経験				
授 業 方 式	対面 ・ 遠隔 ・ その他（ ）					アクティブ・ラーニングの実施		有 ・ 無	
授 業 の 内 容	本講義では、発達を中心に心理学の領域全般を概観し、心理学の基礎的知識の習得と将来の社会生活や職場で活かせる基本的な心理学の考え方の育成を図ることを目的とする。								
到 達 目 標	1. 心理学の基礎的知識を正確に習得している。 2. 心理学的に社会の事象を考えられる。 3. 学んだ知識を自己の社会生活に活かすことができる。								
学位授与方針	幼児教育学科（ ）地域保育学科（ ）文化表現学科（1,2,3）								
授 業 計 画	第1回	内容	イントロダクション	予習	シラバスを読んでおく。				
				復習	講義の過程と内容を理解する。				
	第2回	内容	心理学とは何か	予習	心理学について調べる。				
				復習	心理学の概要を整理する。				
	第3回	内容	生理心理学	予習	生理心理学について調べる。				
				復習	特に脳と心の関係を整理する。				
	第4回	内容	人格心理学	予習	人格心理学について調べる。				
				復習	パーソナリティーの成り立ちを整理する。				
	第5回	内容	認知心理学	予習	認知心理学について調べる。				
				復習	心的過程を整理する。				
	第6回	内容	ディスカッション1(心の機能)	予習	各自の発表の観点を整理しておく。				
				復習	新たに得た知見をまとめる。				
	第7回	内容	発達心理学①(親子関係)	予習	親子の絆を考える。				
				復習	親子関係の理論を整理・理解する。				
	第8回	内容	発達心理学②(ライフサイクル)	予習	発達心理学について調べる。				
				復習	発達段階と発達課題について整理する。				
	第9回	内容	学習心理学	予習	学習心理学について調べる。				
				復習	学習の形態を整理する。				
	第10回	内容	ディスカッション2(心の発達)	予習	ディスカッション2(心の発達)				
				復習	新たに得た知見をまとめる。				
	第11回	内容	臨床心理学①(心の基礎理論)	予習	臨床心理学について調べる。				
				復習	臨床心理学の考え方を整理する。				
	第12回	内容	臨床心理学②(心理療法の考え方とその過程)	予習	心理療法について調べる。				
				復習	各心理療法の特徴を整理する。				
	第13回	内容	社会心理学	予習	社会心理学について調べる。				
				復習	代表的な社会心理学の考え方を整理する。				
	第14回	内容	ディスカッション③(心の理解と対応)	予習	各自の発表の観点を整理しておく。				
				復習	新たに得た知見をまとめる。				
	第15回	内容	まとめと今後へのアドバイス	予習	これまで学んだことを振り返っておく。				
				復習	学んだことを今後活かせるように心がける。				
	予習に要する学習時間：概ね90分を目安とする。 復習に要する学習時間：概ね90分を目安とする。								
	課題へのフィードバック	講義の中で発表やレポートについての講評をおこなっていく。							
	成績評価	試験期間における定期試験：実施（○）する 成績評価の方法： 筆記試験（40%）、レポート・課題（60%）							
教科書	特に指定しない。								
参考文献	講義の中で必要に応じて適宜紹介する。								
補足事項	講義とディスカッションを中心におこなう。実際の事例などをあげ、受講生にわかりやすい内容を心がけたい。その他、受講生と教員の双方でのやり取りも活発におこないたい。受講者には自ら学び考える意欲をもって授業に参加し発言する態度が求められる。								

科 目 名	海外研修（外国の文化を知る）		単 位 数	2	授業時間数	30	担当教員	し のはら 志濃原 他
ナバ`リング`コード`	CUL11101		授業形態	演習	実務経験			
授 業 方 式	対面 ・ 遠隔 ・ その他（ ）				アクティブ・ラーニングの実施		有 ・ 無	
授 業 の 内 容	海外において異文化に触れ、体験をすることにより、グローバルな視点を養い、異文化の理解を深める。また、ライフステージにおいて将来経験するであろう保育・教育・福祉等の分野の施設に訪問し、異文化・多文化の人達とのコミュニケーションをとる力を高めることを目的とする。 日本とは異なる環境、制度を理解し、自分自身の目標達成のために必要な手続きや対処（海外への渡航時や滞在時において、自分自身の安全や健康を守るための知識や対処法を身につける）ができるようになる。							
到 達 目 標	1. 異文化に触れ、日本との違いを理解することができる 2. コミュニケーション能力を高め、グローバルな視点で社会をみることができる 3. 研修先施設の人々との交流を通じて、異文化を理解できる。							
学位授与方針	幼児教育学科（ 1、2 ）地域保育学科（ 1、2、5 ）文化表現学科（ 1、2 ）							
授 業 計 画	第1回	内容	オリエンテーション	予習	シラバスを確認する			
				復習	渡航場所、日程、パスポート等の確認をする			
	第2回	内容	事前学習1（語学基礎・簡単な挨拶）	予習	渡航先の語学について調べる			
				復習	学んだ単語等を覚える			
	第3回	内容	事前学習2（文化施設の学習）	予習	渡航先の文化について調べる			
				復習	訪問先の文化施設の概要をまとめる			
	第4回	内容	事前学習3（訪問施設の学習）	予習	訪問先について確認する			
				復習	施設の制度等についてまとめる			
	第5回	内容	最終確認等（渡航手続き、現地情報、必要な書類等の確認）	予習	手続きの確認			
				復習	現地の情報や気候、持ち物等の確認をする			
	第6回	内容	渡航先にてプログラムに基づいた研修	予習	集合時間・持ち物等の確認			
				復習	次のプログラムの準備			
	第7回	内容	渡航先にてプログラムに基づいた研修	予習	集合時間・持ち物等の確認			
				復習	次のプログラムの準備			
	第9回	内容	渡航先にてプログラムに基づいた研修	予習	集合時間・持ち物等の確認			
				復習	次のプログラムの準備			
	第10回	内容	渡航先にてプログラムに基づいた研修	予習	集合時間・持ち物等の確認			
				復習	次のプログラムの準備			
	第11回	内容	渡航先にてプログラムに基づいた研修	予習	集合時間・持ち物等の確認			
				復習	翌日の準備			
	第12回	内容	渡航先にてプログラムに基づいた研修	予習	集合時間・持ち物等の確認			
				復習	研修のまとめをする			
	第13回	内容	事後学習1（まとめ）	予習	レポートや動画をもとに研修を振り返る			
				復習	グループ発表に向けた準備			
	第14回	内容	事後学習2（グループ発表）	予習	グループ発表の準備			
				復習	グループ発表をもとに動画や口頭で発表できるようまとめる			
	第15回	内容	成果報告1（口頭発表・動画発表）	予習	作成した動画の確認			
				復習	発表および研修全体のふりかえり			
	予習に要する学習時間：概ね90分を目安とする。 復習に要する学習時間：概ね90分を目安とする。							
課題へのフィードバック	レポートや動画作成について授業内、その他の時間においてフィードバックを行う							
成績評価	試験期間における定期試験：実施（ ）する／（○）しない 成績評価の方法：筆記試験（ ）％、レポート・課題（60％）、作品・発表（30％）、実技（ ）％、授業態度【研修先での積極的な学び】（10％）							
教科書	なし							
参考文献	適宜紹介する							
補足事項	・渡航前の授業の日程および教室に関しては、掲示等により告知するので、常に注意すること。 ・プログラムで予定される最小催行人数に満たない場合は、研修が実施されない場合があり							

	・研修先は韓国の文化施設、森の幼稚園、韓国環境教育館を予定している。（オーストラリアは調整中）研修先によって渡航時期ならびに学習内容が異なるため、各学科の担当教員から情報を得ること。 ・研修費用を徴収するが、渡航費・訪問先のプログラム等により異なる。初回の授業で連絡するため、必ず参加すること。なお履修生には本学から渡航のための補助がある。
--	--

科 目 名	保育原理Ⅰ		単 位 数	2	授業時間数	30	担当教員	こやま れいこ 小山 玲子	
ナバ`リング`コード`	EDUI2101		授業形態	講義	実務経験				
授 業 方 式	対面 ・ 遠隔 ・ その他（ ）				アクティブ・ラーニングの実施		有 ・ 無		
授 業 の 内 容	「保育とは何か」といった疑問から、保育の歴史・制度・保育内容などの知識を習得し、その中で保育の意義、原理、原則を理解していく。 また、保育所の社会的役割、保育ニーズ、健やかな子どもの成長を育む保育について検討する。保育所実習につながるよう考える・話し合う・調べる・演じる・発表する等、受講生の能動的な取り組みを取り入れた授業を行う。								
到 達 目 標	1. 保育の意義及び目的、保育に関わる法令や制度を理解している。 2. 保育所保育指針における保育の基本を説明できる。 3. 他者と対話を重ねながら主体的に学ぶ方法を身につけている。								
学位授与方針	幼児教育学科（ 1.2.3.5 ）地域保育学科（ ）文化表現学科（ ）								
授 業 計 画	第1回	内容	保育の意味と意義	予習	シラバス及び教科書の目次を読む				
				復習	配布プリントの課題を行う				
	第2回	内容	子どもを取り巻く環境の変化とは グループ討議	予習	教科書第2章を通読する				
				復習	子どもにとっての環境を考える				
	第3回	内容	西洋の保育の歴史と思想①	予習	フレーベルについて調べる				
				復習	保育の思想と理論をまとめる				
	第4回	内容	西洋の保育の歴史と思想②	予習	モンテッソーリについて調べる				
				復習	保育の思想と理論をまとめる				
	第5回	内容	西洋の保育の歴史と思想③ 日本の保育の歴史と思想①	予習	レッジョ・エミリア市の保育について調べる				
				復習	プロジェクト活動とは何かをまとめる				
	第6回	内容	日本の保育の歴史と思想②	予習	倉橋惣三について調べる				
				復習	日本の保育の歴史をまとめる				
	第7回	内容	保育の歴史ミニテスト・保育環境とは	予習	第3～6回の授業の復習を行う				
				復習	ミニテストの振り返りを行う				
	第8回	内容	環境構成の意義	予習	保育所保育指針・幼稚園教育要領における環境の捉え方を調べる				
				復習	物的環境に込められた保育者の願い、人的環境としての保育者、環境構成をまとめる				
	第9回	内容	保育における「子ども理解」	予習	保育指針における発達の捉え方を理解する				
				復習	子どもの発達と関わり方を理解する				
	第10回	内容	保育の内容、保育の方法・形態	予習	保育内容・方法・形態について調べる				
				復習	配布プリントを読み直し復習をする				
	第11回	内容	保育園における二つの子育て支援	予習	子ども・子育て支援制度について調べる				
				復習	配布プリントに要点をまとめる				
	第12回	内容	保育の現状と課題 グループワーク	予習	保育の現状と課題について調べる				
				復習	グループワークのまとめを行う				
	第13回	内容	保育者の専門性	予習	教科書第13章保育者の専門性を通読する				
				復習	保育者の専門性を理解する				
	第14回	内容	諸外国の保育の現状と課題 グループワーク	予習	興味のある国の保育について調べる				
				復習	諸外国の保育の現状と課題をまとめる				
	第15回	内容	保育原理での学びを振り返る	予習	全配布プリントをまとめ、読み込む				
				復習	第1～15回の授業で学んだことを整理する				
	予習に要する学習時間：概ね90分を目安とする。 復習に要する学習時間：概ね90分を目安とする。								
	課題へのフィードバック	課題や発表に関しては確認後、授業内で補足説明や解説講義を行う。							
	成績評価	試験期間における定期試験：実施（ ）する／（ ○ ）しない 成績評価の方法：筆記試験…ミニテスト・確認テスト（50%）、レポート・課題（20%）、授業態度【積極的参加】（30%）							
教科書	『書名』（著者名、出版社名）『最新 保育原理』（上中修編著、教育情報出版）								
参考文献	『書名』（著者名、出版社名）『幼稚園教育要領』（文部科学省、フレーベル館）『保育所保育指針』（厚生労働省、フレーベル館）								
補足事項	保育園勤務保育士・園長によるゲスト講義を行う。（予定） https://drive.google.com/file/d/1Lo9fTLz1t89L4SJ3NKJZrCOHc0KrEfbv/view?usp=sharing								

科 目 名	保育原理Ⅱ		単 位 数	2	授業時間数	30	担当教員	こやま れいこ 小山 玲子
ナンバリングコード	EDUI2102		授業形態	講義	実務経験			
授 業 方 式	対面 ・ 遠隔 ・ その他（ ）				アクティブ・ラーニングの実施		有 ・ 無	
授 業 の 内 容	保育所保育指針や子ども子育て支援新制度等の成立過程や実際の運営状況を通じて、保育の原理や制度、現在の課題を深く理解する。 保育の質の向上、保育者の専門性を高める意義を学び、実践につながるようグループ討議・グループワークを行う等、受講生の能動的な取り組みを取り入れた授業を行う。保育とは何か、保育施設で大切にしたいこと、求められていることを考える。							
到 達 目 標	1. 保育所保育指針や子ども子育て支援制度の背景と課題を証明できる。 2. 保育学の論文の読み方や作り方を理解している。 3. 保育の現状と課題について説明できる。							
学位授与方針	幼児教育学科（ 1・2・3・4・5 ）地域保育学科（ ）文化表現学科（ ）							
授 業 計 画	第1回	内容	オリエンテーション グループ討議		予習	シラバス・保育者の役割を考える		
			子ども理解・保育で大切にすることを考える		復習	保育原理Ⅱを学ぶ理由を配布プリントに記入		
	第2回	内容	保育の現状と課題① 調査学習		予習	自分の発表テーマを考える		
					復習	パワーポイント作成		
	第3回	内容	保育の現状と課題② 調査学習 グループワーク		予習	パワーポイント作成		
					復習	パワーポイント発表の準備を行う		
	第4回	内容	保育の現状と課題③ 発表 グループワーク		予習	パワーポイント発表の準備を行う		
					復習	保育原理Ⅱで学んだことをまとめる		
	第5回	内容	安全に関する配慮①		予習	子どもの安全等について調べる		
					復習	配布プリントの課題を行う		
	第6回	内容	安全に関する配慮② グループワーク		予習	教科書第12章の通読		
					復習	配布プリントの課題を行う		
	第7回	内容	絵本・紙芝居の活用 グループワーク		予習	授業で紹介する絵本・紙芝居を選び読む練習を行う		
					復習	配布プリントにまとめを記入する		
	第8回	内容	クラス便りの概要・活用方法・作成		予習	保育所で活用している事例を調べる		
					復習	クラス便りを作成する		
	第9回	内容	クラス便り作成		予習	クラス便りの作成		
					復習	クラス便りの完成(次回の授業提出)		
	第10回	内容	クラス便りの発表 グループワーク		予習	クラス便り発表の準備		
					復習	配布プリントにまとめを記入する		
	第11回	内容	食育・アレルギー対応、他職種との連携		予習	保育所保育指針の第3章の通読		
					復習	配布プリントの課題を行う		
	第12回	内容	保護者対応・連絡帳 グループワーク		予習	テキスト第2章・第9章3節の通読		
					復習	配布プリントの課題を行う		
	第13回	内容	子どもの主体性を大切にした保育①		予習	教科書第5章の通読		
					復習	配布プリントにまとめを記入する		
	第14回	内容	子どもの主体性を大切にした保育② グループワーク		予習	保育所保育指針の第2章の通読		
					復習	配布プリントにまとめを記入する		
	第15回	内容	保育の専門性と質の向上 最終レポート課題作成		予習	教科書第13章、配布プリントの通読		
					復習	保育の質の向上に向けた取組についてまとめる		
	予習に要する学習時間：概ね 分を目安とする。 復習に要する学習時間：概ね 分を目安とする。							
	課題へのフィードバック	課題や発表に関しては確認後、授業内で補足説明や解説講義を行う。						
成績評価	試験期間における定期試験：実施（ ）する／（○）しない 成績評価の方法： レポート・課題・作品・発表（60%）、授業態度【積極的参加】（40%）							
教科書	『書名』（著者名、出版社名） 『最新 保育原理』（上中修編著、教育情報出版） 『保育所保育指針』（厚生労働省、フレーベル館）							
参考文献	『書名』（著者名、出版社名） 『幼稚園教育要領』（文部科学省、フレーベル館）							
補足事項	保育学をより深く学びたい学生を対象とする。 外部講師(おもちゃアドバイザー・保育者)のゲスト講演を行う。(予定) https://drive.google.com/file/d/10zcS85rc3jqQ_2eoRtrBbCJdjPceqoN0/view?usp=sharing							

科 目 名	教育原理		単 位 数	2	授業時間数	3 0	担当教員	まつき ひさこ 松木 久子	
ナバ`リング`コード`	EDUI2103		授業形態	講義	実務経験				
授 業 方 式	対面 ・ 遠隔 ・ その他（ ）				アクティブ・ラーニングの実施		有 ・ 無		
授 業 の 内 容	なぜ人間にとって教育が必要なのかという問題を中心として、教育を受けることや学校に通えるということを当たり前のことと考えずに、改めて教育や学校について考えるための基礎的な課題を提供します。また、就学前教育が成立してきた歴史を振り返りながら、今後の将来的な展望や自分なりの教育観や保育観を形成していくために必要と思われる事柄についても提供していきます。								
到 達 目 標	1. なぜそもそも人間にとって教育が必要なのか、ということを理解でき説明できる。 2. 教育や学校の可能性や限界について理解でき説明できる。 3. 自分なりの教育観や保育観について、説明することができる。								
学位授与方針	幼児教育学科（ 1・3・4 ）								
授 業 計 画	第1回	内容	オリエンテーション：諸注意と必要事項について	予習	教育や学校について自分の考えをまとめておく				
				復習	必要事項についてまとめておく				
	第2回	内容	教育原理を学ぶということ	予習	教科書に指定箇所を熟読し、まとめておく				
				復習	理解したことについてまとめる				
	第3回	内容	生涯教育と生涯学習について	予習	教科書の指定箇所を読んでまとめておく				
				復習	さらに自分で詳しく調べてみる				
	第4回	内容	教育の可能性と限界について	予習	教科書の指定箇所を熟読しておく				
				復習	理解したことについてまとめる				
	第5回	内容	教育の語義と意義	予習	教科書の指定箇所を読んでまとめておく				
				復習	自分で興味をもったことについて調べる				
	第6回	内容	学校の誕生とその歩み	予習	自分の学校体験についてまとめておく				
				復習	理想の学校のあり方についてまとめる				
	第7回	内容	世界の子どもたちの環境を知る（1）	予習	該当する国々の特徴を調べまとめておく				
				復習	理解したことを詳しくまとめる				
	第8回	内容	世界の子どもたちの環境を知る（2）	予習	該当する国々の文化的背景についてまとめる				
				復習	さらに興味をもったことについて調べておく				
	第9回	内容	近代学校の成立とその性格	予習	近代という時代について調べまとめておく				
				復習	義務教育の意義についてまとめる				
	第10回	内容	戦争と教育について考える（1）	予習	第二次世界大戦について調べまとめておく				
				復習	新たに理解したことをまとめる				
	第11回	内容	戦争と教育について考える（2）	予習	戦争に翻弄される人間についてまとめておく				
				復習	理解したことについてさらに調べまとめる				
	第12回	内容	世界や日本の教育思想について学ぶ	予習	教育思想について調べまとめておく				
				復習	自分の興味のある教育思想家についてまとめる				
	第13回	内容	世界や日本の教育制度について学ぶ	予習	日本の教育制度について調べまとめておく				
				復習	世界と日本の教育制度についてまとめる				
	第14回	内容	幼児教育制度の成立と発展について学ぶ	予習	幼稚園や保育所の歴史について調べておく				
				復習	理解したことをまとめる				
	第15回	内容	全体のまとめと確認	予習	教育や学校について全体と通してまとめる				
				復習	さらに興味のあることについて調べまとめる				
予習に要する学習時間：概ね90分を目安とする。 復習に要する学習時間：概ね90分を目安とする。									
課題へのフィードバック	数回にわたって小エッセイを課し、小テストや中間テストを実施し、学生の理解度を把握したいと思います。								
成績評価	試験期間における定期試験：実施（ ）する／（ ○ ）しない 成績評価の方法：筆記試験（50%）、レポート・課題（30%）、授業態度【発言などの頻度等】（20%）								
教科書	『教育原理』（林邦雄・谷田貝公昭〔監修〕、大沢裕〔編著〕、一藝社）								
参考文献	必要に応じて授業中に適宜、紹介していきます。								
補足事項	自分で主体的に課題を発見し、いろいろなことについて調べ、日頃から手書きで文章を書くことに慣れていってほしいと思います。								

科 目 名	子ども家庭福祉	単 位 数	2	授業時間数	30	担当教員	し の は ら あ み 志 濃 原 亜 美
ナバ`リング`コード`	SWSI210I	授業形態	講義	実務経験			
授 業 方 式	対面 ・ 遠隔 ・ その他 ()			アクティブ・ラーニングの実施		有 ・ 無	
授 業 の 内 容	子ども家庭福祉の歴史の変遷と現代社会における子ども家庭福祉の意義を理解する。そのうえで、子どもと家庭に関する福祉の制度や実施体系など具体的なことを学ぶ。 また、少子化・母子保健・児童虐待・社会的養護・障がいのある児童の対応などをはじめとする子ども家庭福祉の現状と課題について理解し、特に子ども家庭福祉と保育の関連性や子どもの権利擁護などについて理解を深める。						
到 達 目 標	1. 子どもや家庭に関する法や施設など基本的なことが理解できる。 2. 子どもをとりまく問題についての理解を深めたうえで、それらの早期発見の方法や解決への道筋を知ることができる。 3. 子どもの権利擁護について理解できる。						
学位授与方針	幼児教育学科 (1,3) 地域保育学科 () 文化表現学科 ()						
授 業 計 画	第1回	内容	オリエンテーション（授業の概要の説明、持ち物確認、履修上の注意、自己紹介、授業を受けるに当たっての心構えについての確認等）	予習	シラバスを読んでおく		
				復習	この科目で習得すべき内容を理解し、持ち物を確認する		
	第2回	内容	子ども家庭福祉に関する法律①（児童福祉法の概要）	予習	児童福祉法のプリントの穴埋めを完成させる		
				復習	児童福祉法についてのおおまかな理解をする。		
	第3回	内容	子ども家庭福祉に関する法律②（児童福祉法の具体的内容）	予習	児童福祉法のプリントの穴埋めを完成させる		
				復習	児童福祉法の具体的な内容を理解する		
	第4回	内容	子どもに関する権利思想の流れ	予習	子どもの権利についてのプリントの穴埋めを完成させる		
				復習	子どもの権利思想の流れを理解する		
	第5回	内容	子ども家庭福祉の歴史①（明治期）	予習	子ども家庭福祉の歴史のプリントの穴埋めを完成させる		
				復習	明治期における子ども家庭福祉の歴史を理解する		
	第6回	内容	子ども家庭福祉の歴史②（明治期から戦前）	予習	子ども家庭福祉の歴史のプリントの穴埋めを完成させる		
				復習	明治期から戦前にかけての子ども家庭福祉の歴史を理解する		
	第7回	内容	V T R（澤田美喜物語・・・福祉施設創設者の物語）課題感想文	予習	今まで習った子ども家庭福祉に関する法や歴史を概観する		
				復習	課題：感想文を書く		
	第8回	内容	福祉専門職としての保育士	予習	福祉専門職としての保育士のプリントの穴埋めを完成させる		
				復習	児童福祉法等に明記されている保育士について理解する		
	第9回	内容	児童福祉施設及び里親の概要①（施設の種類）	予習	児童福祉施設のプリントの穴埋めを完成させる		
				復習	児童福祉施設の種類を覚える		
	第10回	内容	児童福祉施設及び里親の概要②（施設の目的）	予習	児童福祉施設のプリントの穴埋めを完成させる		
				復習	児童福祉施設や里親の目的を理解する		
	第11回	内容	子ども家庭福祉の行政機関（児童相談所を中心に）	予習	児童相談所の業務や相談内容についての穴埋めプリントを完成させる		
				復習	児童相談所の業務や相談内容について理解する		
	第12回	内容	児童虐待①（児童虐待の種類、法制度）	予習	児童虐待の種類。法制度の穴埋めプリントを完成させる		
				復習	児童虐待の種類や法制度を理解する		
	第13回	内容	児童虐待②（児童虐待の実例）	予習	児童虐待の実例についての穴埋めプリントを完成させる		
				復習	児童虐待の実例についてまとめる		
	第14回	内容	小テスト、V T R（子どもの貧困）	予習	小テストに向けての学習		
				復習	小テストで出題された個所の確認		
	第15回	内容	小テスト返却、解説、まとめ	予習	V T Rの感想文を書く		
				復習	子ども家庭福祉とはなにかをまとめる		
	予習に要する学習時間：概ね90分を目安とする。 復習に要する学習時間：概ね90分を目安とする。						
課題へのフィードバック	小テストの解説と返却、レポートの返却を行います						

成績評価	試験期間における定期試験：実施（ ）する／（○）しない 成績評価の方法：筆記試験（55%）、レポート・課題（35%）、作品・発表（ %）、実技（ %）、授業態度【積極的参加】（10%）
教科書	『新 保育ライブラリ 子ども家庭福祉』（植木信一編著、北大路書房）
参考文献	『保育・福祉小六法 2026 年版』（保育福祉小六法編集委員会著、みらい）
補足事項	普段から新聞・ニュースその他のメディアを通して子ども家庭福祉の問題や課題について関心をもつこと。教員が作成したプリントを整理するためのファイルを用意しておくこと

科 目 名	社会福祉		単 位 数	2	授業時間数	30	担当教員	し の は ら あ み 志濃原 亜美
ナバ`リング`コード`	SWS12102		授業形態	講義	実務経験			
授 業 方 式	対面 ・ 遠隔 ・ その他（ ）				アクティブ・ラーニングの実施		有 ・ 無	
授 業 の 内 容	この授業では、福祉専門職である保育士が学ぶべき社会福祉の基礎的な知識を習得することをねらいとする。子どもの福祉のみならず、現代社会のニーズに即したあらゆる人々のウェルビーイング（福祉）をいかに実現させるかという視点に立ち広い視野で社会福祉について学ぶ。							
到 達 目 標	1. 保育と社会福祉の関係がわかる。 2. わが国の社会福祉の制度がわかる 3. 現代の社会問題がわかる							
学位授与方針	幼児教育学科（ 1,3 ）地域保育学科（ ）文化表現学科（ ）							
授 業 計 画	第1回	内容	オリエンテーション（授業の概要の説明、持ち物確認、履修上の注意、自己紹介、授業を受けるに当たっての心構えについての確認等）	予習	シラバスを読んでおく			
				復習	この科目で習得すべき内容を理解し、持ち物を確認する			
	第2回	内容	保育と社会福祉（私たちが暮らす社会と保育をめぐる社会問題	予習	社会問題、社会構造のプリントの穴埋めを完成させる			
				復習	社会問題、社会構造について理解をする。			
	第3回	内容	社会福祉の概念①（社会福祉の意味、定義）	予習	社会福祉の意味、定義のプリントの穴埋めを完成させる			
				復習	社会福祉意味や定義を理解する			
	第4回	内容	社会福祉の概念②（社会福祉の理念、社会福祉の構造等）	予習	社会福祉の理念、構造のプリントの穴埋めを完成させる			
				復習	社会福祉の理念等についての理解を深める			
	第5回	内容	社会保障の概念と体系（我が国における社会保障の概念）	予習	社会保障のプリントの穴埋めを完成させる			
				復習	社会保障の概念をしっかりと理解する			
	第6回	内容	社会保険①（社会保険制度の概要）	予習	社会保険制度のプリントの穴埋めを完成させる			
				復習	社会保障制度についての全体像を理解する			
	第7回	内容	社会保険②（医療保険、年金保険、介護保険、労働保険）	予習	社会保険のプリントの穴埋めを完成させる			
				復習	具体的な社会保険の種類や性格を理解する			
	第8回	内容	公的扶助①（公的扶助の概要、公的扶助と社会保険の違い）	予習	公的扶助のプリントの穴埋めを完成させる			
				復習	公的扶助の概要の理解及び前回の社会保険との違いを明確にする			
	第9回	内容	公的扶助②（生活保護の原理と原則、保護施設、その他の低所得者施策）	予習	公的扶助のプリントの穴埋めを完成させる			
				復習	公的扶助について具体的に理解する			
	第10回	内容	高齢者福祉	予習	高齢者福祉のプリントの穴埋めを完成させる 中間レポート提出準備			
				復習	高齢者福祉施策を理解する			
	第11回	内容	障がい者福祉	予習	障がい者福祉のプリントの穴埋めを完成させる			
				復習	障がい者福祉施策を理解する			
	第12回	内容	相談援助の意味と方法①（保育士に求められるソーシャルワーク、ソーシャルワークの意味と原則、）	予習	相談の意味と方法についての穴埋めプリントを完成させる			
				復習	相談援助を理解する			
	第13回	内容	相談援助の意味と方法②（ソーシャルワークの視点、ソーシャルワークに貢献した人）	予習	ソーシャルワークに関する穴埋めプリントを完成させる			
				復習	ソーシャルワークについて理解する			
	第14回	内容	小テスト、VTR（諸外国の福祉）、感想文	予習	小テストに向けての学習			
				復習	小テストで出題された個所の確認			
	第15回	内容	小テスト返却、まとめ	予習	VTRの感想文を書く			
				復習	社会福祉とはなにかをまとめる			
予習に要する学習時間：概ね 90分を目安とする。 復習に要する学習時間：概ね 90分を目安とする。								
課題へのフィードバック	小テストの返却と解説、レポートの返却を行います							
成績評価	試験期間における定期試験：実施（ ）する／（○）しない 成績評価の方法： 筆記試験（55%）、レポート・課題（35%）、作品・発表（ %）、実技（ %）、授業態度【積極的参加】（10%）							
教科書	『みらい×子ども福祉ボックス 社会福祉』（志濃原亜美編著、(株)みらい）							

参考文献	『書名』（著者名、出版社名）
補足事項	

科 目 名	子ども家庭支援論	単 位 数	2	授業時間数	3 0	担当教員	せき ゆいこ 関 維子
ナバ`リング`コード`	SWS12201	授業形態	講義	実務経験			
授 業 方 式	対面 ・ 遠隔 ・ その他（ ）				アクティブ・ラーニングの実施		有 ・ 無
授 業 の 内 容	近年、子どもを取り巻く環境の変化に伴い、子育て家庭の課題やニーズも多様になっている。保育者には子どもの育ちと家庭における子育てを支える幅広い役割と実践力が求められている。この授業では、子どもと家庭、地域の3つの視点から子ども家庭支援の意義と役割について理解し、保育の専門性を活かした支援の方法や支援体制について具体的に学ぶ。						
到 達 目 標	1. 子育て家庭に対する支援の意義と目的について説明できる。 2. 保育の専門性を活かした子ども家庭支援の基本について理解している。 3. 子育て家庭のニーズに応じた多様な支援の展開と関係機関との連携について理解している。						
学位授与方針	幼児教育学科（ 1・3 ）地域保育学科（ ）文化表現学科（ ）						
授 業 計 画	第1回	内容	授業ガイダンス	予習	シラバスを読む		
			子ども家庭支援の意義と目的	復習	子ども家庭支援の意義と目的についてまとめる		
	第2回	内容	子ども家庭支援の内容と対象	予習	「保育所保育指針」第1章を読む		
			現代社会における家庭と子育ての状況	復習	保育を必要とする状況についてまとめる。		
	第3回	内容	子ども家庭支援の歴史的変遷	予習	児童福祉法の成立の経緯について調べる。		
				復習	児童福祉法における理念についてまとめる。		
	第4回	内容	子ども家庭支援の理念	予習	字度の権利に関する条約について調べる。		
			児童の権利に関する条約、児童憲章	復習	「最善の利益」についてまとめる。		
	第5回	内容	保育者に求められる基本的態度	予習	保育士倫理綱領を読む		
			グループワーク	復習	専門職倫理についての考えをまとめる		
	第6回	内容	子ども家庭支援に関する法制度①	予習	「社会資源」の定義について調べる。		
				復習	社会資源の分類についてまとめる		
	第7回	内容	子ども家庭支援に関する法制度②	予習	子ども家庭支援に係る法律について調べる。		
				復習	子ども家庭支援に係る法律についてまとめる。		
	第8回	内容	保育の場における子ども家庭支援①	予習	「保育所保育指針解説」第4章2を読む		
			子ども・保護者が抱えるニーズへの多面的理解	復習	「ニーズ」の定義についてまとめる。		
	第9回	内容	保育の場における子ども家庭支援②	予習	バイステックの7原則について調べる。		
			保護者との相互理解と信頼関係	復習	傾聴と共感についてまとめる。		
	第10回	内容	家庭の状況に応じた支援①	予習	外国にルーツのある子どもについて調べる。		
			特別な配慮を必要とする子どもと家庭に対する支援	復習	子どもの貧困についてまとめる。		
	第11回	内容	家庭の状況に応じた支援②	予習	要対協について調べる。		
			要保護児童およびその家庭への支援	復習	要保護児童・要支援児童・特定妊婦についてまとめる		
	第12回	内容	児童福祉施設における子ども家庭支援①	予習	乳児院・児童養護施設の機能について調べる		
			乳児院・児童養護施設	復習	乳児院・児童養護施設が行う子ども家庭支援についてまとめる。		
	第13回	内容	児童福祉施設における子ども家庭支援②	予習	母子生活支援施設の機能について調べる。		
			母子生活支援施設	復習	母子生活支援施設が行う子ども家庭支援についてまとめる。		
	第14回	内容	地域の資源の活用と自治体・関係機関等との連携	予習	子ども家庭支援に関する地域資源を調べる		
				復習	関係機関との連携についてまとめる		
	第15回	内容	子ども家庭支援の現状と課題	予習	教科書や配布資料、ノートを読み返す		
			授業の振り返りとまとめ	復習	授業で学んだことを振り返りまとめる		
予習に要する学習時間：概ね90分を目安とする。 復習に要する学習時間：概ね90分を目安とする。							
課題へのフィードバック	課題等については授業でフィードバック及び講評を行う。						
成績評価	試験期間における定期試験：実施（ ）する／（○）しない 成績評価の方法：筆記試験（ ）、レポート・課題（60%）、作品・発表（ ）、実技（20%）、授業態度【 積極的参加 】（20%）						
教科書	『演習 子育て支援 実践から深める支援のまなざしと専門性』（隣谷正範，教育情報出版）						
参考文献	『保育所保育指針解説』（厚生労働省）						

	『ひと目でわかる保育者のための子ども家庭福祉データブック 2026』（全国保育士養成協議会，中央法規）
補足事項	教科書は後期の「子育て支援」の授業でも使用する。

科 目 名	子ども家庭支援論		単 位 数	2	授業時間数	30	担当教員	まんだう あきお 萬 燈 章 雄	
ナバ' リング' コード'	SWS12201		授業形態	講義	実務経験				
授 業 方 式	対面 ・ 遠隔 ・ その他（ ）				アクティブ・ラーニングの実施			有 ・ 無	
授 業 の 内 容	かつては支援する側（社会資源）だった「家庭」だが、現在は脆弱化した家庭・家族を包括してこどもを支援していくという考え方に変化してきた。その家庭観の変遷や支援のあり方について学習する。特に子どもにとって最も身近な存在である保育士としてはその専門性を生かし、適切に養育される権利を有する子どもの目線で家庭を考えていく必要がある。後半では具体的に事例を交えて家庭へのアプローチを考察していきたい。								
到 達 目 標	1. これまでの社会状況と家庭支援のあり方の変遷について学習し、その意義と役割について理解している。 2. 地域における多様な支援の展開と子ども家庭支援の現状、課題について学習し、関係機関の役割を含め、家庭を支援するプロセスや様々な手段、方法について理解している。 3. 事例を通じて、それぞれの家庭のニーズに応じた多様な支援の展開と対応が理解できている。								
学位授与方針	幼児教育学科（ 2・3 ） 地域保育学科（ ） 文化表現学科（ ）								
授 業 計 画	第1回	内容	オリエンテーション			予習	シラバスを読んでくこと		
			考えてみよう！家族のカタチ <双方向アンケートによる>			復習	家庭の定義についてまとめる		
	第2回	内容	地域社会の変容と家庭支援について 家庭機能の弱まりと家庭支援の必要性			予習	日本の高度成長期ついて調べる		
						復習	「家庭機能」の変遷についてまとめる		
	第3回	内容	少子高齢化のもたらす影響について			予習	「失われた 20 年」について調べてみる		
						復習	少子化のもたらす問題についてまとめる		
	第4回	内容	次世代育成支援施策の経緯 現在の子ども子育て支援策概要			予習	地域が行う育児相談資源について調べる		
						復習	子育て支援施策の変遷についてまとめる		
	第5回	内容	地域の子ども子育て支援策① 保育園と幼稚園・認定こども園など			予習	「待機児童」について調べてみる		
						復習	保育の変遷についてまとめる		
	第6回	内容	地域の子ども子育て支援策② 小規模保育事業・地域子育て支援事業など			予習	子育て支援センターについて調べてみる		
						復習	地域子育て支援事業についてまとめる		
	第7回	内容	児童虐待問題と家庭支援 認識のない保護者と SOS の出せない子ども			予習	最近の虐待事件について調べてみる		
						復習	虐待相談の構造についてまとめる		
	第8回	内容	児童虐待対策関連事業と母子保健事業			予習	地域での虐待対応策について調べてみる		
						復習	虐待対策関連事業についてまとめる		
	第9回	内容	保育所と地域支援① 保育所入所家庭への支援 <双方向アンケートによる>			予習	保育所運営指針を調べる		
						復習	保育所の機能についてまとめる		
	第10回	内容	保育所と地域支援② 保育所での地域の家庭支援 <双方向アンケートによる>			予習	こども家庭支援センターについて調べる		
						復習	地域での保育所の役割についてまとめる		
	第11回	内容	家庭支援とソーシャルワーク 家庭支援を実践していくための専門技術概要			予習	相談の対処方法について考えてみる		
						復習	ソーシャルワークの援助体系についてまとめる		
	第12回	内容	ソーシャルワークの実践 面接の基本と SFA の紹介など <双方向アンケートによる>			予習	面接技法について調べる		
						復習	面接の基本についてまとめる		
	第13回	内容	誰のための家庭支援か 保護者対応と虐待について <双方向アンケートによる>			予習	虐待について今一度復習する		
						復習	子ども目線での対応についてまとめる		
	第14回	内容	不適切養育と地域サービスの事例 地域における家族支援の実例 <双方向アンケートによる>			予習	養育支援訪問事業について調べる		
						復習	機関連携についてまとめる		
	第15回	内容	子どもの権利擁護と今後の家庭支援のあり方について 最終まとめ <双方向アンケートによる>			予習	これまでの内容を今一度振り返る		
						復習	今後の家庭支援のあり方についてまとめる		
予習に要する学習時間：概ね60分を目安とする。 復習に要する学習時間：概ね120分を目安とする。									
課題へのフィードバック	この授業はオンデマンド方式の遠隔授業です。毎回、コメントペーパー提出または理解度チェック小テストを実施します。コメントペーパーはそれぞれに意見、評価をつけて返却します。								
成績評価	試験期間における定期試験：実施（ ）する／（○）しない 成績評価の方法： 筆記試験（ ）％、レポート・課題（70％）、作品・発表（ ）％、実技（ ）％、授業態度【積極性等 】（30％）								
教科書	なし								
参考文献	子ども家庭支援論（太田光洋 編著 同文書院 2022.11.15） 他、適宜必要に応じて紹介します。								
補足事項	各回配布する動画と資料をきちんとチェックして、焦らず面倒がらずに課題に取り組んでいただくことを希望します。								

科 目 名	社会的養護Ⅰ		単 位 数	2	授業時間数	30	担当教員	し の は ら あ み 志濃原 亜美
ナバ`リング`コード`	SWSI2103		授業形態	講義	実務経験			
授 業 方 式	対面 ・ 遠隔 ・ その他 ()				アクティブ・ラーニングの実施		有	無
授 業 の 内 容	社会福祉、児童家庭福祉の中の社会的養護の位置を理解し、特に施設における日常生活援助、施設における専門職について学びを深める。また、施設保育士の専門性と特別な配慮を要する子どもや家庭への援助について学び、さらに施設の中で行われるリービングケア、アフターケアなどの現状についても学習する。							
到 達 目 標	1. 施設養護の体系や援助過程について理解できる 2. レジデンシャル・ソーシャルワークの視点から施設保育士の専門性、特別な配慮を要する子どもへの援助や保護者への相談の在り方など理解できる 3. 子どもの権利擁護について理解し、実践で役立てることができる。							
学位授与方針	幼児教育学科 (1.3) 地域保育学科 () 文化表現学科 ()							
授 業 計 画			オリエンテーション（授業の概要の説明、持ち物確認、履修上の注意、自己紹介、授業を受けるに当たっての心構えについての確認等）	予習	シラバスを読んでおく			
	第1回	内容		復習	この科目で習得すべき内容を理解し、持ち物を確認する			
	第2回	内容	社会的養護の理念と意義	予習	社会的養護の理念のプリントの穴埋めを完成させる			
				復習	社会的養護の理念や意義についてのおおまかな理解をする。			
	第3回	内容	子どもの権利と社会的養護	予習	子どもの権利のプリントの穴埋めを完成させる			
				復習	子どもの権利の具体的な内容を理解する			
	第4回	内容	保育士の倫理・責務	予習	倫理・責務についてのプリントの穴埋めを完成させる			
				復習	保育士の職務上の意倫理や責務について理解する			
	第5回	内容	社会的養護の制度と実施体系①（施設養護の制度）	予習	社会的養護の制度のプリントの穴埋めを完成させる			
				復習	施設養護の制度を理解する			
	第6回	内容	社会的養護の制度と実施体系②（移設養護の実施体系）	予習	社会的養護の実施体系のプリントの穴埋めを完成させる			
				復習	社会的養護の実施体系を理解する			
	第7回	内容	VTR（ぶどうの木・・・里親に関する内容）課題感想文	予習	今まで習った社会的養護の学びを概観する			
				復習	課題：感想文を書く			
	第8回	内容	施設養護にかかわる専門職士	予習	施設養護の専門職のプリントの穴埋めを完成させる			
				復習	施設養護の専門職について理解する			
	第9回	内容	施設養護の実際①（アドミッションケアとインケア）	予習	施設養護の実際のプリントの穴埋めを完成させる			
				復習	それぞれの用語について理解を深める			
	第10回	内容	施設養護の実際②（リービングケアとアフターインケア）	予習	施設養護の実際のプリントの穴埋めを完成させる			
				復習	それぞれの用語について理解を深める			
	第11回	内容	子育て困難家庭の実際と支援	予習	子育て困難家庭と支援についての穴埋めプリントを完成させる			
				復習	子育て困難家庭について知り、その支援を理解する			
	第12回	内容	DVケースと児童虐待へのソーシャルワークについて視点①（DVケース）	予習	DVの種類。法制度の穴埋めプリントを完成させる			
				復習	DVの種類や法制度を理解する			
	第13回	内容	DVケースと児童虐待へのソーシャルワークについて視点①（児童虐待ケース）	予習	児童虐待ケースについての穴埋めプリントを完成させる			
				復習	児童虐待へのソーシャルワークについてまとめる			
	第14回	内容	小テスト、VTR（施設に関するもの）	予習	小テストに向けての学習			
				復習	小テストで出題された個所の確認			
	第15回	内容	小テスト返却、解説、まとめ	予習	VTRの感想文を書く			
				復習	社会的養護の枠組みをまとめる			
予習に要する学習時間：概ね 90分を目安とする。 復習に要する学習時間：概ね 90分を目安とする。								

課題へのフィードバック	小テストの解説と返却、レポートの返却を行います	
成績評価	試験期間における定期試験：実施（ ）する／（ ○ ）しない 成績評価の方法： 筆記試験（55%）、レポート・課題（ 35%）、作品・発表（ %）、実技（ %）、授業態度【 】（10 %）	
教科書	『よりそい支える社会的養護Ⅰ』（監修中山正雄/編著浦雅夫、教育情報出版）	
参考文献	『福祉・保育小六法 2025』（みらい）	
補足事項	特別なケアを要する子どもについての書籍等を積極的に読むこと レポート課題があります。	

科 目 名	社会的養護Ⅱ		単 位 数	I	授業時間数	30	担当教員	し の は ら あ み 志濃原 亜美
ナバ`リング`コード`	SWS12202		授業形態	演習	実務経験			
授 業 方 式	対面 ・ 遠隔 ・ その他（ ）				アクティブ・ラーニングの実施		有 ・ 無	
授 業 の 内 容	施設養護や里親など社会的養護の実際について学び、社会的養護における児童の権利擁護や保育士等社会福祉施設従事者の倫理について、また、ソーシャルワークの技術など専門的技術などを体系的に理解する。 さらに、個々に応じた支援計画の作成、記録の書き方、自己評価についても具体的に学ぶ。							
到 達 目 標	1.今まで学んできた社会福祉関連の知識や施設実習で学んだ施設の実態などを話し合いや発表等の方法で表現できる。 2.自ら考え、発表し、問題意識を持つことで、社会的養護に関わる人や施設利用者について総合的に考える力を身につけている。 3.施設養護の体系や援助過程について説明できる。							
学位授与方針	幼児教育学科（1, 2, 3, 5 ）地域保育学科（ ）文化表現学科（ ）							
授 業 計 画	第1回	内容	オリエンテーション	予習	シラバスの確認			
				復習	講義概要を理解する			
	第2回	内容	施設実習を振り返って	予習	施設実習の振り返りをする			
				復習	実習と授業を結びつける			
	第3回	内容	障がいを持つ人の生活実態（VTR）	予習	各種別の施設についての復習をする			
				復習	感想文を書く			
	第4回	内容	障がいを持つ人のせいのか実態のビデオな内容についてグループ討議	予習	感想文を振り返る			
				復習	グループ討議を振り返る			
	第5回	内容	グループ決め、およびディスカッション	予習	施設の種別を振り返る			
				復習	ディスカッションの内容をまとめる			
	第6回	内容	テーマ設定	予習	テーマ設定の材料の準備をする			
				復習	テーマの吟味をする			
	第7回	内容	グループレポート作成	予習	レポートの下書きをする			
				復習	レポートの清書をする			
	第8回	内容	グループ活動①（調査）	予習	テーマに応じた調査を開始する			
				復習	テーマに応じた調査を継続する			
	第9回	内容	グループ活動②（調査・制作）	予習	テーマに応じた調査の継続と制作の準備をする			
				復習	制作の準備をする			
	第10回	内容	中間報告	予習	中間報告の準備をする			
				復習	中間報告を踏まえた最終制作に取り掛かる			
	第11回	内容	グループ発表③（制作）	予習	制作の準備を進める			
				復習	最終確認			
	第12回	内容	発表レジメ提出	予習	発表レジメの下書きをする			
				復習	発表レジメの清書をする			
	第13回	内容	発表準備、確認、動画作成	予習	発表準備、及び動画の作成準備をする			
				復習	最終確認をする			
	第14回	内容	グループ発表①	予習	発表準備をする			
				復習	まとめをする			
	第15回	内容	グループ発表②、まとめ	予習	発表準備をする			
				復習	まとめをする			
	予習に要する学習時間：概ね30分を目安とする。 復習に要する学習時間：概30分を目安とする。							
	課題へのフィードバック	提出物の返却、発表の講評などによるフィードバックを行う						
成績評価	試験期間における定期試験：実施（ ）する／（ ○ ）しない 成績評価の方法： レポート・課題（30%）、作品・発表（50%）、授業態度（積極的参加）（20%）							
教科書	『社会的養護Ⅰ・Ⅱ演習ブック』（中島健一朗他、ミネルヴァ書房）							
参考文献	『福祉・保育小六法2025年版』（保育福祉小六法編集委員会著、みらい）							
補足事項	演習を中心とする。普段から児童問題に関心を持ち、主体的に授業に参加すること。							

科 目 名	社会的養護Ⅱ		単 位 数	I	授業時間数	30	担当教員	まんどう あきお 萬 燈 章 雄
ナバ`リング`コード`	SWSI2202		授業形態	演習	実務経験			
授 業 方 式	対面 ・ 遠隔 ・ その他（ ）							
授 業 の 内 容	社会的養護を必要としている子どもたちの現状と支援について学ぶ。実践力を学習できるよう事例研究を通して支援の方法を考えていきたい。また、支援するスタッフとしてどのような姿勢で望むことが必要なのか、倫理や責務についても学ぶ。処遇の結論よりもそれを導き出していくプロセスに重点を置いて学習する。							
到 達 目 標	1. アセスメントから支援方法まで事例を通してそのプロセスを理解している。 2. 様々なケースに応じてどのように対応していくのかを理解している。 3. より困難な場面でも、社会的養護に携わる保育士の職務と倫理に従い行動できることを身につけている。							
学位授与方針	幼児教育学科（ 2・3 ）地域保育学科（ ）文化表現学科（ ）							
授 業 計 画	第1回	内容	オリエンテーション～	予習	シラバスに目を通しておくこと			
			演習1 ある施設に就職した友人の愚痴	復習	事例検討の方法についてまとめる			
	第2回	内容	演習2 障害児と母親の気持ち	予習	障害児者施設体系について調べる			
			「障害受容」についての考察	復習	障害受容についてまとめる			
	第3回	内容	演習3 障害児の処遇事例（学校・学童）	予習	障害者の権利条約について調べる			
			本人のこだわりと周囲のストレス。折り合いの付け方など	復習	障害児の自立支援についてまとめる			
	第4回	内容	演習4 ジェノグラムとエコマップ	予習	家族図について調べる			
				復習	ジェノグラムとエコマップについてまとめる			
	第5回	内容	講義 「アタッチメント」について考える	予習	ジョン・ボウルビィについて調べる			
				復習	愛着の形成についてまとめる			
	第6回	内容	演習5 被虐待児への支援について（保育所・幼稚園）	予習	虐待のサインについて調べる			
			虐待の発見と対応	復習	愛着障害についてまとめる			
	第7回	内容	演習6 乳児院の生活と措置変更（乳児院）	予習	社会的養護に必要な施設について調べる			
			乳児院での処遇において大切なものとは	復習	「措置変更」についてまとめる			
	第8回	内容	演習7 日常生活支援（児童養護施設）	予習	「親子分離」について調べる			
			入所支援。アドミッションケアについて	復習	施設入所時の子ども支援についてまとめる			
	第9回	内容	演習8 日常生活支援（児童養護施設）	予習	様々な施設の日課について調べてみる			
			インケアについて（ルールと日課）	復習	ルールと日課のあり方についてまとめてみる			
	第10回	内容	演習9 日常生活支援（児童養護施設）	予習	養護施設の入所事由について調べてみる			
			愛着に課題のある子の処遇について	復習	処遇困難に子への対処方法についてまとめる			
	第11回	内容	演習10 自立支援計画について（児童養護施設）Ⅰ	予習	情報の共有について調べる			
			事例の情報を整理する<事前学習型授業>	復習	事例についてアセスメントしてみる			
	第12回	内容	演習11 自立支援計画について（児童養護施設）Ⅱ	予習	ケース事例について、課題を整理してみる			
			自立支援計画を作成する<事前学習型授業>	復習	自立支援計画についてまとめてみる			
	第13回	内容	演習10 家族関係調整事例（児童養護施設）FSWの仕事	予習	ファミリーソーシャルワーカーについて調べる			
			なかなか約束通りに面会に来ない保護者事例	復習	関係諸機関との連携についてまとめてみる			
	第14回	内容	ビデオ学習 施設からの自立支援について	予習	リービングケアについて調べる			
				復習	スタッフの支援内容について振り返る			
	第15回	内容	講義 まとめ 子どもの目線に対応することとは	予習	子どもの権利条約について調べる			
			子どもの権利擁護について	復習	子どもの権利擁護についてまとめてみる			
	予習に要する学習時間：概ね15分を目安とする。 復習に要する学習時間：概ね30分を目安とする。							
	課題へのフィードバック	原則、事例ごとに全員課題についての意見など記載してコメントペーパーとして提出していただき講師の所見や感想などと評価をつけて返却していきます。また、ご自分の考えなど発表していただいて授業を進めていきます。<双方向アンケートによる>						
成績評価	試験期間における定期試験：実施（ ）する／（○）しない 成績評価の方法： 筆記試験（ ）、レポート・課題（50％）、作品・発表（20％）、実技（ ）、授業態度【積極性】（30％）							
教科書	『書名』（著者名、出版社名） なし							
参考文献	『書名』（著者名、出版社名） 「社会的養護Ⅱ」 相澤 仁・村井美紀・大竹 智編 中央法規 その他授業中に紹介します。							
補足事項	基本事例も含めプリント資料配布で授業を進めます。この授業は考える課程に授業の目的がありますので、授業マナーを守り意見発表や質問など積極的な参加を評価します。授業の準備など都合により内容が前後することがあります。							

科 目 名	保育者論		単 位 数	2	授業時間数	3 0	担当教員	まつき ひさこ 松木 久子	
ナバ`リング`コード`	EDUI2104		授業形態	講義	実務経験				
授 業 方 式	対面 ・ 遠隔 ・ その他（ ）					アクティブ・ラーニングの実施		有 ・ 無	
授 業 の 内 容	保育者を目指すことで最も大切なことであり、また大変なことと思われる実習に向けて、実践的な事柄から学び、自分なりの保育観や実習に対する心構えや目標をもつことができるように指導していきます。さらに、実習における実習日誌への記載に慣れる意味で、手書きで文章が書けるように練習できる内容を提供していきます。								
到 達 目 標	１． 実習のあり方について理解ができる ２． 保育者としての基本的な態度を身に付ける必要性について説明できる ３． 実習において、何を学ぶべきかが理解できる								
学位授与方針	幼児教育学科（ Ⅰ・Ⅲ・Ⅳ ）								
授 業 計 画	第 1 回	内容	オリエンテーション：諸注意と必要事項の説明	予習	保育者になるという意味を考えまとめておく				
				復習	必要事項について理解したことをまとめる				
	第 2 回	内容	幼稚園実習について学ぶ	予習	幼稚園についてまとめておく				
				復習	教育実習の意義についてまとめる				
	第 3 回	内容	幼稚園と保育所（園）の違いについて考える	予習	就学前教育について調べまとめておく				
				復習	違いや共通性について詳しくまとめる				
	第 4 回	内容	幼稚園教諭の仕事と役割について考える	予習	教育・指導するということについてまとめる				
				復習	理解したことを詳しくまとめる				
	第 5 回	内容	保育士の仕事と役割について考える	予習	保育するという意味についてまとめておく				
				復習	理解したことを詳しくまとめる				
	第 6 回	内容	3 歳児の特徴について理解する	予習	3 歳児について調べまとめておく				
				復習	理解したことをさらに調べまとめる				
	第 7 回	内容	4 歳児の特徴について理解する	予習	4 歳児について調べまとめておく				
				復習	理解したことをさらに調べまとめる				
	第 8 回	内容	5 歳児の特徴について理解する	予習	5 歳児について調べまとめておく				
				復習	理解したことをさらに調べまとめる				
	第 9 回	内容	保育の安全と事故防止について学ぶ	予習	安全や事故防止について調べまとめておく				
				復習	理解したことをまとめる				
	第 10 回	内容	実習について必要となるマナー等を学ぶ	予習	教科書の該当箇所を熟読しておく				
				復習	自分が考える実習について具体的にまとめる				
	第 11 回	内容	「教師」という言葉について考える	予習	先生や教師等の言葉について調べまとめておく				
				復習	理解したことをまとめる				
	第 12 回	内容	日本の教職の特徴について考える	予習	日本の教師について調べまとめておく				
				復習	理解したことをさらに調べまとめる				
	第 13 回	内容	しつけをめぐる問題について考える	予習	「しつけ」について調べまとめておく				
				復習	理解したことをさらに調べまとめる				
	第 14 回	内容	自分の実習について具体的に考えてみる	予習	実習園について調べまとめる				
				復習	実習について振り返りまとめる				
	第 15 回	内容	全体のまとめと確認	予習	自分なりの保育観についてまとめておく				
				復習	興味を持ってことについてさらに調べまとめる				
予習に要する学習時間：概ね 9 0 分目安とする。 復習に要する学習時間：概ね 9 0 分を目安とする。									
課題へのフィードバック	数回にわたり小エッセイを課し、小テストや中間テストを実施し、学生の理解度を把握していきたいと思います。								
成績評価	試験期間における定期試験：実施（ ）する／（ ○ ）しない 成績評価の方法： 筆記試験（50%）、レポート・課題（30%）、授業態度【発言の頻度等】（20%）								
教科書	『これだけは身につけたい 小学校教員の常識 67』（村越晃【編】、一藝社）								
参考文献	必要に応じて適宜、授業中に紹介していきます。								
補足事項	実習に対する意識をしっかりともち、園の協力の下で実習が実現できることをきちんと理解してほしいと思います。								

科 目 名	保育の心理学		単 位 数	2	授業時間数	30	担当教員	おおくま み か こ 大 熊 美佳子
ナバ`リング`コード`	EDPI210I		授業形態	講義	実務経験			
授 業 方 式	対面 ・ 遠隔 ・ その他（ ）				アクティブ・ラーニングの実施		宿 ・ 無	
授 業 の 内 容	子どもの心身の発達について、代表的な理論を踏まえ、発達の概念を理解し、具体的な発達や学習の過程に関する基礎知識を習得し、教育や保育、子育て支援に生かしていけるように、学びを深めていくことを目的とします。							
到 達 目 標	1. 保育に関わる心理学の基本用語を正確に理解している 2. 子どもの発達や行動を理解するために必要な心理学的視点の基礎を身につけている 3. 子どもの主体的な活動を支えるための基礎となる考え方を理解している							
学位授与方針	幼児教育学科（ 1, 3 ） 地域保育学科（ ） 文化表現学科（ ）							
授 業 計 画	第1回	内容	子どもの発達の理解	予習	シラバスを読んでおく			
			子どもについての自分の考えをグループワークで共有	復習	子どもの発達の理解についてまとめる			
	第2回	内容	子どもの発達と環境	予習	遺伝と環境の影響について考えてくる			
				復習	発達に関わる遺伝と環境の考え方をまとめる			
	第3回	内容	発達観・子ども観と保育観	予習	自分自身の子ども観、保育観をまとめてくる			
				復習	発達に関する考え方の変遷をまとめる			
	第4回	内容	身体的機能と運動機能の発達	予習	乳幼児の身体・運動機能の発達について調べてくる			
				復習	乳幼児の身体・運動機能の発達について学んだことをまとめる			
	第5回	内容	社会情動的発達① （感情・情動の発達）	予習	感情・情動の発達について調べる			
				復習	感情・情動の発達を年齢ごとに整理する			
	第6回	内容	社会情動的発達② （アタッチメント理論）	予習	ボウルヴィのアタッチメント理論について調べてくる			
				復習	アタッチメント理論について整理する			
	第7回	内容	社会情動的発達② （他者理解の発達）	予習	乳幼児の他者理解について調べてくる			
				復習	人間関係の発達を年齢ごとに整理する			
	第8回	内容	パーソナリティの発達	予習	フロイトの理論ついて調べてくる			
				復習	フロイトの理論を年齢ごとに整理する			
	第9回	内容	認知発達① （ピアジェの認知発達理論）	予習	ピアジェについて調べてくる			
				復習	ピアジェの認知発達理論を整理する			
	第10回	内容	認知発達② （言葉の発達とヴィゴツキーの認知発達理論）	予習	言葉の発達について調べてくる			
				復習	ヴィゴツキーの認知発達理論を整理する			
	第11回	内容	学習理論① （学習とは何か）	予習	学習の意味について調べてくる			
				復習	学習・条件づけについてまとめる			
	第12回	内容	学習理論② （社会的学習理論について）	予習	社会的学習理論について調べる			
				復習	現場への応用の仕方について考える			
	第13回	内容	子どものやる気① （動機づけ理論について）	予習	子どものやる気について考える			
				復習	動機づけ理論についてまとめる			
	第14回	内容	子どものやる気② （褒めること・叱ること）	予習	子どもの褒め方・叱り方について考える			
				復習	よりよい褒め方・叱り方をまとめる			
	第15回	内容	子どもの個性を理解する 子どもの発達について学んだことをグループワークで共有	予習	個性とは何かを考える			
				復習	保育現場で必要な心理学的視点をまとめる			
予習に要する学習時間：概ね90分を目安とする。 復習に要する学習時間：概ね90分を目安とする。								
課題へのフィードバック	授業内で小テストを実施し、テスト後、解説を行います。							
成績評価	試験期間における定期試験：実施（ ）する／（○）しない 成績評価の方法： 筆記試験（70%）、授業態度【積極的参加】（30%）							
教科書	『書名』（著者名、出版社名） なし							
参考文献	『書名』（著者名、出版社名） 講義の中で適宜紹介します							

補足事項	https://drive.google.com/file/d/lfIMEtZWQ0tGfu-7WkAI_wlNX5oIUoZfP/view?usp=drive_link
------	---

科 目 名	子ども家庭支援の心理学		単 位 数	2	授業時間数	30	担当教員	みよし ちから 三好 力
ナンバリングコード	EDPI2102		授業形態	講義	実務経験			
授 業 方 式	対面 ・ 遠隔 ・ その他（ ）					アクティブ・ラーニングの実施		有 ・ 無
授 業 の 内 容	生涯発達心理学をベースにして、保育士が必要とする人間の各成長段階における発達課題や発達障害、社会状況に基づく家庭支援の在り方などを学んでいく。							
到 達 目 標	1. 生涯発達に関する心理学の基礎的知識を習得し初期経験の重要性、発達課題について理解している。 2. 家族・家庭の意義や機能を理解するとともに、親子関係や家族関係等について発達の観点から理解し、子どもとその家庭を包括的に捉える視点を習得している。 3. 子育て家庭をめぐる現代の社会的状況と課題について理解している。 4. 子どもの精神保健とその課題について理解している。							
学位授与方針	幼児教育学科（ ） 地域保育学科（ ） 文化表現学科（ ）							
授 業 計 画	第1回	内容	発達心理学の概要をつかむ	予習	教科書の相当箇所を事前に読むこと			
				復習	授業の内容を整理する			
	第2回	内容	生涯発達とは何か	予習	教科書の生涯発達の箇所を事前に読むこと			
				復習	ライフサイクルとライフコースを整理する			
	第3回	内容	主要な発達理論の紹介	予習	教科書の発達理論の箇所を事前に読むこと			
				復習	発達理論について整理してまとめる			
	第4回	内容	乳幼児期の発達	予習	教科書の幼児期の箇所を事前に読むこと			
				復習	未就学児の特徴をまとめる			
	第5回	内容	学童期前期にかけての発達	予習	教科書の学童期の箇所を事前に読むこと			
				復習	学童期の子どもの特徴をまとめる			
	第6回	内容	学童期後期から青年期にかけての発達	予習	教科書の青年期の箇所を事前に読むこと			
				復習	青年期の特徴をまとめる			
	第7回	内容	小テスト（1～6） 青年期の精神世界を見る	予習	1～6 回目の復習。			
				復習	テストの間違ったところを再学習する			
	第8回	内容	成人期における発達	予習	教科書の成人期の箇所を事前に読むこと			
				復習	成人期の特徴をまとめる			
	第9回	内容	老年期における発達 アクティブ・ラーニング(ゴツチャルトテスト体験)	予習	教科書の老年期の箇所を事前に読むこと			
				復習	老年期の特徴をまとめる			
	第10回	内容	子育てを取り巻く社会的状況	予習	教科書の子育て環境の箇所を事前に読むこと			
				復習	現代の子育て環境について考える			
	第11回	内容	家族・家庭の意義、機能と親子関係・家族関係の理解	予習	教科書の家族の箇所を事前に読むこと			
				復習	家族機能について考える			
	第12回	内容	子育ての経験と親としての育ち、ライフコースと仕事・子育て	予習	教科書の子育ての箇所を事前に読むこと			
				復習	親の成長を考える			
	第13回	内容	多様な家庭形態とその理解 特別な配慮を要する家庭	予習	教科書の多様な家庭の箇所を事前に読むこと			
				復習	多様性について考える			
	第14回	内容	子どもの精神保健	予習	教科書の精神保健の箇所を事前に読むこと			
				復習	子どもの精神保健について整理する			
第15回	内容	小テスト（7～14） 振り返り	予習	7～14 回目の復習。テスト勉強をする				
			復習	テストの間違ったところを再学習する				
予習に要する学習時間：概ね 90 分を目安とする。 復習に要する学習時間：概ね 90 分を目安とする。								
課題へのフィードバック	小テストの後に、答え合わせと解説を行う。							
成績評価	試験期間における定期試験：実施（ ）する／（○）しない 成績評価の方法： 筆記試験（100％）、レポート・課題（ ）、作品・発表（ ）、実技（ ）、授業態度【 】（ ）							
教科書	『子ども家庭支援の心理学』（青木喜久代編、みらい）							
参考文献								
補足事項	ルーブリック：https://drive.google.com/file/d/1GTJ8SWCIwCH1f_vLyCcFThP0gRL8wc0/view?usp=sharing							

科 目 名	子ども家庭支援の心理学		単 位 数	2	授業時間数	30	担当教員	みよし ちから 三好 力		
ナバ`リング`コード`	EDPI2102		授業形態	講義	実務経験					
授 業 方 式	対面 ・ 遠隔 ・ その他（ ）					アクティブ・ラーニングの実施		有 ・ 無		
授 業 の 内 容	生涯発達心理学をベースにして、保育士が必要とする人間の各成長段階における発達課題や発達障害、社会状況に基づく家庭支援の在り方などを学んでいく。									
到 達 目 標	1. 生涯発達に関する心理学の基礎的知識を習得し初期経験の重要性、発達課題について理解している。 2. 家族・家庭の意義や機能を理解するとともに、親子関係や家族関係等について発達の観点から理解し、子どもとその家庭を包括的に捉える視点を習得している。 3. 子育て家庭をめぐる現代の社会的状況と課題について理解している。 4. 子どもの精神保健とその課題について理解している。									
学位授与方針	幼児教育学科（ ） 地域保育学科（ ） 文化表現学科（ ）									
授 業 計 画	第1回	内容	発達心理学の概要をつかむ	予習	教科書の相当箇所を事前に読むこと					
				復習	授業の内容を整理する					
	第2回	内容	発達心理学の概要をつかむ（2）	予習	教科書の生涯発達の箇所を事前に読むこと					
				復習	ライフサイクルとライフコースを整理する					
	第3回	内容	生涯発達とは何か	予習	教科書の発達理論の箇所を事前に読むこと					
				復習	発達理論について整理してまとめる					
	第4回	内容	主要な発達理論の紹介	予習	教科書の発達理論の箇所を事前に読むこと					
				復習	発達理論について整理してまとめる					
	第5回	内容	乳幼児期の発達	予習	教科書の乳児期の箇所を事前に読むこと					
				復習	乳児期の特徴をまとめる					
	第6回	内容	学童期前期にかけての発達	予習	教科書の幼児期の箇所を事前に読むこと					
				復習	未就学児の特徴をまとめる					
	第7回	内容	学童期後期からの発達	予習	教科書の学童期の箇所を事前に読むこと					
				復習	学童期の子どもの特徴をまとめる					
	第8回	内容	学童期後期から青年期にかけての発達	予習	教科書の青年期の箇所を事前に読むこと					
				復習	青年期の特徴をまとめる					
	第9回	内容	青年期の精神世界を見る	予習	先週の振り返りをしておくこと					
				復習	青年期の特徴を考える					
	第10回	内容	成人期における発達	予習	教科書の成人期の箇所を事前に読むこと					
				復習	成人期の特徴をまとめる					
	第11回	内容	老年期における発達 アクティブ・ラーニング(ゴツチャルトテスト体験)	予習	教科書の老年期の箇所を事前に読むこと					
				復習	老年期の特徴をまとめる					
	第12回	内容	老年期における発達（後編）	予習	教科書の老年期の箇所を事前に読むこと					
				復習	老年期の特徴をまとめる					
	第13回	内容	子育てを取り巻く社会的状況～家族・家庭の意義、機能と親子関係・家族関係の理解	予習	教科書の子育ての箇所を事前に読むこと					
				復習	親の成長を考える					
	第14回	内容	多様な家庭形態とその理解	予習	教科書の多様な家庭の箇所を事前に読むこと					
				復習	多様性について考える					
	第15回	内容	発達支援の必要な子どものいる家庭～精神保健	予習	教科書の精神保健の箇所を事前に読むこと					
				復習	精神保健について考える					
	予習に要する学習時間：概ね90分を目安とする。 復習に要する学習時間：概ね90分を目安とする。									
	課題へのフィードバック	毎回 google classroom で小テストを実施する。その次の週に結果をフィードバックする。								
	成績評価	試験期間における定期試験：実施（ ）する／（○）しない 成績評価の方法： 筆記試験（ ）、レポート・課題（100%）、作品・発表（ ）、実技（ ）、授業態度【 】（ ）								
教科書	『子ども家庭支援の心理学』（青木喜久代編、みらい）									
参考文献										
補足事項	オンデマンドによる映像授業。 ルーブリック：https://drive.google.com/file/d/1GTJ8SWCIwCHlf_vLyCcFThP0gRL8wc0/view?usp=sharing									

科 目 名	子どもの理解と援助		単 位 数	I	授業時間数	3 0	担当教員	みよし ちから 三好 力
ナバ`リング`コード`	EDP12201		授業形態	演習	実務経験			
授 業 方 式	対面 ・ 遠隔 ・ その他（ ）					アクティブ・ラーニングの実施		有 ・ 無
授 業 の 内 容	幼児期の子どもの発達、遊び、生活の特徴と幼稚園教諭、保育者としての対応方法、保護者に対する支援・指導について事例を通して既習の知識や実習を通して得た経験を元に考える。 対人コミュニケーションに必要なスキルをアクティブ・ラーニングの中で身につけていく。							
到 達 目 標	1. 子どもの心身の発達と保育実践について理解を深め、現場で応用することができる。 2. 生活と遊びを通して学ぶ子どもの経験や学習の過程を理解し、その過程で生じるつまずきなどに対応することができる。 3. 保育における観察力や評価方法を身につけて発達支援について自ら考えることができる。 4. 保護者や他の保育者とコミュニケーションをとりながら発達援助を行うことができる。							
学位授与方針	幼児教育学科（ 2, 3, 5 ）地域保育学科（ ）文化表現学科（ ）							
授 業 計 画	第 1 回	内 容	イントロダクション：幼児理解の意義	予習	既習の保育学・発達心理学の内容について確認			
				復習	振り返りの記録をつける			
	第 2 回	内 容	子ども理解における発達の把握 集団討論	予習	教科書第 1 章を読んで考えておく。			
				復習	振り返りの記録をつける。			
	第 3 回	内 容	共感的理解と子どもとの関わり 集団討論	予習	教科書の第 2 章を読んで考えておく。			
				復習	共感的理解について整理する。			
	第 4 回	内 容	子どもの生活や遊び 集団討論	予習	教科書の第 3 章を読んで考えておく。			
				復習	子どもの遊びについて整理しておく。			
	第 5 回	内 容	アクティビティ I （様々なコミュニケーションと保育者の態度）	予習	コミュニケーションとは何かを考えておく。			
				復習	非言語コミュニケーションについて整理しておく			
	第 6 回	内 容	心の発達と人的環境としての保育 集団討論	予習	教科書の第 4 章を読んで考えておく。			
				復習	人的環境を整理する。			
	第 7 回	内 容	発達における葛藤やつまずき 集団討論	予習	教科書の第 7 章を読んで考えておく。			
				復習	発達における問題を整理しておく。			
	第 8 回	内 容	保育環境の理解と構成 集団討論	予習	教科書の第 8 章を読んで考えておく。			
				復習	アフォードンスを考えてみる。			
	第 9 回	内 容	アクティビティ II （集団でのコミュニケーション）	予習	配付する資料を事前に確認しておく。			
				復習	振り返りの記録をつける			
	第 10 回	内 容	子ども理解のための観察・記録と省察・評価	予習	教科書の第 9 勝を読んでおく			
				復習	実習での事例をふまえて省察しておく。			
	第 11 回	内 容	職員間の対話 集団討論	予習	教科書の第 10 章を読んで考えておく。			
				復習	職員間のコミュニケーションについて考えておく。			
	第 12 回	内 容	保護者のとの情報共有 集団討論	予習	教科書の第 11 章を読んで考えておく。			
				復習	保護者との関わりについて整理しておく。			
	第 13 回	内 容	アクティビティ III（他者とのコンセンサス）	予習	配付する資料を事前に確認しておく。			
				復習	協働することについて振り返りの記録をつける。			
	第 14 回	内 容	発達の課題に応じた援助と関わり 集団討論	予習	教科書の第 12 章を読んで考えておく。			
				復習	発達課題に応じた支援について整理しておく。			
	第 15 回	内 容	特別な配慮を要する子供の理解と援助 集団討論	予習	教科書の第 13 章を読んで考えておく。			
				復習	特別な配慮をする場面を整理しておく。			
予習に要する学習時間：概ね 30 分を目安とする。 復習に要する学習時間：概ね 30 分を目安とする。								
課題へのフィードバック	授業のなかで、その都度講評を行っていく。							
成績評価	試験期間における定期試験：実施（ ）する／（○）しない 成績評価の方法： 筆記試験（ ）%、レポート・課題（80%）、作品・発表（20%）、実技（ ）%、授業態度【 】（ ）%							
教科書	『なぜ？から探る 子どもの理解と援助』（青木喜久代編、みらい）							
参考文献	保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領							
補足事項	ルーブリック：https://drive.google.com/file/d/1lTsJxqB_XrTdZ9oPxAUekQDoMnK33g3c/view?usp=sharing							

あ 科 目 名	子どもの理解と援助		単 位 数	1	授業時間数	30	担当教員	いまい ゆ み 今井 由美
ナバ`リング`コード`	EDPI2201		授業形態	演習	実務経験			
授 業 方 式	対面 ・ 遠隔 ・ その他（ ）				アクティブ・ラーニングの実施		有 ・ 無	
授 業 の 内 容	子どもの心身の発達や環境・状況を適切に把握し、それらに基づいた保育援助のあり方について、より実践的な力を身につけることを目指す。 演習課題、事例検討、グループワークなどを通して、子どもの理解を踏まえた多様な保育援助の方法について具体的に考えていく。							
到 達 目 標	1. 子ども一人一人の発達や状況を把握することの意義を理解し、さまざまな保育援助方法を身につけている 2. 子どもを理解するための方法について、具体的にイメージしながら説明できる 3. 子ども理解に基づく援助や態度について、自分なりに考えることができる							
学位授与方針	幼児教育学科（ 2,3 ）地域保育学科（ ）文化表現学科（ ）							
授 業 計 画	第1回	内容	オリエンテーション / 子どもを理解するとは	予習	子どもを理解することのイメージをしておく			
				復習	習得する内容を整理する			
	第2回	内容	子ども理解の意義	予習	子どもを理解する必要性について考えておく			
				復習	子ども理解の意義について理解する			
	第3回	内容	子どもの発達と理解	予習	乳幼児の発達段階をイメージしておく			
				復習	発達過程に応じた援助についてまとめる			
	第4回	内容	子どもに対する関わりと共感的理解①	予習	子どもに共感する時のイメージしておく			
				復習	共感的理解について整理しておく			
	第5回	内容	子どもに対する関わりと共感的理解② グループワーク	予習	事前配布するグループワーク資料を読んでおく			
				復習	グループワークの内容を整理する			
	第6回	内容	子どもを理解する視点① 保育者としての関わり グループワーク	予習	保育者としての関わり方について考えておく			
				復習	グループワークの内容を整理する			
	第7回	内容	子どもを理解する視点② いざこざや葛藤 ロールプレイング	予習	いざこざや葛藤場面をイメージしておく			
				復習	いざこざや葛藤場面での援助方法をまとめる			
	第8回	内容	子どもを理解する視点③ 保育環境 グループワーク	予習	さまざまな環境変化をイメージしておく			
				復習	環境に応じた理解と援助方法を整理する			
	第9回	内容	子どもを理解する方法① 観察・記録・評価 意見討議	予習	観察した姿を記録するイメージをしておく			
				復習	子どもの姿を思い浮かべ記録する			
	第10回	内容	子どもを理解する方法② 保育者間の連携 グループワーク	予習	保護者同士の関わりをイメージしておく			
				復習	グループワークの内容を整理する			
	第11回	内容	子どもを理解する方法③ 保護者との関わり	予習	保護者対応をイメージしておく			
				復習	保護者対応と子ども理解の繋がりをまとめる			
	第12回	内容	発達課題や個人差に応じた援助	予習	どんな発達課題があるか考えておく			
				復習	一人一人に応じた理解と援助について理解する			
	第13回	内容	気になる子への理解と援助①	予習	どんな子が気になるのかイメージしておく			
				復習	気になる子への理解と援助についてまとめる			
	第14回	内容	気になる子への理解と援助② グループワーク	予習	事前配布するグループワーク資料を読んでおく			
				復習	グループワークの内容を整理する			
	第15回	内容	発達の連続性と就学支援 ロールプレイング	予習	就学時のイメージをしておく			
				復習	就学に向けての援助方法をまとめる			
予習に要する学習時間：概ね 20 分を目安とする。 復習に要する学習時間：概ね 30 分を目安とする。								
課題へのフィードバック	提出された課題は、添削して返却し解説を行う。グループワークやロールプレイングは、発表後に講評を行う。							
成績評価	試験期間における定期試験：実施（ ）する／（ ○ ）しない 成績評価の方法：レポート・課題（ 40 %）、授業態度【積極的参加】（ 60 %）							
教科書	なし							
参考文献	『子どもの理解と援助 新・基本保育シリーズ⑩』（公益財団法人児童育成協会：監修、清水益治・森俊之：編集、中央法規） 『シードブック子どもの理解と援助』（飯島典子・本郷一夫：編著、建帛社）							
補足事項	ルーブリック：https://drive.google.com/drive/u/0/folders/1pDDT_xwu0ZR2TpXC-kUkmToCaB9Tv9a9							

科 目 名	子どもの保健		単 位 数	2	授業時間数	3 0	担当教員	み た のりこ 味田 徳子	
ナバ`リング`コード`	AHSI2I0I		授業形態	講義	実務経験				
授 業 方 式	対面 ・ 遠隔 ・ その他（ ）					アクティブ・ラーニングの実施		有 ・ 無	
授 業 の 内 容	子どもの健康と保健の意義について理解する。 身体や心の基本的知識について習得するとともに、子どものかかりやすい病気とその予防・対応法について学び、援助できる力をみにつけることを目的とする。								
到 達 目 標	１．子どもの発育・発達についての基礎知識を習得し、一人ひとりに応じた評価ができる。 ２．子どもの病気とその予防、適切な対応について理解している。 ３．子どもの心身の健康状態を把握し、その対応方法が理解できている。 ４．保健活動において、保護者および多職種間の連携・協働の重要性を理解している。								
学位授与方針	幼児教育学科（ 1、3、4 ）地域保育学科（ ）文化表現学科（ ）								
授 業 計 画	第1回	内容	オリエンテーション	予習	P1～11まで読んでおく				
			I、子どもの健康と保健の意義	復習	子どもの健康に関する現状と課題についてまとめる				
	第2回	内容	II、子どもの身体的発育と生理機能の発達 身体発育と保健	予習	P17～20まで読んでおく。家族から自分の「妊娠～出生までの経過」を聞く				
				復習	身体の発育についてまとめておく				
	第3回	内容	生理機能の発達と保健	予習	P20～25まで読んでおく				
				復習	生理機能についてまとめておく				
	第4回	内容	運動機能の発達 精神機能の発達	予習	P25～33までを読んでおく				
				復習	反射・発達について、月齢をおってまとめる				
	第5回	内容	子どもの食と栄養	予習	P34～48まで読んでおく				
				復習	母乳と人工乳の違いについてまとめる				
	第6回	内容	III、子どもの健康状態の把握 観察・健康診断	予習	P49～52まで読んでおく				
				復習	乳幼児の観察方法についてまとめる 乳幼児健診の内容についてまとめる				
	第7回	内容	― 振り返り確認テストNo1― IV、子どもの疾病予防と適切な対応 子どもの病気の特徴	予習	自分と家族の体温と脈拍を測定する				
				復習	子どもの病気の特徴についてまとめる				
	第8回	内容	感染症	予習	P69～76まで読んでおく				
				復習	主な感染症についてまとめる				
	第9回	内容	学校保健安全法 予防接種	予習	P143～150まで読んでおく				
				復習	自分が行ったことのある予防接種を確認する				
	第10回	内容	免疫・アレルギー性疾患 消化器疾患	予習	P77～92まで読んでおく				
				復習	アレルギー疾患の対応について調べる				
	第11回	内容	循環器疾患 血液系疾患	予習	P93～110まで読んでおく				
				復習	症状の対応についてまとめる				
	第12回	内容	内分泌・代謝性疾患 神経系の疾患	予習	P111～129まで読んでおく				
				復習	症状の対応についてまとめる				
	第13回	内容	腎・泌尿器疾患 先天性の疾患	予習	P130～142まで読んでおく				
				復習	慢性疾患についてまとめる				
	第14回	内容	― 振り返り確認テストNo2― 子どもの疾病に対する福祉	予習	小児慢性特定疾患について調べる				
				復習	自立支援事業についてまとめておく				
	第15回	内容	インクルーシブ教育・合理的配慮 まとめ	予習	合理的配慮の意味について調べる				
				復習	子どもの保健の到達目標を振り返る				
	予習に要する学習時間：概ね90分を目安とする。 復習に要する学習時間：概ね90分を目安とする。								
	課題へのフィードバック	授業内で質問できる時間を設ける。課題（各授業終了時、確認ポイントチェック）・提出物においては、採点后または必要に応じてコメントを添えて返却する。							
	成績評価	試験期間における定期試験：実施（ ）する／（ ）しない 成績評価の方法： 筆記試験（ 70 %）、レポート・課題（ 10 %）、授業態度【 積極的参加 】（ 20 %） ルーブリック URL： https://drive.google.com/file/d/1e8Nq7-MINpd4AmP3foMWQFkmyu0WjBWe/view?usp=drive_link							
教科書	「保育者・養護教諭を目指す人のための子どもの保健～健康と安全～」大澤真木子・小國美也子 へるす出版、								

参考文献	授業で現場で役に立つ！子どもの保健テキスト 小林美由紀・森脇浩一 診断と治療社
補足事項	授業はじめに前回授業の振り返りを行い、授業中は、ペアワークやグループワークなどを行いながら、知識の共有・定着を図っていく。

科 目 名	子どもの保健		単 位 数	2	授業時間数	30	担当教員	たなべ はやと 田辺 勇人
ナンバリングコード	AHS12101		授業形態	講義	実務経験			
授 業 方 式	☒ 対面 ・ 遠隔 ・ その他 ()					アクティブ・ラーニングの実施		☒ 有 ・ 無
授 業 の 内 容	子どもの健康に関して医学的・社会的見地より理解する。 子ども特有の疾患・疾病の対策法を理解また予防法の実践を学ぶ、							
到 達 目 標	１．子どもの特異性の理解（大人と子供の医学的・社会的な違い）している ２．子どもの疾患・疾病に対する適切な処置法を理解している ３．子どもの健康維持に対する適切な対処法を理解している							
学位授与方針	幼児教育学科（1,2,4）地域保育学科（ ）文化表現学科（ ）							
授 業 計 画	第1回	内容	オリエンテーション	予習	病気について考える			
			子どもとは？	復習	身近な子供の観察			
	第2回	内容	子どもの健康と保健の意義	予習	健康の定義を調べてみよう			
			健康とは何か？	復習	授業中に指示			
	第3回	内容	子どもの身体発育・発達と生理機能①	予習	医学用語でわからないものを調べる			
			身体（生理・運動・精神）の発達	復習	成人と子どもの違いをまとめる			
	第4回	内容	子どもの身体発育・発達と生理機能②	予習	子どもの食べ物を調べる			
			栄養について	復習	母乳、粉ミルク、液体ミルクについて			
	第5回	内容	子どもの健康状態の把握	予習	母子手帳をみてみよう			
			観察項目・健康診断	復習	健康診断の内容を精査する			
	第6回	内容	1～5回のまとめ、確認テスト。	予習	授業中に指示			
			＋α講義 生命の誕生と遺伝について	復習	確認テストの内容をチェックしよう			
	第7回	内容	子どもの疾病の予防及び適切な対応	予習	プリントで構造機能をみてみよう！			
			基礎的な構造機能学	復習	構造機能学の復習			
	第8回	内容	①感染症	予習	子どもがかかりやすい感染症を考えよう			
				復習	予防接種についてまとめる			
	第9回	内容	②免疫・アレルギー性疾患	予習	身近なアレルギーを考えてみる			
				復習	免疫についてまとめる			
	第10回	内容	③ 消化器疾患	予習	子どもに多い消化器疾患を考えよう			
				復習	うんち について			
	第11回	内容	④ 循環器疾患・先天性疾患	予習	心臓ってどこにあるか調べよう			
				復習	先天性疾患をまとめてみよう			
	第12回	内容	⑤ 血液性疾患	予習	貧血、白血病について考える			
				復習	白血病について調べてみる			
	第13回	内容	⑥ 内分泌・代謝性疾患	予習	ホルモンの名前を調べる。			
				復習	子どもの内分泌疾患をまとめる			
	第14回	内容	⑦ 神経系疾患	予習	神経の種類を考えてみる			
				復習	プリントで対応（まとめ）			
	第15回	内容	⑧ 遺伝性疾患	予習	DNA 染色体の違いを考える			
			7～14回のまとめ、確認テスト	復習	確認テストの内容			
	予習に要する学習時間：概ね90分を目安とする。 復習に要する学習時間：概ね90分を目安とする。							
	課題へのフィードバック	授業中に行います						
	成績評価	試験期間における定期試験：実施（ ）する／（○）しない 成績評価の方法：レポート・課題（90%）、授業態度【態度 】（ 10 %）						
教科書	「保育者・養護教諭を目指す人のための子どもの保健～健康と安全～」大澤真木子・小國美也子 へるす出版							
参考文献	授業中に適宜示します							
補足事項	積極的に質問等をお願いします							

科 目 名	子どもの食と栄養		単 位 数	2	授業時間数	60	担当教員	はしもと ようこ 橋 本 洋子
ナバリングコード	EAH12201		授業形態	演習	実務経験			
授 業 方 式	対面 ・ 遠隔 ・ その他（ ）					アクティブ・ラーニングの実施		有
授 業 の 内 容	乳・幼児期の食生活は心身の発育・発達に大きく影響し、幼児期に身につけた食生活の基礎はその子どもの一生の食習慣を左右する。食事はたんにエネルギーや栄養素を摂取するだけではなく、心身の順調な発育、発達を促し、健康な生活を営むための基礎となることを理解し、保育者として必要な食・栄養の知識を身につける。子どもの発達段階における食事の問題点について理解を深め、保育者としての乳幼児への関わりを考察する。子どもを取り巻く食環境や課題を理解し、この授業を通して自身の適切な食生活も考えて欲しい。							
到 達 目 標	1. 健康な生活を営むために必要な体と栄養に関する基本的知識を習得し、説明することができる。(知識・理解) 2. 子どもの心身の発達段階と食生活の関連を理解し、子どもがよく噛んで美味しく味わうために必要な知識、実践力を身につけている。(知識・理解・技能・表現) 3. 子どもを取り巻く食の様々な課題・問題点を理解し適切な食生活について説明することができる。(知識・理解・思考) 4. 保育者として食教育の重要性を理解し実践する力を身につけている。(知識・理解・技能・表現)							
学位授与方針	幼児教育学科（1・2・3・4）							
授 業 計 画	第1回	内容	オリエンテーション 健康・栄養の定義 栄養クイズ	予習	シラバスを読んでおく			
				復習	高校までに学んだ栄養の基礎知識を確認しておく			
	第2回	内容	子どもの健康と食生活の意義・子どもを取り巻く食環境 心身の健康と食生活、SDGsについて	予習	自分自身の食生活を振り返る			
				復習	栄養素の名称と働きについて調べる			
	第3回	内容	からだと栄養① 栄養・健康に関する基礎知識	予習	健康について考える			
				復習	必要な栄養素の役割をまとめる			
	第4回	内容	からだと栄養② 栄養の概念と栄養素の役割	予習	p17-28を熟読し栄養と栄養素の違いを理解する			
				復習	ヒトの健康に必要な栄養とは何かを理解する			
	第5回	内容	からだと栄養③ 食べ物のゆくえ 消化・吸収のいとなみ 【DVD】	予習	からだに必要な栄養とその役割を考える			
				復習	栄養素の体内での営みと役割を理解する			
	第6回	内容	からだと栄養④ 発育・発達と栄養、まとめ・小テスト	予習	発育・発達の意味を調べる			
				復習	発育・発達に必要な栄養を理解する			
	第7回	内容	からだと栄養⑤ 食事摂取基準と食事バランスガイド 献立作成・調理の基本 【グループワーク】	予習	p28-48を熟読し食事摂取基準の概要を調べる			
				復習	食事摂取基準と調理に必要な知識を理解する			
	第8回	内容	妊娠期・授乳期の食生活① からだの変化と必要な栄養 【DVD】	予習	妊娠期・授乳期について調べておく			
				復習	妊娠期・授乳期の母体の変化をまとめる			
	第9回	内容	妊娠期・授乳期の食生活② 食生活の配慮点	予習	妊娠期・授乳期に付加される栄養（素）を調べる			
				復習	妊娠期・授乳期に必要な栄養と理由をまとめる			
	第10回	内容	子どもの発育・発達と食生活① 乳汁栄養：母乳と免疫、人工栄養	予習	乳汁栄養について調べる			
				復習	母乳の利点、人工栄養の特徴についてまとめる			
	第11回	内容	子どもの発育・発達と食生活② 実習 調乳実習 【調理室でグループワーク】 ＊調理室で実習	予習	調乳の意義と手順を調べる			
				復習	調乳のポイント・注意点をレポートにまとめる			
	第12回	内容	子どもの発育・発達と食生活③ 哺乳動作の発達・原始反射 【DVD】	予習	乳児の哺乳動作、原始反射について調べる			
				復習	5つの原始反射と特徴についてまとめる			
	第13回	内容	子どもの発育・発達と食生活④ 摂食機能（捕食・咀嚼・嚥下）の発達 【DVD】	予習	哺乳から摂食へ移行する意味を考える			
				復習	摂食機能の発達（月齢ごと）をまとめ理解する			
	第14回	内容	子どもの発育・発達と食生活⑤ 排泄のいとなみ・腎臓の機能 【DVD】	予習	排泄とは何か調べておく			
				復習	排泄の重要性についてまとめる			
	第15回	内容	子どもの発育・発達と食生活⑥ まとめ・小テスト	予習	からだの仕組みと必要な栄養をまとめる			
				復習	離乳を進めるためのポイントをまとめる			
	第16回	内容	子どもの発育・発達と食生活⑦ 離乳の意義と進め～、離乳期の食生活 【DVD】	予習	離乳の必要性および進め方を調べる			
				復習	離乳食の形態と調理方法をまとめる			
	第17回	内容	幼児期の発育・発達と栄養① 幼児期の食事と間食（1～2歳・3～5歳の食事）	予習	幼児期の食生活の問題点について調べる			
				復習	幼児期の発育・発達と食事の特徴をまとめる			
		内容		予習	幼児期に必要な保育者の援助を考える			

	第 18 回		幼児期の発育・発達と栄養② 幼児の食生活（食器・食具）【DVD 台所育児】	復習	幼児期に身につけたい食習慣をまとめる	
	第 19 回	内容	学童期の発育・発達と栄養 学童期の食生活と学校給食	予習 復習	学童期の食生活と問題点について調べる 学校給食の目標、役割、種類、利点を理解する	
	第 20 回	内容	児童福祉施設の食事と栄養 児童福祉施設の種別と食事、特定給食施設	予習 復習	児童福祉施設の種別を調べる 各児童福祉施設の食事の特徴と役割を理解する	
	第 21 回	内容	生涯発達と食生活（思春期・成人期・高齢期の栄養） まとめ・小テスト	予習 復習	p111-122 を熟読し食と関連のある疾病を調べる 健康寿命と食生活を考える	
	第 22 回	内容	特別な配慮が必要なこどもの食と栄養① アレルギー：アレルギーの種類、エピペンの使い方 【グループワーク】	予習 復習	アレルギーについて調べる アレルギーを持つ子どもへの対応をまとめる エピペンの使い方を理解する	
	第 23 回	内容	特別な配慮が必要なこどもの食と栄養② 障がいのある子ども・疾病、体調不良の子どもへの対応	予習 復習	食べる機能の障がいや子どもの体調不良について調べる 子どもの障がい・体調に応じた食事と対応をまとめる	
	第 24 回	内容	食育演習① 日本の栄養教育の歴史・食育基本法の目的と概要 食育のための環境、食育計画の立案	予習 復習	食育の意義と食関連の法律を調べる 食育のための環境と保育者に求められる知識・スキルをまとめる	
	第 25 回	内容	食育演習① 食育計画の意義 資料収集【グループディスカッション】	予習 復習	対象年齢の子どもに必要な食育を考える 子どもの年齢に応じた食育計画を立案する	
	第 26 回	内容	食育演習② 制作 対象年齢に合わせた食育媒体制作・小テスト	予習 復習	媒体制作に必要な資料、材料を準備する 年齢・ねらいに合わせた媒体制作をすすめる	
	第 27 回	内容	食教育演習③ 制作 食教育媒体制作・発表準備	予習 復習	媒体制作をすすめる 媒体制作をすすめる	
	第 28 回	内容	発表① 【グループディスカッション】	予習 復習	発表準備をする 発表を振り返る・食育計画の評価	
	第 29 回	内容	発表② 【グループディスカッション】	予習 復習	発表準備をする 発表を振り返る・食育計画の評価	
	第 30 回	内容	発表③ 食育の評価 まとめ【グループディスカッション】	予習 復習	食教育プランの評価を行う（PDCA） 子どもにとっての食の意義と重要性をまとめる	
	予習に要する学習時間：概ね 45 分を目安とする。 復習に要する学習時間：概ね 45 分を目安とする。					
	課題へのフィードバック	授業内でふりかえりクイズ、小テストを実施し解説を行う。課題等にコメントを行う。				
	成績評価	試験期間における定期試験：実施（ ）する／（○）しない 成績評価の方法：小テスト（70％）、課題・発表（20％）、授業態度【意欲・積極的参加】（10％）				
	教科書	『子どもの食と栄養 演習』（岡崎光子編、同文書院）				
	参考文献	『子どもの食と栄養演習書』（小川雄二編、医歯薬出版株式会社）他、授業内で随時紹介する				
	補足事項	前期・後期を通した1年間（30回）の科目である。テキスト・DVD・配布資料等の教材を使用した講義が中心となるが食育媒体制作等も含む演習科目である。授業内で指示する事前学習を前提として授業をすすめるため、授業までにテキストの指示された箇所を必ず熟読すること。随時、振り返りクイズ（Google Classroom）を実施する。子どもを取り巻く食環境や自身の生活習慣に関するワークを通し課題や発表に積極的に取り組むとともに、授業を通して自身の食生活・健康を振り返り、望ましい生活習慣の確立にも取り組んで欲しい。 ＊欠席した際には必ず GoogleClassroom 内の連爆板に連絡し、配布資料がある場合は次の授業前までに取りに来ること（研究室前ボックス） ＊調理室で実習を行う場合があり、その場合は事前に通知する。身支度（エプロン、三角巾、タオルハンカチ、不織布マスク）を整えること。 ＊ルーブリック参照URL： https://drive.google.com/file/d/1WgF00n3jQ3wuRT0nFy3kLdiZkaUdc3Sz/view?usp=drive_link				

科 目 名	子どもの食と栄養		単 位 数	2	授業時間数	60	担当教員	やまぐち きょうこ 山口 恭子	
ナンバリングコード	EAH12101		授業形態	演習	実務経験				
授 業 方 式	対面 ・ 遠隔 ・ その他（ ）					アクティブ・ラーニングの実施		有 ・ 無	
授 業 の 内 容	子どもの食生活は、健全な発育・発達に大きな影響を及ぼすだけでなく、生涯にわたる食習慣の基礎を作る上でも重要なものである。保育者として、子どもや家庭を支援するための基本的な栄養学的知識と食育の意義、目的を理解するとともに、演習・実習を通して実践力、展開力を身につけることを学修の目的とする。								
到 達 目 標	1. 子どもの健全な発育・発達につながる食生活の意義を説明できる 2. 栄養に関する基本的知識と、月齢・年齢に合った適切な食事の提供・介助を行う力を身につけている 3. 子どもや家庭における食の現状と課題を踏まえ、食育活動を計画・実践する力を身につけている 4. アレルギーや疾病など、特別な配慮を要する子どもの食と栄養について理解している								
学位授与方針	幼児教育学科（1,2,3）								
授 業 計 画	第1回	内容	オリエンテーション、「子どもの食と栄養」を学ぶ意義	予習	シラバスを読んでおく				
				復習	この科目で習得する内容を理解する				
	第2回	内容	こどもの健康と食生活の意義 (ディスカッション)	予習	現代の子どもの食生活の課題について調べる				
				復習	子どもの食生活の課題をまとめる				
	第3回	内容	栄養の基本的知識① 栄養と栄養素 (演習課題：食事記録の3色食品群分類)	予習	日頃意識している栄養について考える				
				復習	栄養バランスとは何かをまとめる				
	第4回	内容	栄養の基本的知識② 炭水化物・たんぱく質・脂質	予習	5大栄養素について復習しておく				
				復習	炭水化物、たんぱく質、脂質についてまとめる				
	第5回	内容	栄養の基本的知識③ ビタミン、ミネラル (演習課題：ビタミン、ミネラルを含む食品を調べる)	予習	ビタミン、ミネラルについて復習しておく				
				復習	ビタミン、ミネラルについてまとめる				
	第6回	内容	日本人の食事摂取基準	予習	日本人の食事摂取基準とは何か調べる				
				復習	日本人の食事摂取基準の意義をまとめる				
	第7回	内容	献立作成と調理の基本 (演習課題：旬の献立作成)	予習	日頃食べている食事の献立内容を意識する				
				復習	献立作成の基本を理解し実践する				
	第8回	内容	乳児期の栄養① 授乳期	予習	母乳栄養、人工栄養について調べる				
				復習	母乳、人工栄養の利点と注意点をまとめる				
	第9回	内容	●調理実習Ⅰ：調乳	予習	調乳について調べる				
				復習	調乳の手順と注意点をまとめる				
	第10回	内容	乳児期の栄養② 離乳期（初期、中期）	予習	生後5～6か月、7～8か月の特徴を調べる				
				復習	離乳食初期、中期の特徴と注意点をまとめる				
	第11回	内容	乳児期の栄養③ 離乳期（後期、完了期）	予習	生後9～11か月、12～18か月の特徴を調べる				
				復習	離乳食後期、完了期の特徴と注意点をまとめる				
	第12回	内容	乳児期の栄養④ 離乳期（ベビーフード） (グループワーク：ベビーフードを調べる)	予習	ベビーフードについて市場調査をしておく				
				復習	ベビーフードの利点と注意点をまとめる				
	第13回	内容	●調理実習Ⅱ：離乳食	予習	離乳食について復習しておく				
				復習	離乳食の調理上の注意をまとめる				
	第14回	内容	幼児期の栄養① 成長・発達と食事 (演習課題：幼児のお弁当献立作成)	予習	幼児期の生理的・身体的特徴を復習しておく				
				復習	幼児期に必要な栄養についてまとめる				
	第15回	内容	幼児期の栄養② 食行動の問題	予習	幼児の食事について保育者の困りごとを調べる				
				復習	食行動の問題の理由と改善の提案をまとめる				
	第16回	内容	幼児期の栄養③ 好き嫌い (ディスカッション)	予習	自身の幼児期の好き嫌いについて家族に聞く				
				復習	好き嫌いが起こる理由、対応についてまとめる				
	第17回	内容	学童期・思春期の栄養	予習	自身の学童期・思春期の食生活を振り返る				
				復習	学童・思春期の栄養摂取のポイントをまとめる				
	第18回	内容	妊娠期の栄養 (ディスカッション)	予習	妊娠期の食事の問題について家族などに聞く				
				復習	妊娠期の栄養管理の必要性をまとめる				
	第19回	内容	生涯発達① 成人期の栄養	予習	成人期の栄養課題について調べる				
				復習	成人期の栄養管理の必要性についてまとめる				
	第20回	内容	生涯発達② 高齢期の栄養	予習	高齢期の栄養課題について調べる				
				復習	高齢期の栄養管理の必要性についてまとめる				

	第 21 回	内容	保育における食育① 意義、目的と基本的考え方	予習	自身が受けてきた食育を振り返る
				復習	保育における食育の目標とねらいをまとめる
	第 22 回	内容	保育における食育② 食育活動とは (グループワーク：食育活動を調べる)	予習	食育白書（活動事例）を読む
				復習	対象別の食育活動についてまとめる
	第 23 回	内容	保育における食育③ 食育の内容と計画、評価	予習	教科書の「食育の狙いと内容」を読む
				復習	食育実践の方法についてまとめる
	第 24 回	内容	保育における食育④ 地域や家庭との連携 (グループワーク：食育活動の立案、計画)	予習	食育白書（活動事例）を読む
				復習	食育活動の PDCA をまとめる
	第 25 回	内容	保育における食育⑤ (グループワーク：食育活動発表)	予習	プレゼンテーションの準備をする
				復習	フィードバックを元に教案を修正する
	第 26 回	内容	家庭や児童福祉施設における食事と栄養 (演習課題：家庭への提案)	予習	家庭における食事の課題を考える
				復習	家庭と児童福祉施設の食事の役割をまとめる
	第 27 回	内容	特別な配慮を要する子どもの食と栄養①	予習	教科書の「体調不良の子どもへの対応」を読む
				復習	疾病や体調不良児の栄養管理についてまとめる
	第 28 回	内容	特別な配慮を要する子どもの食と栄養② アレルギー	予習	食物アレルギーの原因と症状を調べる
				復習	食物アレルギーの特徴と対応をまとめる
	第 29 回	内容	特別な配慮を要する子どもの食と栄養③ (演習課題：アレルギー対応のおやつ)	予習	食物アレルギー対応の食品を市場調査する
				復習	食物アレルギー対応食についてまとめる
	第 30 回	内容	学修のまとめ（食べることの意義）	予習	学んだ内容を復習しておく
				復習	なぜ食に気をつけるべきか考えをまとめる
予習に要する学習時間：概ね 90 分を目安とする。 復習に要する学習時間：概ね 90 分を目安とする。					
課題へのフィードバック	作成した課題レポートや作品に対する添削、発表に対する講評を行う				
成績評価	試験期間における定期試験：実施（ ）する／（○）しない 成績評価の方法： 筆記試験（ ）％、レポート・課題（50％）、作品・発表（30％）、実技（ ）％、授業態度【積極性】（20％）				
教科書	『イラスト 子どもの食と栄養』森脇千夏ら著、東京教学社、2025 第 5 版（ISBN：978-4-8082-6060-6）				
参考文献	『授乳・離乳の支援ガイド（2019 年改定版）』厚生労働省、『児童福祉施設等における食事の提供ガイド』厚生労働省、 『保育所におけるアレルギー対応ガイドライン（2019 年改定版）』厚生労働省、『日本人の食事摂取基準（2025 年版）』厚生労働省、 『食育白書』（農林水産省）など				
補足事項	ルーブリック： https://drive.google.com/file/d/1-jzfAqo0JkWhEpbncRzjLoMTyUYEJKst/view?usp=sharing				

科 目 名	臨床心理学	単 位 数	2	授業時間数	30	担当教員	みよし ちから 三好 力
ナバ`リング`コード`	CLPI220I	授業形態	講義	実務経験			
授 業 方 式	対面 ・ 遠隔 ・ その他（ ）				アクティブ・ラーニングの実施		有 ・ 無
授 業 の 内 容	臨床心理学は応用心理学の一つである。心の悩みを解決し、人間を幸せにする学問ともいわれている。 現代社会にはさまざまな心の問題が存在する。私たちが、人の心を理解しようと試みたり、心の問題に向き合おうとするとき、臨床心理学はそれらの試みをサポートしてくれる。本講義では、臨床心理学の基礎的知識の習得と現場で生きる臨床心理学の実践的能力の育成を図る。さらに、保育者自身の心の安定と成長にもアプローチしたいと考えている。						
到 達 目 標	1.臨床心理学の基礎的知識を習得できる。 2.学んだ知識を活用して、心の問題について、自分なりに考えられる力を身につける。 3.学んだ知識を使って、子どもや保護者の心の問題理解と支援に役立てられる。						
学位授与方針	幼児教育学科（ ） 地域保育学科（ ） 文化表現学科（ ）						
授 業 計 画	第1回	内容	臨床心理学についての概要	予習	現代社会のこころの問題を考えてみる		
			現代社会のこころの問題を考えてみる	復習	現代社会のこころの問題を振り返る		
	第2回	内容	パーソナリティの理解	予習	自分のパーソナリティについて考えてみる		
			アクティブ・ラーニング：性格検査をやってみる	復習	自分の結果から精神保健を考える		
	第3回	内容	精神障害①	予習	抑うつ障害について調べる		
			抑うつ障害	復習	抑うつ障害について確認する		
	第4回	内容	精神障害②	予習	双極性障害について調べる		
			双極性障害	復習	双極性障害について確認する		
	第5回	内容	精神障害③	予習	不安障害について調べる		
			不安障害	復習	不安障害について確認する		
	第6回	内容	精神障害④	予習	統合失調症について調べる		
			統合失調症	復習	統合失調症について確認する		
	第7回	内容	小テストⅠ回目	予習	ここまでの内容について整理する		
				復習	フィードバックを確認する		
	第8回	内容	精神障害⑤	予習	PTSDについて調べる		
			心的外傷後ストレス障害	復習	PTSDについて確認する		
	第9回	内容	精神障害⑥	予習	強迫性障害について調べる		
			強迫性障害	復習	強迫性障害について確認する		
	第10回	内容	精神障害⑦	予習	解離性障害について調べる		
			解離性障害	復習	解離性障害について確認する		
	第11回	内容	精神障害⑧	予習	摂食障害について調べる		
			摂食障害、その他	復習	摂食障害について確認する		
	第12回	内容	精神障害⑨	予習	パーソナリティ障害について調べる		
			パーソナリティ障害	復習	パーソナリティ障害について確認する		
	第13回	内容	精神障害⑩	予習	認知症について調べる		
			認知症	復習	認知症について確認する		
	第14回	内容	確認小テスト	予習	ここまでの内容について試験勉強する		
			フィードバック	復習	テストで出た内容を照らし合わせ確認する		
	第15回	内容	現代社会と臨床心理学：現代社会の中にみられる臨床心理	予習	現代社会と精神性について調べる		
			学的問題から考えてみる	復習	自分の考えをまとめてみる		
予習に要する学習時間：概ね90分を目安とする。 復習に要する学習時間：概ね90分を目安とする。							
課題へのフィードバック	2回の小テストを実施し、その後にフィードバックを行う。						
成績評価	試験期間における定期試験：実施（ ）する／（○）しない 成績評価の方法： 筆記試験（100%）、レポート・課題（ %）、作品・発表（ %）、実技（ %）、授業態度【 】（ %）						
教科書	使用しない						
参考文献							
補足事項	ルーブリック：https://drive.google.com/file/d/IwccVMHbY22dm9fMIyFiU0QhSoiSgLNmk/view?usp=sharing						

科 目 名	心理学特講		単 位 数	2	授業時間数	3 0	担当教員	おおくま み か こ 大 熊 美佳子	
ナバ`リング`コード`	EDPI2202		授業形態	講義	実務経験				
授 業 方 式	対面 ・ 遠隔 ・ その他（ ）				アクティブ・ラーニングの実施		宿 ・ 無		
授 業 の 内 容	心理学は、人間の心のメカニズムや行動を科学的に研究していく学問です。本講義では、テーマについて自ら調べ発表する、グループワークを行い他者の考えを知るなどの学びを通して、自分自身の心の仕組みを探り、自己理解を深めるとともに、人間理解の観点から、人間の心と行動について理解を深めるために必要な心理学の基礎知識を学び、日常生活にその知見を生かすことを目的とします。								
到 達 目 標	1．心理学の基礎知識を身につけている 2．人の心のメカニズムと行動について理解している 3．自分自身の望ましいライフコース構築に取り組んでいる								
学位授与方針	幼児教育学科（ 3, 5 ）地域保育学科（ ）文化表現学科（ ）								
授 業 計 画	第1回	内容	ガイダンス：心理学を学ぶということ	予習	シラバスを読んでおく				
				復習	心理学を学ぶ意義をまとめる				
	第2回	内容	自分自身を知る	予習	自分の長所、短所についてまとめる				
				復習	自分らしさについて理解を深める				
	第3回	内容	レジリエンスとマインドフルネス	予習	自分自身がストレスを感じる状況について考える				
				復習	心の健康を保つ方法についてまとめる				
	第4回	内容	対人関係の心理学	予習	対人関係をテーマにした映画・小説などについて調べる				
				復習	自身の対人関係についてまとめる				
	第5回	内容	親子関係の心理学	予習	親子関係をテーマにした映画・小説などについて調べる				
				復習	親子関係について自分の考えをまとめる				
	第6回	内容	性格の自己分析	予習	自分の思考や行動の特徴について考える				
				復習	自身の性格分析の結果を客観的に整理する				
	第7回	内容	自分と向き合う	予習	これまでの授業の中で見えてきた自分らしさについてまとめてくる				
				復習	グループワーク等による他者評価を取り入れ、再度自分らしさについて考える				
	第8回	内容	マイトリセツを作ってみよう	予習	マイトリセツに必要な素材を集めてくる				
				復習	マイトリセツを完成させる				
	第9回	内容	女性のライフコースの心理学	予習	女性のライフコースをテーマにした映画・小説などについて調べる				
				復習	自分自身のライフコースを考える				
	第10回	内容	色彩と心理学・パーソナルカラー診断	予習	自分に似合う色について考える				
				復習	色彩が及ぼす影響についてまとめる				
	第11回	内容	言葉とコミュニケーション	予習	心に響いた言葉について考えてくる				
				復習	グループワークを通して学んだコミュニケーションについて自分の考えをまとめる				
	第12回	内容	道徳教育を考える	予習	道徳について調べてくる				
				復習	子どもへの道徳教育のあり方について考えをまとめる				
	第13回	内容	子育ての心理学	予習	子育てに関連する情報を調べる				
				復習	子育てについて自分の考えをまとめる				
	第14回	内容	実行機能の発達と自己決定理論	予習	実行機能、動機づけについて調べる				
				復習	動機づけについて学んだことをまとめる				
	第15回	内容	課題の発表とまとめ 日常に生かす心理学	予習	授業を通して学んだことを整理する				
				復習	学んだ知見の活用についてまとめる				
予習に要する学習時間：概ね 90 分を目安とする。 復習に要する学習時間：概ね 90 分を目安とする。									
課題へのフィードバック	レポートにコメントをする。								
成績評価	試験期間における定期試験：実施（ ）する／（○）しない 成績評価の方法：レポート・課題（50%）、授業態度【積極的参加】（50%）								
教科書	『書名』（著者名、出版社名） なし								

参考文献	『書名』（著者名、出版社名） 講義の中で適宜紹介します
補足事項	https://drive.google.com/file/d/1htZsjIyJUnpuhWKqphnaPXM6o5-FvcEL/view?usp=drive_link

科 目 名	親子関係論		単 位 数	2	授業時間数	3 0	担当教員	こんどう まゆこ 近 藤 麻由子		
ナバ`リング`コード`	SWSI2104		授業形態	講義	実務経験					
授 業 方 式	対面 ・ 遠隔 ・ その他（ ）					アクティブ・ラーニングの実施		有 ・ 無		
授 業 の 内 容	・地域で『親子のふれあい』を伝えることが必要な社会的背景や産後の母親の支援の重要性について理解する ・ベビーマッサージ指導を通して親子の絆を深める援助ができることを目的とする									
到 達 目 標	1. 地域における親子関係の支援の必要性と方法について理解している 2. ベビーマッサージの利点や効果を説明できる 3. ベビーマッサージの手技の指導を行う力を身につけている									
学位授与方針	幼児教育学科（ ）地域保育学科（ 3.4 ）文化表現学科（ ）									
授 業 計 画	第1回	内容	オリエンテーション、ベビーマッサージとは	予習	シラバスを読んでおく					
				復習	この科目で習得できる内容を理解する					
	第2回	内容	ベビーマッサージの歴史と始める時期	予習	ベビーマッサージについて調べてくる					
				復習	テキスト「ベビーマッサージの歴史」を読む					
	第3回	内容	「許可を得てふれる」ということ、お人形の扱い方 ベビーマッサージの基本、グループワーク	予習	バウンダリーについて調べてくる					
				復習	「許可を得てふれる」の復習					
	第4回	内容	ベビーマッサージの10の利点 脚・お腹のマッサージ	予習	動画「脚・お腹のマッサージ」を視聴し練習					
				復習	脚・お腹の手技を指導できるように練習					
	第5回	内容	赤ちゃんの皮膚について、植物オイルとオイルパッチテストについて、グループワーク、胸のマッサージ	予習	植物オイルの種類について調べてくる					
				復習	パッチテストの台本を作成する					
	第6回	内容	産後のお母さんの変化、産後うつ予防と産前産後ケアについて、実技復習	予習	「産後うつ」「産後ケア」について調べてくる					
				復習	脚・お腹・胸の手技を指導できるように練習					
	第7回	内容	「脚・お腹・胸」実技チェック（ロールプレイング） 腕のマッサージ	予習	動画で実技チェックの該当箇所を視聴し練習					
				復習	腕の手技を指導できるように練習					
	第8回	内容	赤ちゃんの運動発達と感覚（前庭感覚・固有受容感覚） 顔・背中中のマッサージ	予習	動画「顔・背中中のマッサージ」を視聴し練習					
				復習	顔・背中中の手技を指導できるように練習					
	第9回	内容	赤ちゃんの神経発達と自律神経、生理機能について ベビーマッサージで育てる感覚（触覚など）、実技復習	予習	テキスト「赤ちゃんの神経発達」を読む					
				復習	動画で実技チェックの該当箇所を視聴し練習					
	第10回	内容	「腕・顔・背中」実技チェック（ロールプレイング） 歌に合わせたベビーマッサージ	予習	動画で実技チェックの該当箇所を視聴し練習					
				復習	歌に合わせたベビーマッサージを練習					
	第11回	内容	身体・心理・社会的効果、グループワーク ベビーマッサージ10の利点のまとめ	予習	プレゼンテーション課題のテーマを考えてくる					
				復習	プレゼンテーション課題を作成する					
	第12回	内容	地域講座の目的と組み立て方 プレゼンテーション課題作成	予習	地域のベビーマッサージ講座について調べる					
				復習	プレゼンテーション課題を作成する					
	第13回	内容	保育の中の「ふれること」、デモクラス計画作成 乳幼児期に育てる接触のルール	予習	デモクラスの計画を考えてくる					
				復習	デモクラスの該当箇所を総復習してくる					
	第14回	内容	ベビーマッサージデモクラス	予習	習ってきた実技を総復習する					
				復習	デモクラスの振り返りをまとめてくる					
	第15回	内容	参観日等への応用、ストーリータッチ	予習	保育の中で応用できることを考えてくる					
				復習	今後資格をどのように活かしていくかまとめる					
	予習に要する学習時間：概ね90分を目安とする。 復習に要する学習時間：概ね90分を目安とする。									
	課題へのフィードバック	作成された課題へのコメントを行う。実技部分はグループごとによる実技チェックを行う。								
	成績評価	試験期間における定期試験：実施（ ）する／（ ○ ）しない 成績評価の方法： 筆記試験（ ）%、レポート・課題（ 30%）、作品・発表（ 20%）、実技（ 20%）、授業態度【積極的参加】（ 30%）								
教科書	『ベビーマッサージテキスト講義編』（JABC 日本ベビー＆チャイルドケア協会） 『ベビーマッサージテキスト実技編』（JABC 日本ベビー＆チャイルドケア協会）									
参考文献	『幸せになる脳は抱っこで育つ。』（山口創 廣済堂出版）									
補足事項	グループワークや意見の発表など積極的な態度での受講を望みます。 親子関係論ルーブリック https://drive.google.com/file/d/1IUyMLvzLLAmHnnZZGPrH7WkveQ2cjNPf/view?usp=sharing									

科 目 名	保育・教育課程論		単 位 数	2	授業時間数	3 0	担当教員	こやま れいこ 小山 玲子
ナバ`リング`コード`	EDU12201		授業形態	講義	実務経験			
授 業 方 式	対面 ・ 遠隔 ・ その他（ ）				アクティブ・ラーニングの実施		有 ・ 無	
授 業 の 内 容	園の包括的な基本方針(幼稚園、保育所、幼保連携型こども園共通)である「教育課程」「全体的な計画」の構成と関連する指導計画並びに指導計画作成上の留意事項を保育現場での具体的な事例を通して学ぶ。幼稚園や保育所の保育内容などの保育の基本を理解した上で、保育実践における部分実習案等の立案の仕方を身につける。ポートフォリオ・ドキュメンテーション・連絡帳など保育活動を可視化することで見えてくる子ども理解や保育者としての成長について考えながら、保育の内容と評価に基づく記録方法や改善に対する理解を深める。							
到 達 目 標	1. 教育課程、保育の全体的な計画、指導計画の意義について学び、作成について目的を理解している。 2. 子どもの発達の過程・特徴を理解し、指導計画の作成を通して作成のポイント、方法について理解している。 3. 実際の保育方法や保育の形態と内容、保育記録・評価反省・改善の意義・目的について理解している。							
学位授与方針	幼児教育学科（ 1・3・4 ）地域保育学科（ ）文化表現学科（ ）							
授 業 計 画	第 1 回	内容	オリエンテーション・保育の基本について	予習	シラバス、教科書①、②の目次を確認する			
				復習	保育の基本について整理する			
	第 2 回	内容	教育課程・全体的な計画と指導計画	予習	教科書①第2章P27～31の通読			
				復習	教育課程・全体的な計画をまとめる			
	第 3 回	内容	幼児期の終わりまでに育ってほしい姿（10の姿）	予習	幼児期の終わりまでに育ってほしい姿の通読			
				復習	配布プリントのまとめを行う			
	第 4 回	内容	幼稚園の理解 グループワーク	予習	教育要領の通読、教育課程について調べる			
				復習	教育課程作成のポイントを復習する			
	第 5 回	内容	保育所の理解 グループワーク	予習	保育所の全体的な計画について調べる			
				復習	全体的な計画作成のポイントを復習する			
	第 6 回	内容	3・4・5 歳児の特徴と指導計画 グループワーク	予習	配布プリントの通読			
				復習	3・4・5 歳児の特徴を理解し整理する			
	第 7 回	内容	子どもの育ちと保育の1年間の流れ・行事の準備	予習	自分の幼児期に体験した行事を思い出す			
				復習	配布プリントのまとめを行う			
	第 8 回	内容	乳児、1・2 歳児の特徴と指導計画 グループワーク	予習	教科書①第6章P135～142の通読			
				復習	0・1・2 歳児の特徴を理解し整理する			
	第 9 回	内容	指導計画の作成の基本とその方法	予習	教科書②指導案編P70～79の通読			
				復習	配布プリントのまとめを行う			
	第 10 回	内容	部分実習指導案の立案・作成①	予習	部分実習の内容を考える			
				復習	部分実習指導案を完成させる			
	第 11 回	内容	保育の実践と評価	予習	PDCAサイクルについて調べる			
				復習	保育の評価・省察を理解する			
	第 12 回	内容	部分実習指導案の立案・作成②	予習	返却された部分実習指導案の見直し・訂正			
				復習	部分実習指導案の完成(次回の授業提出)			
	第 13 回	内容	子ども理解や保育者としての成長につながる保育の記録ミニテスト	予習	ドキュメンテーションについて調べる			
				復習	ミニテストの振り返りを行う			
	第 14 回	内容	教育・保育施設と小学校との連携 グループワーク	予習	自分の自治体の幼保小連携について調べる			
				復習	接続期カリキュラム等を理解する			
	第 15 回	内容	授業のまとめ（授業内レポート）	予習	第1～14回配布プリントを見直す			
				復習	シラバス、教科書①、②の目次を確認する			
	予習に要する学習時間：概ね 60 分を目安とする。 復習に要する学習時間：概ね 120 分を目安とする。							
	課題へのフィードバック	提出課題に関しては確認後、授業内で補足説明や解説講義を行う。						
成績評価	試験期間における定期試験：実施（ ）する／（ ○ ）しない 成績評価の方法： レポート・課題(50%)、ミニテスト(20%)、授業態度【積極的参加】(30%)							
教科書	『書名』（著者名、出版社名）『教育課程・保育の計画と評価 書いて学べる指導計画』（岩崎淳子・及川留美・粕谷亘正、萌文書林）							
参考文献	『書名』（著者名、出版社）『保育所保育指針』（厚生労働省、フレーベル館）『幼稚園教育要領』（文部科学省、フレーベル館）							
補足事項	配布資料はファイリングし、レポート・課題など提出期限は必ず守ること。グループ協議等に積極的に参加すること。 https://drive.google.com/file/d/1oHTmeVw2aHsAJAdNXmKYZEmdn8BipqplG/view?usp=sharing							

科 目 名	保育内容総論		単 位 数	I	授業時間数	30	担当教員	いざわ えいしゅう
ナバ`リング`コード`	EDUI2202		授業形態	演習	実務経験			伊澤 永 修
授 業 方 式	対面 ・ 遠隔 ・ その他（ ）					アクティブ・ラーニングの実施		有 ・ 無
授 業 の 内 容	幼児教育は総合的な指導をするという考え方から、5領域、幼児期に育みたい資質・能力、幼児期までに育ってほしい姿それぞれを理解し、またそれらの関係性を理解した上で保育を構築できるようにする。そのために具体的な子どもの姿を考えながら保育内容と指導法についてグループディスカッションし、理解を深める。							
到 達 目 標	1. 「育みたい資質・能力」「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」と保育内容の関係性を理解している 2. 子どもを取り巻く社会や環境の実態に即した具体的な保育課程を構築できる 3. 保育の多様な展開について具体的に理解している							
学位授与方針	幼児教育学科（2、3、5）地域保育学科（ ）文化表現学科（ ）							
授 業 計 画	第1回	内容	保育内容総論と保育内容総論を学ぶ目的について 乳幼児期の保育の基本について	予習	これまでの学びを通して保育の基本についてまとめておく			
				復習	授業の内容を受けて改めて保育の基本及び保育内容についての振り返りを行う			
	第2回	内容	保育内容と保育内容の基本について	予習	要領や指針の該当部分を読み返しておく			
				復習	授業内容を踏まえ改めて要領や指針の該当部分を読み理解を深める			
	第3回	内容	保育と教育について 保育における遊びについて	予習	保育と教育について要領や指針の該当部分を読み理解を深めておく 保育における遊びについて考えておく			
				復習	授業を受けて保育と教育や遊びについてのまとめを行う			
	第4回	内容	保育内容の歴史について（1）	予習	保育内容の歴史をまとめておく			
				復習	授業内容を踏まえてより細かく保育内容の歴史をまとめ直す			
	第5回	内容	保育内容の歴史について（2） 幼小連携の歩みについて（1）	予習	これまでの学びを通して幼児教育と小学校教育の違いについてまとめておく			
				復習	授業内容を踏まえて事前にまとめた内容の修正を行い理解を深める			
	第6回	内容	幼小連携の歩みについて（2）	予習	前回の授業内容の振り返りを行い、具体的な幼小の連携方法について考えておく			
				復習	授業内での幼小連携の具体例を通して自分なりの幼小の連携についての考えをまとめる			
	第7回	内容	幼児期に育みたい資質・能力について（1）	予習	要領や指針の該当部分を読み返しておく			
				復習	幼児期に育みたい資質・能力について授業内で解説した部分のまとめを行い理解を深める			
	第8回	内容	幼児期に育みたい資質・能力について（2）	予習	要領や指針の該当部分を読み返しておく			
				復習	幼児期に育みたい資質・能力について授業内で解説した部分のまとめを行い理解を深める			
	第9回	内容	視聴覚教材を活用して映像から子どもの育ちと気持ちを読み取る（1） グループディスカッション及び発表	予習	子どもの発達過程について確認しておく			
				復習	映像視聴及びグループディスカッションをもとに子どもの育ちと気持ちの読み取り方と保育者としての関わり方についてまとめる			
	第10回	内容	視聴覚教材を活用して映像から子どもの育ちと気持ちを読み取る（2） グループディスカッション及び発表	予習	子どもの発達過程について確認しておく			
				復習	映像視聴及びグループディスカッションをもとに子どもの育ちと気持ちの読み取り方と保育者としての関わり方についてまとめる			
	第11回	内容	ケーススタディ（子どもの気持ちを読み取り保育者としての関わり方を考える）（1） グループディスカッション及び発表	予習	子どもの発達過程について確認しておく			
				復習	ケーススタディ及びグループディスカッションをもとに子どもの育ちと気持ちの読み取り方と保育者としての関わり方についてまとめる			
	第12回	内容	ケーススタディ（子どもの気持ちを読み取り保育者としての関わり方を考える）（2） グループディスカッション及び発表	予習	子どもの発達過程について確認しておく			
				復習	ケーススタディ及びグループディスカッションをもとに子どもの育ちと気持ちの読み取り方と保育者としての関わり方についてまとめる			
	第13回	内容	幼児期の終わりまでに育ってほしい姿について（1）	予習	要領や指針の該当部分を読み返しておく			
				復習	幼児期の終わりまでに育ってほしい姿について授業内で解説した部分のまとめを行い理解を深める			
					予習	要領や指針の該当部分を読み返しておく		

	第 14 回	内容	幼児期の終わりまでに育ってほしい姿について（２）	復習	幼児期の終わりまでに育ってほしい姿について 授業内で解説した部分のまとめを行い理解を深める
	第 15 回	内容	子どもを取り巻く環境と現代の保育ニーズの多様化について及び総まとめ	予習	現代社会においてどのような課題と保育ニーズがあるかまとめておく
				復習	授業内容を受けて様々な課題や保育ニーズに応えるための保育についてまとめる
	予習に要する学習時間：概ね 25 分を目安とする。 復習に要する学習時間：概ね 20 分を目安とする。				
課題へのフィードバック	提出物に関する評価を行い、適宜返却時に評価を通知する。				
成績評価	試験期間における定期試験：実施（ ）する／（○）しない 成績評価の方法： 筆記試験（ ）％、レポート・課題（60％）、作品・発表（ ）％、実技（ ）％、授業態度【参加度合】（40％）				
教科書	必要に応じて授業内で指示する				
参考文献	『保育所保育指針』『幼稚園教育要領』『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』フレーベル館				
補足事項	ルーブリック：https://drive.google.com/file/d/106HbBseWB4cgfcg9Wnv_kwpTyg5PXw7q/view?usp=sharing				

科 目 名	乳児保育Ⅰ		単 位 数	2	授業時間数	30	担当教員	はぎわら やすこ 萩原 康子
ナンバリングコード	CHS12101		授業形態	講義	実務経験			
授 業 方 式	対面 ・ 遠隔 ・ その他（ ）					アクティブ・ラーニングの実施		有 ・ 無
授 業 の 内 容	3歳未満児の発育・発達の特徴、生活・遊びの実際と援助、配慮について学ぶ。 講義、ビデオ視聴、保育現場での事例等を通して理解を深め、乳児保育に必要な知識を身につける。 3歳未満児の長期的計画、短期的計画、個別計画について、個人ワークや全体発表を通して具体的に学ぶ。							
到 達 目 標	1. 3歳未満児の保育における養護と教育の一体性について理解している 2. 3歳未満児の発達支援と家庭支援について説明できる。 3. 3歳未満児の生活の連続性、発達の連続性、遊びの連続性について説明できる。							
学位授与方針	幼児教育学科（2,4,5）地域保育学科（ ）文化表現学科（ ）							
授 業 計 画	第1回	内容	ガイダンス	予習	シラバスを読み本科目で修得する内容を知る			
			乳児保育の意義・目的と歴史の変遷	復習	乳児保育の重要性、乳児保育の歴史を整理する			
	第2回	内容	乳児の子育て家庭に対する支援をめぐる社会的状況と課題	予習	家庭や地域の子育て機能の低下について調べる			
				復習	時代に即した子育て支援のあり方を整理する			
	第3回	内容	保育所における乳児保育	予習	長時間保育における課題について調べる			
				復習	保育所の機能と役割について整理する			
	第4回	内容	保育所以外の児童福祉施設（乳児院等）における乳児保育	予習	保育所以外の児童福祉施設について調べる			
				復習	乳児院の役割と生活を整理する			
	第5回	内容	家庭的保育・小規模保育等における乳児保育	予習	家庭的保育、小規模保育について調べる			
				復習	家庭的保育、小規模保育、地域型保育の特徴を整理する			
	第6回	内容	3歳未満児の家庭を取り巻く環境と子育て支援	予習	子どもの最善の利益について調べる			
				復習	事例から学んだ内容をレポートにまとめる			
	第7回	内容	3歳未満児の生活と環境	予習	保育の人的環境、物的環境について調べる			
				復習	乳児の保育室の環境構成のあり方を整理する			
	第8回	内容	3歳未満児の遊びと環境	予習	視覚、四肢、手指、言葉の発達について調べる			
				復習	発達に応じた遊びの環境と配慮事項を整理する			
	第9回	内容	3歳以上児の保育に移行する時期の保育	予習	0歳から1歳、1歳から2歳、2歳から3歳に移行する際の留意点について調べる			
				復習	乳児保育における総合的な育ちについてレポートにまとめる			
	第10回	内容	3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育者による援助や関わり	予習	運動発達、微細発達、認知発達、関係性の発達、応答的な対応について調べる			
				復習	乳児の発達の特徴と援助のあり方を整理する			
	第11回	内容	3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育における配慮	予習	健康、安全、情緒に関する配慮事項を調べる			
				復習	保育中の健康把握、安全管理についてレポートにまとめる			
	第12回	内容	乳児保育の計画・記録・評価の関連性	予習	保育の長期的計画、短期的計画について調べる			
				復習	計画、実践、記録、評価の関連性を整理する			
	第13回	内容	職員間の連携と協働	予習	保育士の役割と業務について調べる			
				復習	保育士に求められる専門性、人間性を整理する			
	第14回	内容	保護者との連携と協働	予習	子育て支援の必要性について調べる			
				復習	保護者と連携して子どもの育ちを支える視点について整理する			
	第15回	内容	自治体や地域の関係機関との連携と協働	予習	児童虐待について国内の事例を調べる			
				復習	保育所と地域との連携の重要性を整理する			
予習に要する学習時間：概ね90分を目安とする。 復習に要する学習時間：概ね90分を目安とする。								
課題へのフィードバック	授業内に実施する小テスト、提出されたレポート、リアクションペーパーに記載された質問について全体に説明を行う。 授業内に質問を受ける時間を設け、フィードバックできる環境を整える。							
成績評価	試験期間における定期試験：実施（ ）する／（○）しない 成績評価の方法：筆記試験（50%）、レポート・課題（30%）、授業態度【リアクションペーパーの記載内容含む】（20%）							
教科書	『書名』（著者名、出版社名） 『0,1,2歳児の発達と保育 乳幼児の遊びと生活』 乳幼児の発達と保育研究会〔著〕 郁洋舎〔出版〕							
参考文献	『書名』（著者名、出版社名） 厚生労働省『保育所保育指針』（平成29年告示）							

補足事項	リアクションペーパーに毎回学んだことや感想等を記入して提出すること。配布資料はファイリングして毎回の授業に持参すること
------	---

科 目 名	乳児保育Ⅱ		単 位 数	1	授業時間数	30	担当教員	はぎわら やすこ 萩原 康子
ナバ`リング`コード`	CHSI2201		授業形態	演習	実務経験			
授 業 方 式	対面 ・ 遠隔 ・ その他（ ）				アクティブ・ラーニングの実施		有 ・ 無	
授 業 の 内 容	乳児保育Ⅰの学習を基に愛着関係の必要性を理解し、3歳未満児の発育・発達の特徴や生活・遊びの実際と援助、配慮について学ぶ。 ビデオ視聴や保育現場での事例、演習等を通して理解を深め、乳児保育に必要な知識と技術を身につける。 指導計画の作成について、個人ワークや全体発表等で具体的に学ぶ。							
到 達 目 標	1. 3歳未満児の発育・発達の過程や特性を踏まえた援助や関わりについて基本的な考え方を理解している。 2. 3歳未満児の子どもの生活や遊びに関する配慮事項及び環境構成について具体的に説明できる。 3. 3歳未満児の保育における指導計画の必要性について具体的に説明できる。							
学位授与方針	幼児教育学科（2,3,4）地域保育学科（ ）文化表現学科（ ）							
授 業 計 画	第1回	内容	ガイダンス 乳児保育の基本① 子どもと保育士等との関係の重要性	予習	シラバスを読み、本科目の習得内容を確認する			
				復習	心の土台としての愛着形成の重要性を整理する			
	第2回	内容	乳児保育の基本②【演習】 個々の子どもに応じた援助や受容的・応答的関わり	予習	共感・受容の意味について調べる			
				復習	対人関係の発達について整理する			
	第3回	内容	乳児保育の基本③【演習】 子どもの主体性の尊重と自己の育ち	予習	個別対応の重要性について調べる			
				復習	自我の芽生えと自己主張について整理する			
	第4回	内容	乳児保育の基本④【演習】 子どもの体験と学びの芽生え	予習	主体性を尊重することの意味について調べる			
				復習	乳児保育の基本についてレポートにまとめる			
	第5回	内容	乳児期の発育・発達を踏まえた生活と遊びの実際①【演習】 子どもの一日の生活の流れを踏まえた保育環境	予習	乳児保育の生活と遊びの内面について調べる			
				復習	保育の一日の流れと環境のあり方を整理する			
	第6回	内容	乳児期の発育・発達を踏まえた生活と遊びの実際②【演習】 子どもの生活や遊びを支える環境構成	予習	乳児保育の環境構成について調べる			
				復習	生活や遊びを支える環境のあり方を整理する			
	第7回	内容	乳児期の発育・発達を踏まえた生活と遊びの実際③【演習】 3歳未満児の発育・発達を踏まえた遊び	予習	落ち着いて過ごせる環境について調べる			
				復習	演習を通して体験したことを振り返り整理する			
	第8回	内容	乳児期の発育・発達を踏まえた生活と遊びの実際④【演習】 3歳未満児の発育・発達を踏まえた生活	予習	基本的生活習慣とは、どのようなことか調べる			
				復習	演習を通して体験したことを振り返り整理する			
	第9回	内容	乳児期の発育・発達を踏まえた生活と遊びの実際⑤【演習】 子ども同士の関わりと援助	予習	3歳未満児の子ども同士の関りについて調べる			
				復習	演習を通して体験したことを振り返り整理する			
	第10回	内容	乳児保育における配慮の実際①【演習】 子どもの心身の健康・安全と情緒の安定を図るための配慮	予習	安全・安心のために必要な配慮について調べる			
				復習	発達を踏まえた援助の方法を整理する			
	第11回	内容	乳児保育における配慮の実際②【演習】 集団での生活における配慮	予習	集団生活を見据えた個別の配慮について調べる			
				復習	演習を通して体験したことを振り返り整理する			
	第12回	内容	乳児保育における配慮の実際③【演習】 環境の変化や移行に関する配慮	予習	3歳以上児の保育に移行する際の配慮を調べる			
				復習	乳児保育における配慮をレポートにまとめる			
	第13回	内容	乳児保育における計画の実際①【演習】 長期的な指導計画と短期的な指導計画	予習	全体的な計画と他の指導計画の関連性を調べる			
				復習	指導計画を作成する意味・必要性を整理する			
	第14回	内容	乳児保育における計画の実際②【演習】 個別的な指導計画と集団の指導計画	予習	個別の指導計画について調べる			
				復習	指導計画の評価・反省の方法について整理する			
	第15回	内容	まとめ 乳児保育の総合理解【演習】 乳児保育の意義と重要性	予習	授業内に配布した資料を基に要点を再確認する			
				復習	乳児保育の意義と重要性について整理する			
予習に要する学習時間：概ね90分を目安とする。 復習に要する学習時間：概ね90分を目安とする。								
課題へのフィードバック	授業内にて実施する小テスト、作成したレポート、リアクションペーパーに記載された質問について全体に説明を行う。 授業内にて質問を受ける時間を設け、フィードバックできる環境を整える。演習後の実技を通して修得状況を確認する。							
成績評価	試験期間における定期試験：実施（ ）する／（○）しない 成績評価の方法：授業内のミニテスト・レポート・課題（40％）、実技（30％）、授業態度【向上心、意欲的な参加】（30％）							
教科書	『書名』（著者名、出版社名） 『0,1,2歳児の発達と保育 乳幼児の遊びと生活』 乳幼児の発達と保育研究会〔著〕 郁洋舎〔出版〕							
参考文献	『書名』（著者名、出版社名） 厚生労働省『保育所保育指針』（平成29年告示）							
補足事項	リアクションペーパーには、毎回学んだことや感想等を記入して提出すること。配布資料はファイリングし、毎回の授業に持参すること。							

科 目 名	子どもの健康と安全			単 位 数	I	授業時間数	30	担当教員	み た のりこ 味田 徳子
ナバ`リング`コード`	AHS1220I			授業形態	演習	実務経験			
授 業 方 式	対面 ・ 遠隔 ・ その他（ ）						アクティブ・ラーニングの実施		有 ・ 無
授 業 の 内 容	子どもの心と身体の健康を保持・増進するための保健活動について「子どもの保健」で得た知識を実践できるように演習を行い、習得することを目的とする。 保育のための養護技術、体調不良時の対応やケガの応急手当等の保健的な内容及び保健管理の方法について演習を通して理解を深める。感染を含めた事故防止の知識を深める。								
到 達 目 標	1. 子どもの健康状態の評価ができる 2. 病気や事故発生時など、緊急時の対応ができる。また予防のための対策を理解している 3. 集団保育における環境と安全対策を理解している								
学位授与方針	幼児教育学科（ 1、2、3、4、5 ）地域保育学科（ ）文化表現学科（ ）								
授 業 計 画	第1回	内容	オリエンテーション 子どもの健康と保育環境			予習	教科書 P167～168 を読む		
						復習	この科目で習得すべき内容を理解する		
	第2回	内容	保育における健康および安全の管理① 衛生管理			予習	教科書 P168～172 を読む		
						復習	保育所における保育環境・衛生管理をまとめる		
	第3回	内容	保育における健康および安全の管理② 事故防止及び安全対策			予習	教科書 P1173～180 を読む		
						復習	安全教育・安全管理についてまとめる		
	第4回	内容	保育における健康および安全の管理③ 危機管理と災害の備え/避難訓練・安全教育			予習	教科書 P181～186 を読む 避難訓練指導案を考えてくる		
						復習	災害時、避難誘導のポイントをまとめる		
	第5回	内容	体調不良や障害が発生した場合の対応 体調不良、傷害①創傷②打撲③出血④火傷			予習	教科書 P187～191 を読む 子どもの保健で学んだバイタルサインについて復習しておく		
						復習	症状についての対応方法をまとめる		
	第6回	内容	小テスト①（第1回～第5回） 感染症の集団発生・予防対策			予習	教科書 P209～214 を読む		
						復習	感染症対策ガイドラインを再確認する		
	第7回	内容	応急処置：誤飲・誤嚥、熱中症、溺水、SIDS			予習	教科書 P191～201 を読む		
						復習	演習でのポイントをまとめる		
	第8回	内容	救急処置と蘇生法			予習	教科書 P205～208 を読む		
						復習	演習のポイントについてまとめる		
	第9回	内容	個別的な配慮を要する子どもへの対応			予習	教科書 P217～235 を読んでおく		
						復習	発達障害の支援方法についてまとめる		
	第10回	内容	病児保育：保育における保健的対応の基本的考え方			予習	教科書 P215～217 を読む		
						復習	病児保育のポイントについてまとめる		
	第11回	内容	3歳未満児への対応			予習	教科書 P159～161 を読んでおく		
						復習	オムツ交換のポイントについてまとめる		
	第12回	内容	沐浴 身体計測と評価 ※母子健康手帳の確認			予習	教科書 P161 ～ 163 を読んでおく		
						復習	沐浴のポイント、身体計測評価についてまとめる		
	第13回	内容	小テスト②（第7～第11回） 保育者間の連携・協同、協同と組織の取り組み 事故防止・ヒヤリハット記録・グループ討議（事例検討）			予習	教科書 P237～ 238 を読む		
						復習	保育者間の連携のポイントについてまとめる		
第14回	内容	保育における保健活動の計画と評価 保健だより作成			予習	教科書 P238～242 を読む			
					復習	自分の誕生月の保健だよりを作成する			
第15回	内容	母子保健・地域保健と保育 健康診査（妊婦健診、乳幼児健診） 家庭、専門機関、地域の関係機関などとの連携			予習	教科書 P243～249 を読む			
					復習	自分の母子健康手帳を見直し、現在との違いを見つける			
予習に要する学習時間：概ね 45分を目安とする。 復習に要する学習時間：概ね 45分を目安とする。									
課題へのフィードバック	レポート・課題は採点后、返却する。 実技試験前に試験チェックポイントについて確認し、実施後振り返る。								
成績評価	試験期間における定期試験：実施（ ）する／（ ）しない 成績評価の方法： 実技または筆記試験（ 70%）、レポート・課題（ 10%）、授業態度【演習：積極性、身だしなみ】（ 20%） ルーブリック URL： https://drive.google.com/file/d/1GxGbgQC15ckvjKf6HXkqK06vY0YKNT/view?usp=drive_link								

教科書	『保育者・養護教諭を目指す人のための子どもの保健～健康と安全～』（大澤真木子・小國美也子、へるす出版）
参考文献	『これならわかる！子どもの保健演習ノート』（小林美由紀、診断と治療社）
補足事項	1、演習時は、動きやすい服装、エプロンを着用し、髪をまとめ、爪は短くするなどの身だしなみを整える。 2、演習、準備、後片付けなど主体的に取り組むことで、授業態度における積極性と評価する。 3、主にグループ毎での活動となるため、演習がスムーズ行くように自分の役割を考え積極的に行動する。

科 目 名	特別支援教育論	単 位 数	2	授業時間数	3 0	担当教員	せき ゆいこ 関 維子
ナバ`リング`コード`	SNE12201	授業形態	演習	実務経験			
授 業 方 式	対面 ・ 遠隔 ・ その他（ ）				アクティブ・ラーニングの実施		有 ・ 無
授 業 の 内 容	障害者の権利条約と国内法の整備、教育制度の転換を踏まえて、インクルーシブ教育の理念と特別支援教育について体系的に学ぶ。また、障害のある子どもや特別な支援を要する子ども一人ひとりの教育的ニーズに応じた指導と支援の実践について学び、自立と社会参加に向けた教育的支援と合理的配慮について理解する。						
到 達 目 標	1. インクルーシブ教育・保育の理念と実践について具体的に説明できる。 2. 障害や特別な配慮が必要な子ども一人ひとりのニーズに応じた指導内容や指導方法について理解している。 3. 家庭や関係機関との連携について理解している。						
学位授与方針	幼児教育学科（ 3・5 ）地域保育学科（ ）文化表現学科（ ）						
授 業 計 画	第1回	内容	オリエンテーション、保育と特別支援教育 特別支援教育の理念とインクルーシブ教育システム		予習	シラバスを読む。	
					復習	特別支援教育のキーワードについてまとめる。	
	第2回	内容	特殊教育から特別支援教育への転換 特別支援教育の現状と教育制度		予習	特殊教育の特徴について調べる。	
					復習	就学制度の改正についてまとめる。	
	第3回	内容	障害とは：ICFの理解 障害のある子どもの教育を保障する法律・制度		予習	障害とは何かについて自分の考えをまとめる。	
					復習	ICIDH から ICF への改訂についてまとめる。	
	第4回	内容	保育や教育における合理的配慮と基礎的環境整備 ユニバーサルデザインとバリアフリー		予習	障害者差別解消法について調べる。	
					復習	合理的配慮の具体例についてまとめる。	
	第5回	内容	障害の理解と教育① 視覚障害児・聴覚障害児の理解		予習	身の回りにおける合理的配慮について調べる。	
					復習	視覚障害、聴覚障害への配慮事項をまとめる。	
	第6回	内容	障害の理解と教育② 知的障害児・肢体不自由児・病弱児・医療的ケア児の理解		予習	身の回りにおける合理的配慮について調べる。	
					復習	安全な保育のための配慮についてまとめる。	
	第7回	内容	障害の理解と教育③ 気になる子ども、発達障害児の理解		予習	身の回りにおける視覚的支援について調べる。	
					復習	障害特性に合わせた環境構成をまとめる。	
	第8回	内容	障害の理解と教育④ 発達障害の理解と支援		予習	「療育」の定義について調べる。	
					復習	療育の原則についてまとめる。	
	第9回	内容	障害の理解と教育⑤ 発達障害の理解と支援		予習	障害特性について調べる。	
					復習	障害特性についてまとめる。	
	第10回	内容	保育における園内環境の工夫 障害特性に配慮した遊びと活動①		予習	環境構成について調べる。	
					復習	障害特性に配慮した遊びを考える。	
	第11回	内容	保育における遊びと活動② グループ活動		予習	障害特性に配慮した遊びの準備をする。	
					復習	遊びの振り返りをまとめる。	
	第12回	内容	クラスの指導日案の作成、個別と集団への配慮 日案についてグループディスカッションをする。		予習	特別支援教育における計画の種類を調べる。	
					復習	目標設定のポイントについてまとめる。	
	第13回	内容	「個別の指導計画」と「個別的教育支援計画」 目標についてグループディスカッションをする。		予習	居住地の特別支援学級の設置状況を調べる。	
					復習	就学相談の流れについてまとめる。	
	第14回	内容	特別支援学校・特別支援学級の特徴 就学相談と就学に向けた移行支援と連携		予習	就学相談について調べる。	
					復習	保護者及び関係機関との連携についてまとめる。	
	第15回	内容	障害のある子どもの保護者に対する理解と支援 保護者の思いについてグループディスカッションをする。		予習	障害児の親に関する記事を読む。	
					復習	14回の授業の振り返りをまとめる。	
	予習に要する学習時間：概ね90分を目安とする。 復習に要する学習時間：概ね90分を目安とする。						
課題へのフィードバック	レポートや製作物については、コメントを付して返却する。 発表やディスカッションについては、発表後に講評を行う。						
成績評価	試験期間における定期試験：実施（ ）する／（ ）しない 成績評価の方法：筆記試験（ ）、レポート・課題（60%）、作品・発表（20%）、実技（ ）、授業態度【積極的参加】（20%）						
教科書	『書名』（著者名、出版社名） 『保育の特別支援教育』（編著：松井 剛太・七木田 敦、教育情報出版）						
参考文献	『書名』（著者名、出版社名） 『発達障害支援の基本』（内山登紀夫 日本評論社）その他、授業内で随時紹介する。						
補足事項	授業の進度により、インクルーシブな遊びや教材の製作を取り入れる予定です。						

科 目 名	子育て支援		単 位 数	I	授業時間数	30	担当教員	せき 関 ゆいこ 維子	
ナバ`リング`コード`	SWSI2203		授業形態	演習	実務経験				
授 業 方 式	対面 ・ 遠隔 ・ その他（ ）					アクティブ・ラーニングの実施		有 ・ 無	
授 業 の 内 容	地域における「子育て支援」の基幹施設としての保育施設（保育所・幼稚園・認定こども園）の機能と役割について理解し、保育者が行う子育て支援のあり方について検討する。併せて、ロールプレイや事例検討を通じて、相談支援における保護者との相互理解や職員間の連携・機関連携の方法について具体的に理解することを目的とする。								
到 達 目 標	1. 子育て支援に関する子ども及び保護者のニーズと社会資源について理解している。 2. 保育相談支援における保護者との相互理解に向けた基本姿勢を身につけている。 3. 実践事例を通して、保育士が行う子育て支援の内容と方法を具体的に理解している。								
学位授与方針	幼児教育学科（ 2・3・5 ）地域保育学科（ ）文化表現学科（ ）								
授 業 計 画	第1回	内容	オリエンテーション			予習	シラバスを読む。		
			保育と子育て支援とは			復習	保育所保育指針の「子育て支援」を読む。		
	第2回	内容	子どもと保護者、家庭が抱える子育て支援のニーズ 保育の場における行う子育て支援			予習	居住地の子育て支援策について調べる。		
						復習	保育士が行う子育て支援の特徴をまとめる。		
	第3回	内容	子育て支援における基本的な価値・倫理			予習	子どもの最善の利益について調べる。		
						復習	ストレングスとエンパワメントの定義についてまとめる。		
	第4回	内容	保育士による相談支援の実際 保護者との相互理解と信頼関係の形成			予習	「ラポール」について調べる。		
						復習	相談の環境構成を考え、図を作成する。		
	第5回	内容	相談支援における記録・評価・計画			予習	保育に関する計画の種類について調べる。		
						復習	模擬事例に関する支援計画の作成		
	第6回	内容	子どもの育ちの共有① 日常場面・文面・行事を活用した支援			予習	ドキュメンテーションについて調べる。		
						復習	ドキュメンテーションを作成する。		
	第7回	内容	育児不安のある保護者への支援 園に否定的な感情を抱く保護者への支援			予習	「育児不安」とは何かについて調べる。		
						復習	保護者との信頼関係についてまとめる。		
	第8回	内容	特別な配慮を必要とする子どもと家庭に対する支援① 障害のある子どもを育てる家庭への支援			予習	保育所等訪問支援について調べる。		
						復習	就学相談についてまとめる。		
	第9回	内容	特別な配慮を必要とする子どもと家庭に対する支援② 外国にルーツのある家庭への支援			予習	外国にルーツのある子どもについて調べる。		
						復習	子どもの貧困についてまとめる。		
	第10回	内容	子育て支援を通じた児童虐待の予防① 親プログラムのエッセンスを学ぶ。			予習	どのような親プログラムがあるか調べる。		
						復習	親プログラムの目的についてまとめる。		
	第11回	内容	子育て支援を通じた児童虐待の予防② 親プログラムのエッセンスを ロールプレイ で体験する。			予習	親子それぞれの困難さについてまとめる。		
						復習	ロールプレイの内容をまとめる。		
	第12回	内容	子育て支援を通じた児童虐待の予防③ 要保護・要支援児童等の家庭への支援と機関連携			予習	要保護と要支援の違いについてまとめる。		
						復習	保育施設の「見守り」についてまとめる。		
	第13回	内容	事例検討①個別面談における相談援助 グループディスカッション、ロールプレイ			予習	事例に関するジェノグラムを作成する。		
						復習	事例に関するジェノグラムを完成させる。		
	第14回	内容	事例検討②他職種連携 グループディスカッション			予習	事例に関するエコマップを作成する。		
			復習	事例に関するエコマップを完成させる。					
第15回	内容	保育者に求められる基本的役割と姿勢 保育専門職の価値と倫理			予習	保育に係る倫理綱領を調べる。			
					復習	倫理綱領と保育の理念についてまとめる。			
予習に要する学習時間：概ね90分を目安とする。 復習に要する学習時間：概ね90分を目安とする。									
課題へのフィードバック	授業の中で提出課題の解説及び講評をする								
成績評価	試験期間における定期試験：実施（ ）する／（ ○ ）しない 成績評価の方法： 筆記試験（ ）％、レポート・課題（60％）、作品・発表（20％）、実技（ ）％、授業態度【積極的参加】（20％）								
教科書	『演習 子育て支援 実践から深める支援のまなざしと専門性』隣谷 正範，教育情報出版								
参考文献	『書名』（著者名、出版社名）								
補足事項									

科 目 名	子育て支援		単 位 数	I	授業時間数	30	担当教員	いまい やすはる 今井 康 晴	
ナバ`リング`コード`	SWSI2203		授業形態	演習	実務経験				
授 業 方 式	対面 ・ 遠隔 ・ その他（ ）					アクティブ・ラーニングの実施		有 ・ 無	
授 業 の 内 容	子育てを取り巻く社会的背景をふまえ、子育て支援を担う保育者として、その歴史や行政などについて理解する。また具体的事例を通して、保育相談支援における保育者の専門性を活かした子育て支援について認識を深める。保育における相談支援、援助技術などをロールプレイ等の演習を通して獲得することを目的とする。								
到 達 目 標	1. 子育てを取り巻く社会的背景、現状と課題について理解している 2. 子育て支援の歴史、行政について理解している 3. 保育相談支援における専門的知識・技術を獲得している								
学位授与方針	幼児教育学科（1,2,3,5）地域保育学科（ ）文化表現学科（ ）								
授 業 計 画	第1回	内容	子育て支援とは何か	予習	シラバスを読んでおく				
				復習	子育て支援の基本的基盤についてまとめる				
	第2回	内容	子育て支援の歴史①ー明治、大正期を中心にー	予習	明治、大正期について調べておく				
				復習	時代背景をまとめる				
	第3回	内容	子育て支援の歴史②ー戦後を中心にー	予習	戦後日本の状況について調べておく				
				復習	戦後日本における子育ての在り方をまとめる				
	第4回	内容	子育て支援の歴史③ー平成、令和を中心にー	予習	昨今の社会情勢について調べておく				
				復習	現代の子育て状況についてまとめる				
	第5回	内容	子育て支援の基本姿勢	予習	保育所保育指針を読んでくる				
				復習	子育て支援の基本姿勢についてまとめる				
	第6回	内容	子育て支援の基本的技術	予習	子育て支援の基本について調べておく				
				復習	子育て支援の基本的なプロセスについてまとめる				
	第7回	内容	対話を用いた子育て支援	予習	対話したかについて調べておく				
				復習	コミュニケーション方法についてまとめる				
	第8回	内容	文書を用いた子育て支援	予習	文語体について調べておく				
				復習	手紙の書き方についてまとめる				
	第9回	内容	子育て支援とソーシャルワーク	予習	社会資源について調べておく				
				復習	近隣にある子育て支援事業についてまとめておく				
	第10回	内容	保育機能を生かした子育て支援	予習	保育行事について調べておく				
				復習	保育行事の在り方についてまとめておく				
	第11回	内容	保育相談事例①ー発達相談ー	予習	幼児の発達について調べておく				
				復習	発達支援についてまとめておく				
	第12回	内容	保育相談事例②ー不適切な養育・虐待ー	予習	不適切な養育について調べておく				
				復習	不適切な保育の抑止抑制についてまとめておく				
	第13回	内容	保育相談事例③ー生活支援ー	予習	生活保護などについて調べておく				
				復習	生活支援への対応をまとめておく				
	第14回	内容	苦情・クレーム対応について	予習	昨今の保育・育児にかかるニュースを調べておく				
				復習	苦情対応の基本姿勢についてまとめる				
	第15回	内容	子育て支援の今後の展望	予習	これまでの授業内容について復習する				
				復習	今後の子育て支援について展望する				
	予習に要する学習時間：概ね30分を目安とする。 復習に要する学習時間：概ね30分を目安とする。								
	課題へのフィードバック	講義の始めに予習内容について意見交換する。講義毎の復習レポート（レスポンスシート）を添削する							
	成績評価	試験期間における定期試験：実施（○）する／（ ）しない 成績評価の方法：筆記試験（80%）、レポート・課題（20%）、作品・発表（ %）、実技（ %）、授業態度【 】（ %）							
教科書	なし								
参考文献	保育所保育指針（2017年改訂）								
補足事項	出欠席については大学の規定に則りますので、欠席の無いようにしてください								

科 目 名	保育指導方法		単 位 数	I	授業時間数	30	担当教員	こやま れいこ 小山 玲子
ナンバリングコード	CHS12214		授業形態	演習	実務経験			
授 業 方 式	対面・遠隔・その他（ ）					アクティブ・ラーニングの実施		有・無
授 業 の 内 容	園生活において子どもが自発的・意欲的に関われるような環境の構成、子どもの主体的な活動や子ども相互の関わりを大切にすることの意義を考える。授業を通して保育の場で適切な保育実践を展開していくための指導方法、関わり方を身につけていく。3～5歳児クラスの保育に役立つ実践を計画し、授業内で模擬保育を実施し振り返りを行う。							
到 達 目 標	1. 保育者としての基本的な姿勢や技能を身につけている。 2. 子どもを捉える視点を身につけ、個と集団が活かされる保育方法を理解している。 3. 遊びを通して子どもの発達が保障されるような実践力・保育指導力を身につけている。							
学位授与方針	幼児教育学科（2・4・5）地域保育学科（ ）文化表現学科（ ）							
授 業 計 画	第1回	内容	オリエンテーション ペープサート作成①	予習	シラバスの講義内容を読んでおく			
				復習	保育のねらい・保育者の役割をまとめる			
	第2回	内容	保育指導方法とは ペープサート作成②	予習	保育の環境について調べる			
				復習	ペープサート作成			
	第3回	内容	子どもの発達と遊び ペープサート作成③	予習	年齢にあった子どもの遊びを調べる			
				復習	幼稚園や保育所での子どもの遊びをまとめる			
	第4回	内容	ペープサート発表	予習	ペープサート発表の準備・練習			
				復習	配布プリントの課題をまとめる			
	第5回	内容	子どもの主体的な遊びを考える(木製遊具に触れる) 木製遊具・積木・カプラで遊ぶ	予習	積木等、木製遊具の種類と遊びを調べる			
				復習	子どもの主体的な遊びについて考察する			
	第6回	内容	子どもの主体的な遊びを考える 絵本・紙芝居・手遊び・言葉遊び	予習	絵本・紙芝居・手遊び・言葉遊びを調べる			
				復習	授業で配布したワークシート記入・完成			
	第7回	内容	カードゲーム・ボードゲーム	予習	カードゲーム・ボードゲームの歴史を調べる			
				復習	授業で配布したワークシート記入・完成			
	第8回	内容	セタかざり作成	予習	セタの由来を調べる			
				復習	他の日本の伝承行事を調べ、まとめる			
	第9回	内容	4・5歳児の保育の実践①保育活動準備(グループワーク)	予習	4・5歳児の発達と遊びを調べる			
				復習	保育活動の進行(計画)を仕上げる			
	第10回	内容	4・5歳児の保育の実践②模擬保育(発表)	予習	模擬授業の準備を行う			
				復習	実践の振り返りをまとめる			
	第11回	内容	パネルシアター・指人形・スケッチブックシアター等の作成①	予習	製作物の準備を行う(絵本・物語等の選定)			
				復習	製作物のストーリー・構成決定			
	第12回	内容	パネルシアター・指人形・スケッチブックシアター等の作成②	予習	製作物作成の準備			
				復習	製作物の作成			
	第13回	内容	パネルシアター・指人形・スケッチブックシアター等の作成③	予習	製作物の作成			
				復習	製作物の作成・完成			
	第14回	内容	パネルシアター・指人形・スケッチブックシアター等の発表①	予習	製作物の発表練習			
復習				作品の修正・授業で配布したワークシート記入・完成				
第15回	内容	パネルシアター・指人形・スケッチブックシアター等の発表② 授業のまとめ(授業内レポート)	予習	製作物の発表練習				
			復習	実践の振り返りをまとめる 総括				
予習に要する学習時間：概ね 30分を目安とする。 復習に要する学習時間：概ね 45分を目安とする。								
課題へのフィードバック	課題は確認後、授業内で補足説明や解説講義を行う。発表に関しては講評を行う。							
成績評価	試験期間における定期試験：実施（ ）する／（○）しない 成績評価の方法： 課題・実技(50%)、発表(20%)、授業態度【積極的参加】(30%)							
教科書	『書名』（著者名、出版社名）							
参考文献	『書名』（著者名、出版社名） 『保育所保育指針』（厚生労働省、フレーベル館） 『幼稚園教育要領』（文部科学省、フレーベル館）							
補足事項	「保育指導方法」の授業は実習や就職後の実践に役立つ内容で、実技・演習が中心の授業です。 https://drive.google.com/file/d/1HfI3A-NckIRBorn76khICBWAc8BC8N-/view?usp=sharing							

科 目 名	保育指導方法		単 位 数	I	授業時間数	30	担当教員	まるはし さとみ 丸 橋 聡美
ナバ`リング`コード`	CHSI2214		授業形態	演習	実務経験			
授 業 方 式	対面 ・ 遠隔 ・ その他（ ）					アクティブ・ラーニングの実施		有 ・ 無
授 業 の 内 容	園生活のなかで、子どもの個と集団が共に育ちあうような保育を行っていくことが大切である。育つことが期待される心情、意欲、態度などが保育のねらいであり、それを達成するための保育の方法を学ぶ。授業を通して乳幼児の生活を支え、子どもの発達を保障する保育を展開できる保育者をめざすための指導方法について考え、身につけていく。							
到 達 目 標	1．保育者としての基本的な姿勢や技能を身につけている。 2．子どもを捉える視点を身につけ、個と集団が活かされる保育方法を理解している。 3．遊びを通して子どもの発達が保障されるような実践力・保育指導力を身につけている。							
学位授与方針	幼児教育学科（1・2 ）地域保育学科（ ）文化表現学科（ ）							
授 業 計 画	第1回	内容	オリエンテーション	予習	講義内容を読んでおく			
				復習	この科目で習得すべき内容を理解する			
	第2回	内容	子どもと楽しむ保育活動①行事（グループワーク）	予習	園で行われる行事について考える			
				復習	行事内容や保育方法についてまとめる			
	第3回	内容	子どもと楽しむ保育活動②行事と制作（グループワーク）	予習	保育技術について調べる			
				復習	保育技術の実践をまとめる			
	第4回	内容	子どもと楽しむ保育活動③実践発表	予習	発表準備をする			
				復習	振り返りをし、保育の中の行事のあり方を考える			
	第5回	内容	保育指導方法とは	予習	保育のねらいを調べる			
				復習	保育指導方法についてまとめる			
	第6回	内容	事例①を通して保育方法を考える（グループワーク）	予習	保育方法の事例①を読む			
				復習	グループワークをまとめる			
	第7回	内容	事例②を通して保育方法を考える（グループワーク）	予習	保育方法の事例②を読む			
				復習	グループワークをまとめる			
	第8回	内容	事例③を通して保育方法を考える（グループワーク）	予習	事例③を読み、自分の考えをまとめる			
				復習	保育方法のあり方をまとめる			
	第9回	内容	保育の環境構成と遊び－事例検討（グループワーク）	予習	保育の環境と子どもの遊びを調べる			
				復習	子どもに即した保育の環境をまとめる			
	第10回	内容	計画に基づく保育の実践	予習	保育計画について調べる			
				復習	教材研究の重要性についてまとめる			
	第11回	内容	幼児の保育の実践①教材研究（グループワーク）	予習	教材研究の留意点を調べる			
				復習	子どもの発達に即した教材研究を行う			
	第12回	内容	幼児の保育の実践②教材研究・制作（グループワーク）	予習	教材作成するための資料を集める			
				復習	教材作成を行う			
	第13回	内容	幼児の保育の実践③教材研究・準備（グループワーク）	予習	教材作成のための準備を行う			
				復習	教材作成をする			
	第14回	内容	幼児の保育の実践④教材研究・動画作成（グループワーク）	予習	教材研究や模擬保育を行うための準備をする			
				復習	動画編集と発表練習を行う			
	第15回	内容	幼児の保育の実践⑤模擬保育（発表）、まとめ	予習	PDCA サイクルを確認する			
				復習	実践の振り返りをまとめる			
	予習に要する学習時間：概ね 10 分を目安とする。 復習に要する学習時間：概ね 40 分を目安とする。							
	課題へのフィードバック	発表後、講評を行う。課題返却後、説明をする。						
成績評価	試験期間における定期試験：実施（ ）する／（○）しない 成績評価の方法： 課題（30%）、作品・発表（20%）、実技（20%）、授業態度【積極的な取り組み】（30%）							
教科書	『幼稚園教育要領』『保育所保育指針』							
参考文献	なし							
補足事項	この科目は選択科目です。履修希望者は初回の授業に必ず参加すること。グループワークが多いため、欠席すると他の人に迷惑をかけることになるため欠席はしないようにすること。 ルーブリック：							

科 目 名	保育実践研究		単 位 数	I	授業時間数	30	担当教員	まるはし さとみ 丸 橋 聡美
ナバ`リング`コード`	CHSI2215		授業形態	演習	実務経験			
授 業 方 式	対面 ・ 遠隔 ・ その他（ ）					アクティブ・ラーニングの実施		有 ・ 無
授 業 の 内 容	園生活のなかで、子どもの個と集団が共に育ちあうような保育を行っていくことが大切である。授業を通して乳幼児の生活を支え、子どもの発達を保障する保育を展開できる保育者をめざすための保育実践について考え、実践力を身につけていく。また、子どもが楽しみながら主体的に保育活動に取り組むことのできる教材研究などを学ぶ。							
到 達 目 標	1．子どもを捉える視点を身につけ、個と集団が活かされる保育活動を理解している。 2．遊びを通して子どもの発達が保障されるような実践力・保育指導力を身につけている。 3．保育者としての基本的な姿勢や技能を身につけている。							
学位授与方針	幼児教育学科（ 1・2 ）地域保育学科（ ）文化表現学科（ ）							
授 業 計 画	第1回	内容	オリエンテーション	予習	講義内容を読んでおく			
				復習	この科目で習得すべき内容を理解する			
	第2回	内容	子どもを捉える視点	予習	子どもを捉える視点を考える			
				復習	子どもを捉える視点をまとめる			
	第3回	内容	保育の計画について/指導案の立案	予習	保育の計画について調べる			
				復習	保育の計画を理解し、まとめる			
	第4回	内容	子どもと保育者との関わりから捉える保育計画と実践－3歳児（グループワーク）	予習	3歳児の子どもの発達を確認する			
				復習	活動内容をプリントにまとめる			
	第5回	内容	子どもと保育者との関わりから捉える保育計画と実践－4歳児（グループワーク）	予習	4歳児の子どもの発達を確認する			
				復習	活動内容をプリントにまとめる			
	第6回	内容	子どもと保育者との関わりから捉える保育計画と実践－5歳児（グループワーク）	予習	5歳児の子どもの発達を確認する			
				復習	活動内容をプリントにまとめる			
	第7回	内容	保育技能と実践①教材研究（グループワーク）	予習	保育技能について確認する			
				復習	教材研究したものをまとめる			
	第8回	内容	保育技能と実践②部分実習指導計画案（グループワーク）	予習	教材研究をまとめたラフスケッチを作成する			
				復習	指導案を完成させる			
	第9回	内容	保育技能と実践③模擬保育（発表）・解説	予習	模擬保育の準備をする			
				復習	模擬保育の振り返りをする			
	第10回	内容	乳幼児の保育の実践①教材研究（グループワーク）	予習	教材研究について確認する			
				復習	教材研究・制作をする			
	第11回	内容	乳幼児の保育の実践②教材研究・制作（グループワーク）	予習	教材研究・制作をする			
				復習	教材研究・制作の進捗を確認する			
	第12回	内容	乳幼児の保育の実践③制作（グループワーク）	予習	教材研究の進行状況を確認し、授業の見直しをもつ			
				復習	教材研究をまとめる			
	第13回	内容	乳幼児の保育の実践④制作と計画（グループワーク）	予習	指導案の書き方について確認する			
				復習	指導案を作成し、仕上げる			
	第14回	内容	乳幼児の保育の実践⑤模擬保育（発表）	予習	模擬保育の準備・イメージをする			
				復習	模擬保育の評価をする			
	第15回	内容	保育の計画と実践、評価（グループワーク）	予習	PDCAサイクルを確認する			
				復習	保育方法を総括する			
予習に要する学習時間：概ね10分を目安とする。 復習に要する学習時間：概ね40分を目安とする。								
課題へのフィードバック	発表後、講評を行う。課題作成後、解説を行う。							
成績評価	試験期間における定期試験：実施（ ）する／（○）しない 成績評価の方法： 課題（30%）、作品・発表（20%）、実技（20%）、授業態度【積極的な取り組み】（30%）							
教科書	『幼稚園教育要領』『保育所保育指針』							
参考文献	『実習日誌・実習指導案パーフェクトガイド』（小櫃智子編、わかば社）							
補足事項	履修希望者は初回に必ず出席すること。グループ活動や発表が多いため、欠席しないこと。 ルーブリック：							

科 目 名	健康（指導法）		単 位 数	I	授業時間数	30	担当教員	し の は ら あ み 志濃原 亜美
ナバ`リング`コード`	CHSI2204		授業形態	演習	実務経験			
授 業 方 式	対面 ・ 遠隔 ・ その他（ ）					アクティブ・ラーニングの実施		有 ・ 無
授 業 の 内 容	幼稚園教育要領の領域「健康」のねらいと内容について理解を深める。子どもにとっての健康の意義を捉えたうえで自ら健康で安全な生活を作り出す力を養うために必要な知識と技術を身に着ける。幼児期の生活習慣や心身の発達、運動発達の特徴の理解を深めながら、保育内容「健康」に関する適切な指導方法を身につける。							
到 達 目 標	1. 幼稚園教育要領や保育所保育指針における領域「健康」について理解し、指導計画を立案できる。 2. 子どもの発達、生活、遊び、安全配慮を理解し、保育を展開していくための指導の工夫を提案できる。 3. 乳幼児期の子どもの健康を支援し健康的に生活する基礎と関心を持たせることができるよう実践力を身につける。							
学位授与方針	幼児教育学科（ 1, 2, 4 ）地域保育学科（ ）文化表現学科（ ）							
授 業 計 画	第1回	内容	オリエンテーション（諸注意）		予習	シラバスを読んでおく		
			保育内容（健康）を学ぶ意義、保育者の役割		復習	療育「健康」を学ぶ意義等についてまとめる		
	第2回	内容	幼稚園教育要領、保育所保育指針における「健康」		予習	幼稚園教育要領、保育所保育指針をみておく		
					復習	領域「健康」についてまとめる		
	第3回	内容	乳幼児期の発達の特徴		予習	配布資料を読んでおく		
					復習	乳幼児期の発達についてまとめる		
	第4回	内容	近年の子どもの生活（健康習慣等）		予習	配布資料を読んでおく		
					復習	近年の子どもの生活についてまとめる		
	第5回	内容	子どもにとって遊びとは（幼児期運動指針を学ぶ）		予習	配布資料を読んでおく		
					復習	幼児期に遊んだ運動遊びについてまとめる		
	第6回	内容	健康な心と体を育む保育1 （題材として健康に関する絵本を選び、グループで読み聞かせを行う）		予習	配布資料を読んでおく		
					復習	グループ内での読み聞かせについて感想等を書く		
	第7回	内容	健康な心と体を育む保育2 （絵本の読み聞かせの指導案を作成し〈ICTの活用〉、発表を行う）		予習	配布資料を読んでおく		
					復習	発表者や自分の発表の振り返り行い、改善点をさぐる		
	第8回	内容	運動遊びの実際と指導1（運動遊びを行う）		予習	配布資料を読んでおく		
					復習	行った運動遊びについて振り返る		
	第9回	内容	運動遊びの実際と指導2（グループ内で運動遊びを2,3設定し、指導上の留意点等について話し合う）		予習	配布資料を読んでおく		
					復習	話し合った内容についてまとめる		
	第10回	内容	運動遊びの実際と指導3（作成した指導案をグループ内で発表する）		予習	指導案の作成をする		
					復習	発表について振り返る		
	第11回	内容	運動遊びの指導1（模擬保育）		予習	配布資料を読んでおく		
					復習	模擬保育の振り返り（グループ）		
	第12回	内容	運動遊びの指導2（模擬保育）		予習	配布資料を読んでおく		
					復習	模擬保育の振り返り（個人）		
	第13回	内容	模擬保育の評価と振り返り1 （模擬保育の改善点等について話し合う）		予習	配布資料を読んでおく		
					復習	模擬保育の改善点をさぐる		
	第14回	内容	模擬授業の振り返り2 （グループで改善点についてプレゼンテーションを行う）		予習	配布資料を読んでおく		
					復習	プレゼンテーションの振り返りを行う		
	第15回	内容	幼児期に育まれる健康な身体と小学校教科とのつながり （幼児期の終わりまでに育ってほしい姿と小学校との繋がりについて考える）		予習	配布資料を読んでおく		
					復習	幼児期の終わりまでに育ってほしい姿と小学校との繋がりについてまとめる		
予習に要する学習時間：概ね90分を目安とする。 復習に要する学習時間：概ね90分を目安とする。								
課題へのフィードバック	グループワークや共同作品づくりについてフィードバックを行う。							
成績評価	試験期間における定期試験：実施（ ）する／（○）しない 成績評価の方法：筆記試験（ ）、レポート・課題（60%）、作品・発表（20%）、実技（10%）、授業態度【積極的参加】（10%）							
教科書								

参考文献	
補足事項	

科 目 名	健康（指導法）	単 位 数	I	授業時間数	30	担当教員	きたほら せいいち 北 洞 誠一
ナバ`リング`コード`	CHS12204	授業形態	演習	実務経験			
授 業 方 式	対面 ・ 遠隔 ・ その他（ ）						
授 業 の 内 容	健康の授業で勉強した幼稚園教育要領と保育所保育指針の理解を基礎として、教科書やいろいろな資料やビデオを参照しながら、健康の具体的な内容を考察し、現場での指導計画を作成し、現場での対処法を勉強する。						
到 達 目 標	1. 現場で求められる健康のねらいと内容を理解し、実践の考え方と方法を身につけている。 2. 子どもの健康だけではなく、自分の健康について関心を持ち、自身を健康に保つ方法を理解している。 3. 健康情報の見方を理解している。						
学位授与方針	幼児教育学科（ 4,5 ） 地域保育学科（ ） 文化表現学科（ ）						
授 業 計 画	第1回	内容	子どものからだと心実感調査資料の解説	予習	Google クラスルームにアップされた資料を読む		
				復習	授業を受けて、改めて資料を読み復習する		
	第2回	内容	子どものからだと心を考えるⅠ：すぐ疲れたと言うの中身	予習	Google クラスルームにアップされた資料を読む		
				復習	授業を受けて、改めて資料を読み復習する		
	第3回	内容	子どものからだと心を考えるⅡ：前頭葉の4つのタイプ	予習	Google クラスルームにアップされた資料を読む		
				復習	授業を受けて、改めて資料を読み復習する		
	第4回	内容	脳を活性化するための試み	予習	Google クラスルームにアップされた資料を読む		
				復習	授業を受けて、改めて資料を読み復習し課題を提出する		
	第5回	内容	保育ビデオ（アリサ）鑑賞Ⅰ	予習	さくらんぼ保育について調べる		
				復習	ビデオについての課題について考えノートする		
	第6回	内容	保育ビデオ（アリサ）鑑賞Ⅱ	予習	リズム遊びについて調べる		
				復習	ビデオに関する課題を提出する		
	第7回	内容	運動遊びの指導計画Ⅰ	予習	教科書の指導計画作成の部分を読んでくる		
				復習	授業中に解説した指導計画について感想をまとめる		
	第8回	内容	運動遊びの指導計画Ⅱ	予習	課題の指導計画を自分なりに作ってくる		
				復習	自分の作った指導計画を修正する		
	第9回	内容	スマホ使用と子どもの目について	予習	Google クラスルームにアップされた資料を読む		
				復習	授業と受けた感想を提出する		
	第10回	内容	コロナと子どもたちの健康について	予習	Google クラスルームにアップされた資料を読む		
				復習	課題を提出する		
	第11回	内容	斎藤公子の幼児教室よりⅠ	予習	Google クラスルームにアップされた資料を読む		
				復習	資料の根拠を調べる		
	第12回	内容	斎藤公子の幼児教室よりⅡ	予習	Google クラスルームにアップされた資料を読む		
				復習	課題を提出する		
	第13回	内容	記事を読むⅠ～印象操作について	予習	印象操作について調べてくる		
				復習	課題を提出する		
	第14回	内容	記事を読むⅡ～体験から学ぶ	予習	Google クラスルームにアップされた資料を読む		
				復習	課題を提出する		
	第15回	内容	映画（ベイビーズ）鑑賞	予習	世界の子育てについて調べる		
				復習	課題を提出する		
	予習に要する学習時間：概ね30分を目安とする。 復習に要する学習時間：概ね30分を目安とする。						
課題へのフィードバック	Google classroomの課題レポート提出に対してコメントをフィードバックする						
成績評価	試験期間における定期試験：実施（ ）する／（○）しない 成績評価の方法：筆記試験（ 0%）、レポート・課題（ 90%）、作品・発表（ 0%）、実技（ 0%）、授業態度【 積極性等 】（ 10%）						
教科書	「乳幼児の健康」（茗井香保里・宮下恭子・平山素子編、大学図書出版）						
参考文献	「限界を超える子どもたち——脳・身体・障害への新たなアプローチ」 2018、太郎次郎社エディタス						
補足事項	資料はGoogle classroomにアップする。レポートや課題はGoogle classroomで提出する。予習や復習で、積極的にインターネット等を活用して不明な点を調べること。						

科 目 名	人間関係（指導法）		単 位 数	I	授業時間数	30	担当教員	まるはし さとみ 丸 橋 聡美
ナバ`リング`コード`	CHSI2205		授業形態	演習	実務経験			
授 業 方 式	対面 ・ 遠隔 ・ その他（ ）					アクティブ・ラーニングの実施		有 ・ 無
授 業 の 内 容	幼稚園教育要領・保育所保育指針に示された領域「人間関係」のねらい及び内容について、子どもの姿と保育実践とを関連づけて理解を深める。 また、具体的な保育の構想と保育者の連携を学び、関わり方等の実践方法を身につける。							
到 達 目 標	1. 幼稚園教育要領に示された幼稚園教育の基本を踏まえ、領域「人間関係」のねらい及び内容を理解している。 2. 幼児の発達や学びの過程を理解し、領域「人間関係」に関わる具体的な援助場面を想定した保育を構想する方法を身につけている。 3. 保育者の連携の機能を理解している。							
学位授与方針	幼児教育学科（1・2・3・5）地域保育学科（ ）文化表現学科（ ）							
授 業 計 画	第1回	内容	オリエンテーション		予習	講義内容を読んでおく		
			幼児期の終わりまでに育って欲しい姿		復習	10の姿と領域の関係性を理解する		
	第2回	内容	子どもの遊び/遊びの重要性（ICT活用）		予習	子どもの発達と遊びについて調べる		
					復習	子どもの遊びの重要性をまとめる		
	第3回	内容	遊びのなかで育つ人間関係①教材研究		予習	PDCAサイクルを理解する		
					復習	教材研究①を行う		
	第4回	内容	遊びのなかで育つ人間関係②教材の作成		予習	教材研究②を行う		
					復習	保育活動の展開の仕方を考える		
	第5回	内容	遊びのなかで育つ人間関係③模擬保育（グループワーク・発表）		予習	模擬保育の発表の準備をする		
					復習	模擬保育の反省、振り返りをする		
	第6回	内容	遊びのなかで育つ人間関係④振り返り・改善・まとめ（グループワーク・ディスカッション）		予習	保育の質について考える		
					復習	個と集団の相即的發展を理解し、まとめる		
	第7回	内容	領域「人間関係」について①全体像を理解する/ 人間関係の原理（関係性について）（グループワーク・ロールプレイング）		予習	領域「人間関係」の全体像を確認する		
					復習	教科書p41を読み、人間関係の原理、かわりについてまとめる		
	第8回	内容	保育者の連携（チームワーク）を活かす保育（グループワーク・ロールプレイング）		予習	教科書p96～108を読む		
					復習	確認テスト①を行う		
	第9回	内容	保育者の連携を活かす保育の実践（グループワーク・ロールプレイ）		予習	教科書p96～108を読む		
					復習	確認テスト④を行う		
	第10回	内容	個と集団の相即的發展（事例検討）①仲間関係を育む保育の実践（ICT活用）		予習	子どもの発達を調べておく		
					復習	確認テスト⑤を行う、事例を理解しまとめる		
	第11回	内容	個と集団の相即的發展（事例検討）②3歳未満児（グループワーク・ロールプレイ）		予習	3歳未満児の発達を調べておく		
					復習	教科書p108～116を読み、理解を深める		
	第12回	内容	個と集団の相即的發展（事例検討）③3歳児（グループワーク・ロールプレイ）		予習	3歳児の発達を調べておく		
					復習	教科書p117～127を読み、事例③を理解し、まとめる		
	第13回	内容	個と集団の相即的發展（事例検討）④4～5歳児（グループワーク・ロールプレイ）		予習	4～6歳の発達を調べておく		
					復習	教科書p128～146を読み、保育者の子どもへの関わりをまとめる		
	第14回	内容	子どもの活動から人間関係を捉える（事例検討）（グループワーク）		予習	実習等の事例を考え挙げる		
					復習	事例をあげ、実践活動のなかの人間関係をまとめる		
	第15回	内容	領域「人間関係」をめぐる現代的諸問題・まとめ		予習	幼児期の「人間関係」の課題を考える		
					復習	「人間関係」をめぐる問題をまとめる		
予習に要する学習時間：概ね 15分を目安とする。 復習に要する学習時間：概ね 30分を目安とする。								
課題へのフィードバック	課題に対して解説を行う。また、発表に対しては講評を行う。							
成績評価	試験期間における定期試験：実施（ ）する／（○）しない 成績評価の方法：レポート・課題（60%）、小テスト（20%）発表（5%）、授業態度【積極的参加】（15%）							
教科書	『幼稚園教育要領』『保育所保育指針』 『保育内容「人間関係」－「共に育つ・創る」をめざして』編著：吉川晴美・関口はつ江・義永睦子、ミネルヴァ書房							

参考文献	なし
補足事項	ループリック：

科 目 名	環境（指導法）	単 位 数	I	授業時間数	30	担当教員	なかむら よういち 中村 陽一
ナバ`リング`コード`	CHS12206	授業形態	演習	実務経験			
授 業 方 式	対面 ・ 遠隔 ・ その他（ ）				アクティブ・ラーニングの実施		有
授 業 の 内 容	「環境」で学んだ、「環境を通した保育」についての理解と、幼稚園教育実習（前期）の体験の上に、事例に基づき、領域「環境」の「目的」「ねらい」「内容」の理解を深める。さらに、適切な「環境構成」と、具体的な場面を想定した指導方法を身につける。課題に応じて、グループを作り討論や発表を行う。						
到 達 目 標	1. 「環境を通した保育」に基づく適切な環境構成について、具体的に示すことができる。 2. 「幼児の主体的な活動としての遊び」に対する適切な援助について、具体例をもとに自分の考えを述べることができる。 3. 領域「環境」に関わる幼児の自然体験や社会体験と、小学校教育の生活科への連続性について理解している。						
学位授与方針	幼児教育学科（1.2.3.4.5）						
授 業 計 画	第1回	内容	保育と環境－「環境を通して行う保育」の特質、子どもの発達と環境との関わり。「環境」の復習。	予習	幼稚園教育要領 保育内容「環境」を読む。		
				復習	幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を確認。		
	第2回	内容	子どもの生活と物的環境①－保育の環境構成（保育室）。グループ討論と発表。	予習	教科書 9p の演習課題 1		
				復習	グループ討論のまとめ。		
	第3回	内容	子どもの生活と物的環境①－保育の環境構成（園舎）。グループ討論と発表。	予習	教科書 25p の演習課題 2		
				復習	グループ討論のまとめ。		
	第4回	内容	子どもの生活と物的環境②－保育の環境構成（園庭）。グループ討論と発表。	予習	教科書 41p の演習課題 1		
				復習	グループ討論のまとめ。		
	第5回	内容	子どもの生活と自然環境①－子どもを取り巻く自然環境グループ討論と発表。	予習	教科書 59p の演習課題 1		
				復習	グループ討論のまとめ。		
	第6回	内容	子どもの生活と自然環境②－季節感と取り入れた保育グループ討論と発表。	予習	教科書 59p の演習課題 3		
				復習	グループ討論のまとめ。		
	第7回	内容	子どもの生活と自然環境③－飼育動物の特徴と配慮グループ討論と発表。	予習	実習で体験した動物飼育についてまとめる。		
				復習	グループ討論のまとめ。		
	第8回	内容	子どもの生活と自然環境④－栽培植物の特徴と配慮グループ討論と発表。	予習	教科書 41p の演習課題 2		
				復習	グループ討論のまとめ。		
	第9回	内容	子どもの生活と社会①－施設との関わりグループ討論と発表。	予習	教科書 75p の演習課題 3		
				復習	グループ討論のまとめ。		
	第10回	内容	子どもの生活と社会環境②－伝統的な行事との関わりグループ討論と発表。	予習	教科書 75p の演習課題 2		
				復習	グループ討論のまとめ。		
	第11回	内容	数量や文字に関する取り扱い①－子どもの生活と数グループ討論と発表。	予習	実習で体験した子どもの数体験について。		
				復習	グループ討論のまとめ。		
	第12回	内容	数量や文字に関する取り扱い①－子どもの生活と文字グループ討論と発表。	予習	教科書 91p の演習課題 1		
				復習	グループ討論のまとめ。		
	第13回	内容	数量や文字に関する取り扱い①－小学校教育とのつながりグループ討論と発表。	予習	教科書 75p の演習課題 1		
				復習	グループ討論のまとめ。		
	第14回	内容	小学校教育への連続性「環境」と「生活科」「総合学習」グループ討論と発表。	予習	教科書 109p の演習課題 1		
				復習	グループ討論のまとめ。		
	第15回	内容	授業の振り返りとまとめ。グループ討論と発表。	予習	教科書 109p の演習課題 2		
				復習	グループ討論のまとめ。		
	予習に要する学習時間：概ね 30 分を目安とする。復習に要する学習時間：概ね 30 分を目安とする。						
課題へのフィードバック	Google Classroom を用いて課題に対するフィードバックを行う。						
成績評価	試験期間における定期試験：実施（ ）する／（○）しない 成績評価の方法： 筆記試験（ ）、レポート・課題（100%）、作品・発表（ ）、実技（ ）、授業態度【 】（ ）						
教科書	『令和 5 年度最新版 幼児期までのこどもの育ちに係る基本的なビジョン 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領＜原本＞』（文部科学省・厚生労働省・内閣府、チャイルド本社）『コンパス 保育内容 環境』（高橋貴志・目良秋子編、建帛社）						
参考文献	なし						
補足事項	なし https://drive.google.com/file/d/1aWrDox5GRFHbuA327QMYM21YyK7c24R4/view?usp=sharing						

科 目 名	言葉（指導法）		単 位 数	I	授業時間数	I 5	担当教員	はしもと　ちづる 橋 本　千 鶴	
ナバ'リング'コード'	CHSI2207		授業形態	演習	実務経験				
授 業 方 式	対面　・　遠隔　・　その他（								

				復習	本時で学んだことをもとに、さらに乳幼児の言葉に関心をもって聞くように心がけ、必要に応じて記録する習慣をつける。
	第 15 回	内 容	オノマトペ・授業全体のまとめ	予習	「幼稚園教育要領」等の領域「言葉」、配布資料などを読み返し、これまでの授業内容を復習しておく。
				復習	「幼稚園教育要領」等の領域「言葉」、配布資料などを読み返し、これまでの授業内容を復習しておく。
	予習に要する学習時間：概ね 分を目安とする。 復習に要する学習時間：概ね 分を目安とする。				
課題へのフィードバック	各授業回で提出されたリアクションペーパー（実技の振り返りを含む）や指導案についてはその都度評価し、次の授業回で講評、解説を行って返却する。実技については、授業内に講評したり、学生同士による相互評価をしたりし、自ら課題が確認できるようにする。				
成績評価	試験期間における定期試験：実施（ ）する／（ ○ ）しない 成績評価の方法：まとめのレポート（４０％）、レポート・課題（３０％）、実技（２０％）、授業態度【積極的参加】（１０％）				
教科書	『書名』（著者名、出版社名） なし（授業時にプリントを配布する）				
参考文献	『書名』（著者名、出版社名） 『幼稚園教育要領解説』（文部科学省、フレーベル館） 『保育所保育指針解説』（厚生労働省、フレーベル館） 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』（内閣府・文部科学省・厚生労働省、フレーベル館） 他授業内で紹介				
補足事項	保育者になる自覚をもちながら、積極的に講義、実技に取り組んでほしい。 ルーブリック： https://drive.google.com/file/d/1_AhfyWypAiTywek4j5h-kQHqUYqt9pE/view?usp=sharing				

科 目 名	言葉（指導法）		単 位 数	I	授業時間数	30	担当教員	いざわ えいしゅう 伊澤 永 修
ナバ`リング`コード`	CHS12207		授業形態	演習	実務経験			
授 業 方 式	対面 ・ 遠隔 ・ その他（ ）					アクティブ・ラーニングの実施		有 ・ 無
授 業 の 内 容	領域「言葉」のねらいと内容についての理解を深め、言葉の発達と特徴を事例や映像を通して理解する。その上で、乳幼児の発達過程に合わせた保育を構築できるように児童文化財などの保育教材などへの理解を深め保育への取り入れ方などを理解するために、演じ合いやグループディスカッションを行う。							
到 達 目 標	1. 領域「言葉」のねらい及び内容を理解している 2. 児童文化財などの保育教材を理解し、保育内容に活用することができる 3. 子どものことばの育ちを支える指導計画が作成できる							
学位授与方針	幼児教育学科（1、2、5）地域保育学科（ ）文化表現学科（ ）							
授 業 計 画	第1回	内容	オリエンテーションオリエンテーション 領域「言葉」についてねらいと内容を含め理解する	予習	テキストの該当箇所を読み込んでおく			
				復習	授業の内容を踏まえ、テキストの該当箇所を読み理解の定着を図る			
	第2回	内容	0から2歳児における「言葉」に関するねらい及び内容について理解する	予習	テキストの該当箇所を読み込んでおく			
				復習	配付資料をもとに解説された内容を振り返り子どものことばの発達に対する理解を深める			
	第3回	内容	「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」と領域「言葉」との関連について理解する	予習	テキストの該当箇所を読み込み前回の授業の振り返りを行う			
				復習	「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」一つひとつと領域「言葉」との関連についてのまとめを行う			
	第4回	内容	領域「言葉」と他領域との関係について理解する 言葉とコミュニケーションの発達（1）	予習	これまでの学びを通して保育の基本についてまとめておく			
				復習	言葉とコミュニケーションの発達のまとめを行い整理する			
	第5回	内容	言葉とコミュニケーションの発達（2）	予習	前回の授業内容を確認する			
				復習	言葉とコミュニケーションの発達のまとめを行い整理する			
	第6回	内容	言葉とコミュニケーションの発達（3）	予習	前回までの授業内容を確認する			
				復習	言葉とコミュニケーションの発達のまとめを行い整理する			
	第7回	内容	言葉に関する事例をもとにグループディスカッションを通して理解を深める	予習	年齢に合わせた言葉に関する援助の仕方について整理しておく			
				復習	年齢に合わせた言葉に関わる援助の仕方についてまとめる			
	第8回	内容	カリキュラムマネジメントについて理解する 児童文化財・絵本についての理解を深める	予習	絵本について調べてまとめておく			
				復習	カリキュラムマネジメントと教材研究の方法についてまとめる			
	第9回	内容	絵本の読み聞かせの効果や年齢に即した絵本について理解する	予習	子どもの言葉の発達過程について確認しておく			
				復習	絵本の特徴や保育への活かし方を自分なりにまとめる			
	第10回	内容	絵本紹介のグループ内発表及びグループディスカッションを通して絵本への理解を深める	予習	絵本の回の授業を振り返り絵本についての理解を深めておく			
				復習	絵本の特徴や保育への活かし方を自分なりにまとめる			
	第11回	内容	お話とお話の魅力	予習	お話やお話の魅力について考えておく			
				復習	お話の子どもへの影響についてまとめる			
	第12回	内容	言葉遊びと言葉遊びの魅力	予習	子どもと楽しめる言葉遊びを考えておく			
				復習	言葉遊びの特徴や保育への活かし方を自分なりにまとめる			
	第13回	内容	グループ内での素話の実演とグループディスカッションを通して素話についての理解を深める	予習	素話について調べておく			
				復習	素話を保育にどのように取り入れるかについて自分なりにまとめる			
第14回	内容	児童文化財・パネルシアターの理解と絵人形の作り方	予習	パネルシアターについて調べておく				
			復習	パネルシアターの特徴や保育への活かし方を自分なりにまとめる				
第15回	内容	子どものことばの育ち（話し言葉の世界から書き言葉の世界へ）の理解と総まとめ	予習	当該授業の振り返りをしておく				
			復習	当該授業で学んだ事をどのように保育に活かしていくかについての総まとめを行う				
予習に要する学習時間：概ね25分を目安とする。 復習に要する学習時間：概ね20分を目安とする。								

課題へのフィードバック	提出物に関する評価を行い、適宜返却時に評価を通知する。
成績評価	試験期間における定期試験：実施（ ）する／（○）しない 成績評価の方法：筆記試験（ ）、レポート・課題（60%）、実技（ ）、授業態度【参加度合】（40%）
教科書	『事例で学ぶ保育内容』 無藤隆監修 萌文書林
参考文献	『保育所保育指針』『幼稚園教育要領』『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』フレーベル館
補足事項	ループリック： https://drive.google.com/file/d/106Hb8seWB4cgfcg9Wnv_kwpTyg5PXw7q/view?usp=sharing

※1年次に購入済

科 目 名	造形表現（指導法）		単 位 数	I	授業時間数	30	担当教員	おぐち　すぐる 小口　偉	
ナバ`リング`コード`	CHSI2208		授業形態	演習	実務経験				
授 業 方 式	対面　・　遠隔　・　その他（								

科 目 名	音楽・身体表現（指導法）		単 位 数	I	授業時間数	30	担当教員	しおぎき はせがわ 塩 崎 ・ 長 谷 川
ナバ`リング`コード`	CHS12209		授業形態	演習	実務経験			
授 業 方 式	対面 ・ 遠隔 ・ その他（ ）					アクティブ・ラーニングの実施		有 ・ 無
授 業 の 内 容	保育内容の各領域を総合的にとらえ表現活動を中心に乳幼児の実態に応じた保育内容の展開や指導法を学ぶ。体の動き、音・リズムを工夫し、豊かな感性を育み、自らのイメージを広げて表現する楽しさについて理解し、具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を身に付ける。また、ICT を活用し、スマートフォンやタブレット端末を使用し、コメントや評価など双方向型授業も行う。							
到 達 目 標	1. 幼児の心情、認識、思考、動きなどを視野にいった保育の構想の重要性を理解している。 2. 領域「表現」及び音楽・身体表現の特性と幼児の体験との関連を考慮した教材の活用法を理解し、保育構想に活用することができている。 3. 指導案の構造を理解し、具体的な保育を想定した指導案を作成することができている。 4. 模擬保育とその振り返りを通して、保育を改善する視点を身に付けている。 5. 音楽・身体表現の特性に応じた保育実践の動向を知り、保育構想の向上に取り組むことができている							
学位授与方針	幼児教育学科（ 1・2・5 ）地域保育学科（ ）文化表現学科（ ）							
授 業 計 画	第1回	内容	本授業の概要 音楽・身体表現のねらい、および内容について乳幼児期の発達を踏まえて理解する	予習	テキストの指導篇を読んでくる。			
				復習	模擬保育で行いたい内容について決めてくる			
	第2回	内容	指導案作成の構造を理解し、身体表現活動におけるねらいについて考え、具体的な題材について検討し、指導実践法について研究する。	予習	行いたい活動内容についての指導の流れを考えてくる			
				復習	指導案を完成させる。			
	第3回	内容	豊かな感性を育み、イメージが広がり、工夫した動きを引き出す言葉かけ・問いかけについて理解し、具体的な保育を想定した指導場面での活用について考える。	予習	指導案を見ながら言葉かけについて考える			
				復習	指導の言葉かけシートを書き上げてくる			
	第4回	内容	保育活動における保育者の動き、言葉かけ、太鼓の叩き方などについて実践的に学ぶ。	予習	模擬保育で使用する準備物などを用意する			
				復習	実際の保育活動をイメージしてリハーサルを行う			
	第5回	内容	生活を題材にした身体表現の指導案を作成し、模擬保育の実践を行い、振り返りのグループディスカッションを通して保育の改善点について考える。	予習	指導のリハーサルを行う			
				復習	指導実践後の振り返りを Google フォームへ記入する。			
	第6回	内容	絵本や架空の世界を題材にした身体表現の指導案を作成し、模擬保育の実践を行い、振り返りのグループディスカッションを通して保育の改善点について考える。	予習	身体表現遊びで活用できる絵本を探す			
				復習	本時の指導実践の振り返りをフォームに記入する。			
	第7回	内容	自然を題材にした身体表現の指導案を作成し、模擬保育の実践を行い、振り返りのグループディスカッションを通して保育の改善点について考える。	予習	自然を題材にした活動について考えてくる			
				復習	本時の指導実践の振り返りをノートにまとめる			
	第8回	内容	身体表現遊びの意義についてグループディスカッションし、指導法において重要な点についてまとめる	予習	身体表現遊びの意義について自分なりの考えをノートにまとめる			
				復習	指導法についてフォームへまとめ、提出する			
	第9回	内容	音楽教育の理論および保育における音楽指導の基礎を学び、その意義について理解を深める。	予習	1年後期の授業のプリントを読んでくる			
				復習	本時の内容をノートにまとめ、保育における音楽表現の重要性について記述する			
	第10回	内容	音楽指導におけるねらいの観点を理解し、達成するための指導方法を学ぶ。	予習	音楽指導の意義をふまえ、どのようなねらいが設定できるか調べる			
				復習	本時の内容をノートにまとめ、音楽活動を想定してねらいを立ててみる			
	第11回	内容	音楽教育の意義と音楽指導のねらいをふまえ、幼児期の発達段階をふまえた指導を計画し、指導案を作成する。	予習	幼児期の発達段階について理解し、各年齢に即した題材を考える			
				復習	指導案を完成させ、シミュレーションをする			
	第12回	内容	指導案をもとに3歳児の音楽指導に関する模擬保育を行い、振り返りを通して改善点を検討する。	予習	3歳児の音楽表現について理解しておく			
				復習	音楽指導振り返りと改善点をふまえ、3歳児の音楽指導案をノートにまとめる			
	第13回	内容	指導案をもとに4歳児の音楽指導に関する模擬保育を行い、振り返りを通して改善点を検討する。	予習	4歳児の音楽表現について理解しておく			
				復習	音楽指導振り返りと改善点をふまえ、4歳児の音楽指導案をノートにまとめる			
					予習	5歳児の音楽表現について理解しておく		

	第 14 回	内容	指導案をもとに 5 歳児の音楽指導に関する模擬保育を行い、振り返りを通して改善点を検討する。	復習	音楽指導振り返りと改善点をふまえ、5 歳児の音楽指導案をノートにまとめる
	第 15 回	内容	歌唱による鑑賞活動の模擬保育を行い、子どもに音楽表現を伝える技術について検討する。	予習	子どもの各年齢に適した歌唱による鑑賞教材を検討し、提示の仕方を考える
				復習	模擬保育をふまえ、子どもへの歌唱表現の提示法の要点をノートにまとめる
	予習に要する学習時間：概ね 20 分を目安とする。 復習に要する学習時間：概ね 25 分を目安とする。				
課題へのフィードバック	課題返却時に評価及び課題点を記入する。 模擬保育については、仲間からの評価、教員からの評価を担当学生へフィードバックする。				
成績評価	試験期間における定期試験：実施（ ）する／（○）しない 成績評価の方法： 筆記試験（ %）、レポート・課題（40%）、発表（40%）、実技（10%）、授業態度【積極的参加、協働的な取り組み】（10%）				
教科書	『遊んで育て！表現の力ー保育で使える活動例と指導法』（塩崎みづほ・小口偉・長谷川恭子、推敲				
参考文献	『書名』（著者名、出版社名） 『乳幼児・児童の運動あそびと表現あそび からだとこころを育む指導法』（宮下恭子編著、大学図書出版）				
補足事項	身体表現の授業では、原則学校指定のジャージを着用して出席すること。 塩崎：15 回、長谷川：15 回 身体表現模擬保育ルブリック評価表 https://drive.google.com/file/d/1XLgVxc8nP0U-dxn_qRdFrkw9Eys00ufK/view?usp=sharing 音楽表現模擬保育ルブリック評価表 https://drive.google.com/drive/u/2/folders/1aQuPrNHfCJlrIU00E9ENDyXsQUwr2i0				

科 目 名	音楽・身体表現（指導法）		単 位 数	I	授業時間数	30	担当教員	しおぎ はせがわ しかと 塩 崎 ・ 長谷川 ・ 鹿 戸
ナバリングコード	CHS12209		授業形態	演習	実務経験			
授 業 方 式	対面 ・ 遠隔 ・ その他（ ）					アクティブ・ラーニングの実施		有 ・ 無
授 業 の 内 容	保育内容の各領域を総合的にとらえ表現活動を中心に乳幼児の実態に応じた保育内容の展開や指導法を学ぶ。体の動き、音・リズムを工夫し、豊かな感性を育み、自らのイメージを広げて表現する楽しさについて理解し、具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を身に付ける。また、ICT を活用し、スマートフォンやタブレット端末を使用し、コメントや評価など双方向型授業も行う。							
到 達 目 標	1. 幼児の心情、認識、思考、動きなどを視野にいたる保育の構想の重要性を理解している。 2. 領域「表現」及び音楽・身体表現の特性と幼児の体験との関連を考慮した教材の活用法を理解し、保育構想に活用することができている。 3. 指導案の構造を理解し、具体的な保育を想定した指導案を作成することができている。 4. 模擬保育とその振り返りを通して、保育を改善する視点を身に付けている。 5. 音楽・身体表現の特性に応じた保育実践の動向を知り、保育構想の向上に取り組むことができている							
学位授与方針	幼児教育学科（ 1・2・5 ）地域保育学科（ ）文化表現学科（ ）							
授 業 計 画	第1回	内容	本授業の概要 音楽・身体表現のねらい、および内容について乳幼児期の発達を踏まえて理解する	予習	テキストの指導篇を読んでくる。			
				復習	模擬保育で行いたい内容について決めてくる			
	第2回	内容	指導案作成の構造を理解し、身体表現活動におけるねらいについて考え、具体的な題材について検討し、指導実践法について研究する。	予習	行いたい活動内容についての指導の流れを考えてくる			
				復習	指導案を完成させる。			
	第3回	内容	豊かな感性を育み、イメージが広がり、工夫した動きを引き出す言葉かけ・問いかけについて理解し、具体的な保育を想定した指導場面での活用について考える。	予習	指導案を見ながら言葉かけについて考える			
				復習	指導の言葉かけシートを書き上げてくる			
	第4回	内容	保育活動における保育者の動き、言葉かけ、太鼓の叩き方などについて実践的に学ぶ。	予習	模擬保育で使用する準備物などを用意する			
				復習	実際の保育活動をイメージしてリハーサルを行う			
	第5回	内容	生活を題材にした身体表現の指導案を作成し、模擬保育の実践を行い、振り返りのグループディスカッションを通して保育の改善点について考える。	予習	指導のリハーサルを行う			
				復習	指導実践後の振り返りを Google フォームへ記入する。			
	第6回	内容	絵本や架空の世界を題材にした身体表現の指導案を作成し、模擬保育の実践を行い、振り返りのグループディスカッションを通して保育の改善点について考える。	予習	身体表現遊びで活用できる絵本を探す			
				復習	本時の指導実践の振り返りをフォームに記入する。			
	第7回	内容	自然を題材にした身体表現の指導案を作成し、模擬保育の実践を行い、振り返りのグループディスカッションを通して保育の改善点について考える。	予習	自然を題材にした活動について考えてくる			
				復習	本時の指導実践の振り返りをノートにまとめる			
	第8回	内容	身体表現遊びの意義についてグループディスカッションし、指導法において重要な点についてまとめる	予習	身体表現遊びの意義について自分なりの考えをノートにまとめる			
				復習	指導法についてフォームへまとめ、提出する			
	第9回	内容	音楽教育の理論および保育における音楽指導の基礎を学び、その意義について理解を深める。	予習	1年後期の授業のプリントを読んでくる			
				復習	本時の内容をノートにまとめ、保育における音楽表現の重要性について記述する			
	第10回	内容	音楽指導におけるねらいの観点を理解し、達成するための指導方法を学ぶ。	予習	音楽指導の意義をふまえ、どのようなねらいが設定できるか調べる			
				復習	本時の内容をノートにまとめ、音楽活動を想定してねらいを立ててみる			
	第11回	内容	音楽教育の意義と音楽指導のねらいをふまえ、幼児期の発達段階をふまえた指導を計画し、指導案を作成する。	予習	幼児期の発達段階について理解し、各年齢に即した題材を考える			
				復習	指導案を完成させ、シミュレーションをする			
	第12回	内容	指導案をもとに3歳児の音楽指導に関する模擬保育を行い、振り返りを通して改善点を検討する。	予習	3歳児の音楽表現について理解しておく			
				復習	音楽指導振り返りと改善点をふまえ、3歳児の音楽指導案をノートにまとめる			
	第13回	内容	指導案をもとに4歳児の音楽指導に関する模擬保育を行い、振り返りを通して改善点を検討する。	予習	4歳児の音楽表現について理解しておく			
				復習	音楽指導振り返りと改善点をふまえ、4歳児の音楽指導案をノートにまとめる			
					予習	5歳児の音楽表現について理解しておく		

	第 14 回	内容	指導案をもとに 5 歳児の音楽指導に関する模擬保育を行い、振り返りを通して改善点を検討する。	復習	音楽指導振り返りと改善点をふまえ、5 歳児の音楽指導案をノートにまとめる
	第 15 回	内容	歌唱による鑑賞活動の模擬保育を行い、子どもに音楽表現を伝える技術について検討する。	予習	子どもの各年齢に適した歌唱による鑑賞教材を検討し、提示の仕方を考える
				復習	模擬保育をふまえ、子どもへの歌唱表現の提示法の要点をノートにまとめる
	予習に要する学習時間：概ね 20 分を目安とする。 復習に要する学習時間：概ね 25 分を目安とする。				
課題へのフィードバック	課題返却時に評価及び課題点を記入する。 模擬保育については、仲間からの評価、教員からの評価を担当学生へフィードバックする。				
成績評価	試験期間における定期試験：実施（ ）する／（○）しない 成績評価の方法： 筆記試験（ %）、レポート・課題（40%）、発表（40%）、実技（10%）、授業態度【積極的参加、協働的な取り組み】（10%）				
教科書	『遊んで育て！表現の力ー保育で使える活動例と指導法』（塩崎みづほ・小口偉・長谷川恭子、推敲				
参考文献	『書名』（著者名、出版社名） 『乳幼児・児童の運動あそびと表現あそび からだとこころを育む指導法』（宮下恭子編著、大学図書出版）				
補足事項	身体表現の授業では、原則学校指定のジャージを着用して出席すること。 塩崎：15 回、長谷川：15 回 身体表現模擬保育ルブリック評価表 https://drive.google.com/file/d/1XLgVxc8nP0U-dxn_qRdFrkw9Eys00ufK/view?usp=sharing 音楽表現模擬保育ルブリック評価表 https://drive.google.com/drive/u/2/folders/1aQuPrNHfCJlrIU00E9ENDyXsQUwr2i0				

科 目 名	幼児の運動遊び	単 位 数	I	授業時間数	30	担当教員	しおざき 塩 崎 みづほ
ナバ`リング`コード`	CHSI2212	授業形態	演習	実務経験			
授 業 方 式	対面 ・ 遠隔 ・ その他（ ）			アクティブ・ラーニングの実施		有 ・ 無	
授 業 の 内 容	子どもの生活は遊びが中心にあるといわれ、遊びによって成長し、生きていくのに必要なことを真似し学んでいきます。本講義では、子どもの発達発達の特徴を理解し、それに即した運動遊びについて学び、指導法についても実践的に学びます。そこでは、グループで決めた題材を用いて、模擬保育を実践します。さらに ICT を活用し、スマートフォンやタブレット端末を使用し、コメントや評価など双方向型授業も行う。						
到 達 目 標	1. 子どもの発達発達に応じた運動遊びの意義とその内容を理解している。 2. 運動遊びの指導に必要な、ねらい、指導案の記入法、指導法について理解している。 3. 幼児教育者として自ら動ける身体づくりと、体力の維持・向上に努める力を習得している。						
学位授与方針	幼児教育学科（ 1・2・5 ）地域保育学科（ ）文化表現学科（ ）						
授 業 計 画	第1回	内容	講義：履修上の注意事項 乳幼児期の運動遊びの意義	予習	シラバスを見て質問等を考える		
				復習	運動遊びの意義について自分の考えをまとめる		
	第2回	内容	米袋を使った遊び、身近なものを使った遊び	予習	本時に使用する米袋を作成する		
				復習	米袋や身近なものを使った遊びを、年齢ごとにまとめる		
	第3回	内容	親子の運動遊びの意義と内容について考える	予習	親子の運動遊びの内容を調べたり、考えてくる		
				復習	親子の運動遊びの意義についてまとめる		
	第4回	内容	親子の運動遊びの模擬保育の実践と振り返り	予習	実践内容の言葉かけなどを仕上げる		
				復習	実践を踏まえ、改善点を修正する		
	第5回	内容	乳児対象の親子の運動遊びの実践① 児童館での実践	予習	親子の運動遊びの実践の準備をする		
				復習	実践後の振り返りレポートを作成する		
	第6回	内容	乳児対象の親子の運動遊びの実践② ばっばでの実践	予習	親子の運動遊びの実践の準備をする		
				復習	実践後の振り返りレポートを作成する		
	第7回	内容	レクリエーション企画の立案	予習	レクリエーション内容を考えてくる		
				復習	各自の役割に応じた活動内容をまとめる		
	第8回	内容	レクリエーション企画の模擬実践	予習	各自の役割に応じた準備を行う		
				復習	実践を踏まえ、修正点をまとめる		
	第9回	内容	レクリエーション企画の実践	予習	準備物などを前日までに用意する		
				復習	実践後の振り返りをノートにまとめる		
	第10回	内容	鬼ごっこの意義	予習	鬼ごっこの種類と遊び方をまとめる		
				復習	発達ごとに遊びを分類しまとめる		
	第11回	内容	手作り遊具を使った遊び	予習	手作り遊具の種類と作り方をまとめる		
				復習	活動内容を発達ごとに分類しまとめる		
	第12回	内容	行事の企画と実践に向けての準備	予習	運動会の種目を考え、決められた課題に取り組む		
				復習	自分の担当種目についてまとめる		
	第13回	内容	行事のリハーサル	予習	行事の活動内容を把握し、言葉かけを考えてくる		
				復習	リハーサルを振り返り改善点を考える		
	第14回	内容	行事実践	予習	実践の準備		
				復習	本時の実践の振り返りをする		
	第15回	内容	まとめ 運動遊びの指導と行事の企画を通して学んだことについて振り返る	予習	指導を行ってきたレポート課題を仕上げる		
				復習	本時のグループ討議を踏まえ考察をノートにまとめる		
	予習に要する学習時間：概ね 20 分を目安とする。 復習に要する学習時間：概ね 25 分を目安とする。						
課題へのフィードバック	振り返りを Google フォームなどで行いその時間内もしくは、次の時間において共有する。 模擬保育についての講評は、個人へのフィードバックと全体へのフィードバックを行う。						
成績評価	試験期間における定期試験：実施（ ）する／（ ○ ）しない 成績評価の方法： 課題（40％）、作品（10％）、発表（20％）実技（20％）、授業態度【積極的参加、服装】（10％）						
教科書	『乳幼児・児童の運動あそびと表現あそび からだとこころを育む指導法』（宮下恭子他編著、大学図書出版）						
参考文献	『書名』（著者名、出版社名）						

補足事項	実技の際は、指定のジャージを着用のこと。 実技のため、受講者数は50名までとします。 児童館等への交通費は個人での実費負担となります。 評価表：https://drive.google.com/file/d/1lm-5cIzb7HVJVVRiZa9fAbg34PIM3eRIu/view?usp=sharing
------	---

科 目 名	幼児の音楽遊び		単 位 数	I	授業時間数	30	担当教員	はせがわ きょうこ 長谷川 恭子
ナンバリングコード	CHS12213		授業形態	演習	実務経験			
授 業 方 式	対面 ・ 遠隔 ・ その他（ ）					アクティブ・ラーニングの実施		有 ・ 無
授 業 の 内 容	領域「表現」に含まれる音楽表現の意義を理解し、乳幼児の感性や創造性を豊かにするために、音や音楽の表現について実践的に学ぶ。具体的には、音や音楽を伴う活動や遊びを体験したり、器楽や歌唱の演奏を楽しんだりすることで、保育者として必要な知識・技能を学び、豊かな感性と表現力を身に付ける。							
到 達 目 標	1. 聴く・動く・演奏するなどの様々な表現を体験することを通して、イメージを豊かにすることができている。 2. 生活の中の音環境を、様々な素材を生かして表現することができる。 3. 音を感じたり音楽を表現したりするにあたり、積極的に活動に取り組み、企画に参加することができる。 4. 他者の表現や意見を受け入れ、互いに共感しあう活動を通して、表現の楽しさの要因についての知識を深め、生かすことができている。							
学位授与方針	幼児教育学科（ 2、3、5 ）地域保育学科（ ）文化表現学科（ ）							
授 業 計 画	第1回	内容	オリエンテーション：音や音楽を楽しむことを考える	予習	領域「表現」を読んでくる。			
				復習	本時の内容について記録し、考察する。			
	第2回	内容	音探しの旅1：身体で音を感じる	予習	身体から出る音について考えてくる。			
				復習	本時の内容について記録し、考察する。			
	第3回	内容	音探しの旅2：身の回りの音の音質を捉える（グループワーク）	予習	グループワークの内容を確認し、活動の趣旨を理解してくる。			
				復習	活動を振り返り、感じたことを記録し、考察する。			
	第4回	内容	声によるアンサンブルの楽しみ：子どもができる声のアンサンブルをする 合唱	予習	歌の練習をする。			
				復習	活動を振り返り、活動の意義を記録し、考察する。			
	第5回	内容	音楽を使った遊び1：楽器を使って音を楽しむ 楽器から出る音に注目し、響きを楽しむ	予習	一般的に保育で使われている楽器の奏法を確認しておく。			
				復習	活動を振り返り、保育への応用を記録し、考察する。			
	第6回	内容	音楽を使った遊び2：手作り楽器でアンサンブルを作る（グループワーク）	予習	グループワークの内容を確認し、活動に必要なものを考えて用意する。			
				復習	活動の振り返りを記録にし、授業で行った内容を整理する。			
	第7回	内容	音楽を使った遊び3：歌を伴う遊びを経験する	予習	歌の練習をする。			
				復習	活動の振り返りを記録にし、授業で行った遊びを覚える。			
	第8回	内容	わらべうたによる保育の実践（外部講師）	予習	これまでに学習した幼児のわらべうたについて復習しておく。			
				復習	授業を振り返り、学んだことを記録し、考察する。			
	第9回	内容	音楽表現の基礎1：発表の企画（グループワーク）	予習	どのような発表ができるか考える。			
				復習	活動を振り返り、感じたことを記録し、考察する。			
	第10回	内容	音楽表現の基礎2：発表の練習（グループワーク）	予習	発表の内容を練習する。			
				復習	活動を振り返り、感じたことを記録し、考察する。			
	第11回	内容	音楽表現の基礎3：発表のリハーサル（グループワーク）	予習	前時の反省をふまえ、発表の内容を練習する。			
				復習	活動を振り返り、感じたことを記録し、考察する。			
	第12回	内容	音楽表現の応用1：発表内容の再検討（グループワーク）	予習	前時の反省をふまえ、改善点を考える。			
				復習	活動を振り返り、感じたことを記録し、考察する。			
	第13回	内容	音楽表現の応用2：発表	予習	発表に向けて練習する。			
				復習	活動を振り返り、感じたことを記録し、考察する。			
	第14回	内容	音楽表現の応用3：発表をふまえての振り返り（討議）	予習	発表に関わる回のノートを確認し、グループ討議の準備をする。			
				復習	活動を振り返り、感じたことを記録し、考察する。			
	第15回	内容	まとめ：授業をふまえて、音を楽しむとはどういうことかを考える（討議）	予習	これまでの活動についてノートを確認し、音楽表現の楽しさについてまとめておく。			
				復習	保育における音楽表現の意義について考え、記録し、考察する。			

	予習に要する学習時間：概ね 25 分を目安とする。 復習に要する学習時間：概ね 20 分を目安とする。
課題へのフィードバック	課題の提出時は、コメントを記入し返却する。 発表後は、講評を行う。
成績評価	試験期間における定期試験：実施（ ）する／（○）しない 成績評価の方法： レポート・課題（20%）、作品・発表（30%）、実技（20%）、授業態度【積極的な参加】（30%）
教科書	授業時にプリントを配布する。ファイリングできるようにしておくこと。
参考文献	『書名』（著者名、出版社名）
補足事項	出欠も評価の対象とする。動きやすさや作業しやすさを考慮した服装で出席すること。20 名程度の定員とする。

科 目 名	健 康		単 位 数	I	授業時間数	30	担当教員	きたほら せいいち 北 洞 誠一
ナバ'リング'コード'	CHSI2102		授業形態	演習	実務経験			
授 業 方 式	対面 ・ 遠隔 ・ その他（ ）							
授 業 の 内 容	子どもにとって健康とは何かを教科書と資料から理解する。また幼稚園教育要領と保育所保育指針を参照して、健康のねらいと内容を学び、子どもの健康を現場でどのように確保促進していくかを理解する。							
到 達 目 標	1. 健康とは何かを理解している。 2. 幼稚園教育要領と保育所保育指針の領域健康のねらいと内容を理解している。 3. 年齢別の領域健康のねらいと内容の違いを理解している。							
学位授与方針	幼児教育学科（ 4,5 ）地域保育学科（ ）文化表現学科（ ）							
授 業 計 画	第1回	内容	オリエンテーション。幼稚園と保育園の違い：歴史、役割	予習	シラバスを読んでくる			
				復習	Google classroomにアップされた資料を読んで復習をする			
	第2回	内容	第1章乳幼児の保育に必要な「健康」についての理解 ①心身の発育や発達から理解する健康	予習	教科書の第1章①を読んでくる			
				復習	Google classroomにアップされた資料を読んで復習をする			
	第3回	内容	第1章乳幼児の保育に必要な「健康」についての理解 ②乳幼児の心身の健康を守る取り組み	予習	教科書の第1章②を読んでくる			
				復習	Google classroomにアップされた資料を読んで復習をする			
	第4回	内容	第1章乳幼児の保育に必要な「健康」についての理解 ③健康な生活を守る安全への取り組み	予習	教科書の第1章②を読んでくる			
				復習	Google classroomにアップされた資料を読んで復習をする			
	第5回	内容	第2章乳幼児教育・保育のための「健康」の取り扱い ①「育みたい資質・能力」「幼児期の終わりまでに育てほしい姿」から考える健康	予習	教科書の第2章①を読んでくる			
				復習	Google classroomにアップされた資料を読んで復習をする			
	第6回	内容	第2章乳幼児教育・保育のための「健康」の取り扱い ②幼稚園教育容量、幼保連携型認定こども園教育・保育要領、保育女保育指針における健康の指導	予習	教科書の第2章②を読んでくる			
				復習	Google classroomにアップされた資料を読んで復習をする			
	第7回	内容	第2章乳幼児教育・保育のための「健康」の取り扱い ③健康の「ねらい」とは～年齢区分によるねらい	予習	教科書の第2章③を読んでくる			
				復習	Google classroomにアップされた資料を読んで復習をする			
	第8回	内容	第2章乳幼児教育・保育のための「健康」の取り扱い ④ねらいを達成するための内容と指導計画	予習	教科書の第2章④を読んでくる			
				復習	Google classroomにアップされた資料を読んで復習をする			
	第9回	内容	第3章乳幼児教育・保育のための「食と生活」の取り組み ①食と健康～食育の推進～	予習	教科書の第3章①を読んでくる			
				復習	Google classroomにアップされた資料を読んで復習をする			
	第10回	内容	第3章乳幼児教育・保育のための「食と生活」の取り組み ②生活と健康～基本的な生活習慣の確立を目指して～	予習	教科書の第3章②を読んでくる			
				復習	Google classroomにアップされた資料を読んで復習をする			
	第11回	内容	第4章保育実践に生かす子どもの活動と指導・援助 ①運動あそびの指導計画	予習	教科書の第4章①を読んでくる			
				復習	Google classroomにアップされた資料を読んで復習をする			
	第12回	内容	第4章保育実践に生かす子どもの活動と指導・援助 ②総合的な活動	予習	教科書の第4章②を読んでくる			
				復習	Google classroomにアップされた資料を読んで復習をする			
	第13回	内容	第4章保育実践に生かす子どもの活動と指導・援助 ③安全な生活のための活動計画	予習	教科書の第4章③を読んでくる			
				復習	Google classroomにアップされた資料を読んで復習をする			
第14回	内容	第5章「健康」をめぐる今日の課題 ①子どもの健康をめぐる現代的課題	予習	教科書の第5章①を読んでくる				
			復習	Google classroomにアップされた資料を読んで復習をする				
第15回	内容	第5章「健康」をめぐる今日の課題 ②幼保小架け橋期の連続した発展 ③保護者・地域社会との連携や支援 ④予測不能な社会に生きる	予習	教科書の第5章②③④を読んでくる				
			復習	Google classroomにアップされた資料を読んで復習をする				
予習に要する学習時間：概ね30分を目安とする。 復習に要する学習時間：概ね30分を目安とする。								

課題へのフィードバック	課題は Google クラスルームの Google ドキュメントで提出し、その評価とコメントでフィードバックする
成績評価	試験期間における定期試験：実施（ ）する／（○）しない 成績評価の方法： 筆記試験（0%）、レポート・課題（90%）、作品・発表（0%）、実技（0%）、授業態度【積極性他】（10%）
教科書	『書名』（著者名、出版社名） 「乳幼児の健康～教育・保育に向けた計画と実践～」 （宮下恭子・荻井香保里・平山素子編、大学図書出版）
参考文献	『書名』（著者名、出版社名） 「限界を超える子どもたちー脳・身体・障害への新たなアプローチ」（アナット・パニエル、太郎次郎社エディダス）
補足事項	レポートと課題は Google classroom 上で行います。リモート授業アプリの Google classroom を使える環境を整えること。予定は予告なく変更することがあり、保育ビデオや現場の保育場面の動画を鑑賞する時間を適宜入れていきます。授業は 1～10 回北洞担当、11～15 回平山担当。

科 目 名	人間関係		単 位 数	I	授業時間数	30	担当教員	まるはし さとみ 丸 橋 聡美	
ナバ`リング`コード`	CHS12103		授業形態	演習	実務経験				
授 業 方 式	対面 ・ 遠隔 ・ その他（ ）					アクティブ・ラーニングの実施		有 ・ 無	
授 業 の 内 容	幼児の人間関係の育ちに影響を与えている社会的要因について理解し、幼児教育で保障すべき教育内容に関する知識を身につける。領域「人間関係」の指導基盤となる基礎理論として関係発達論的視点について学び、他者との関係や集団との関係のなかで人と関わる力が育つことを理解する。								
到 達 目 標	1. 幼児を取り巻く人間関係をめぐる現代的課題を理解している。 2. 園生活における幼児期の人間関係の発達について理解している。 3. 領域「人間関係」のねらいや内容を理解している。 4. 自立心、協同性、道徳性・規範意識の芽生え、それぞれの育ちについて子どもの発達の姿と合わせて説明できる。								
学位授与方針	幼児教育学科（ 1・2・3・5 ）地域保育学科（ ）文化表現学科（ ）								
授 業 計 画	第1回	内容	オリエンテーション、現代社会と幼児の人間関係①幼児期の生活経験（グループワーク）	予習	講義内容を読んでおく				
				復習	この科目で習得すべき内容を理解する				
	第2回	内容	現代社会と幼児の人間関係②現代の幼児の生活（グループワーク）	予習	子どもの定義を考える				
				復習	人間関係の広義を理解する				
	第3回	内容	保育における子どもの人間関係①幼稚園と保育園の子どもたち（ICTの活用）	予習	幼稚園・保育園について調べておく				
				復習	幼稚園・保育園の機能をまとめる				
	第4回	内容	保育における子どもの人間関係②人間関係の重要性と育ち	予習	教科書p34～65まで読む				
				復習	子どもの人間関係の重要性をまとめる				
	第5回	内容	3歳未満児の人間関係の発達①0歳児	予習	0歳児の発達を調べる				
				復習	小テストの内容を確認する①				
	第6回	内容	3歳未満児の人間関係の発達②1・2歳児	予習	1.2歳児の発達を調べておく				
				復習	小テストの内容を復習する①				
	第7回	内容	3歳以上児の人間関係の発達①3歳児	予習	3歳児の発達を調べておく				
				復習	小テストの内容を確認する②				
	第8回	内容	3歳以上児の人間関係の発達②4・5歳児	予習	4.5歳児の発達を調べておく				
				復習	小テストの内容を復習する②				
	第9回	内容	領域「人間関係」について ①全体像を理解する、②3歳以上児のねらい	予習	幼稚園教育要領を読んでおく				
				復習	領域「人間関係」の全体像と3歳以上児のねらいを理解しまとめる				
	第10回	内容	領域「人間関係」②3歳以上児の内容	予習	領域「人間関係」のねらいと内容を読んでおく				
				復習	領域「人間関係」の内容を理解する				
	第11回	内容	領域「人間関係」③乳児保育、1歳以上3歳未満児のねらいと内容	予習	1歳以上3歳未満児の領域「人間関係」を読む				
				復習	小テストの内容を復習する③				
	第12回	内容	乳幼児期の自立心の育ち、幼児期の協同性の育ち（グループワーク）	予習	事例を読んでおく				
				復習	小テストの内容を復習する④				
	第13回	内容	幼児期の道徳性・規範意識の芽生えと育ち（グループワーク）	予習	事例を読んでおく				
				復習	小テストの内容を確認する⑤				
	第14回	内容	乳幼児を取り巻く人間関係（家庭・地域など）－社会生活との関わりと育ち（グループワーク）	予習	身の周り（地域・家族）の事例を考える				
				復習	小テストの内容を復習する⑤				
	第15回	内容	乳幼児期の人間関係のひろがる場と関係性、まとめ	予習	乳幼児期の人間関係、関係性について考える				
				復習	乳幼児期の人間関係についてまとめる				
	予習に要する学習時間：概ね 20分を目安とする。 復習に要する学習時間：概ね 25分を目安とする。								
	課題へのフィードバック	課題や事例についての解説や説明を行う。確認テストを実施し、授業内容を再確認する。毎回授業内容の振り返りを記入をし、フィードバックする。							
	成績評価	試験期間における定期試験：実施（ ）する／（○）しない 成績評価の方法： 課題（40%）、小テスト（50%）、授業態度【積極的な取り組み】（10%）							
教科書	『幼稚園教育要領』『保育所保育指針』 『保育内容「人間関係」－「共に育つ・創る」をめざして』編著：吉川晴美・関口はつ江・義永睦子、ミネルヴァ書房								
参考文献	なし								

補足事項	ループリック：
------	---------

科 目 名	環 境	単 位 数	I	授業時間数	30	担当教員	なかむら よういち 中 村 陽 一
ナバ`リング`コード`	CHSI2104	授業形態	演習	実務経験			
授 業 方 式	対面 ・ 遠隔 ・ その他（ ）				アクティブ・ラーニングの実施		有
授 業 の 内 容	子どもは家庭・保育所・幼稚園・地域社会などの「環境」の中で生活し、その体験を通じて、人格形成の基礎となる豊かな心情、思考力や想像力、意欲や態度などが培われる。本講義は、幼稚園教育要領・保育所保育指針の領域「環境」の内容を理解し、保育者に求められる援助について理解することを目的とする。						
到 達 目 標	1. 子どもの成長にとって望ましい自然体験と保育者の適切な援助方法について理解している。 2. 「環境を通した保育」の意義と、保育者の援助について、自分の考えを述べることができる。 3. 自然と生命を尊重する態度を身につけ、子どもに伝えることができる。						
学位授与方針	幼児教育学科（1.2.3.4）						
授 業 計 画	第1回	内容	保育と環境－「環境を通して行う保育」の特質、子どもの発達と環境との関わり	予習	幼稚園教育要領 第1章を読む。		
				復習	「環境を通して行う保育」についての課題		
	第2回	内容	領域「環境」のねらいと内容－「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園 教育・保育要領」。	予習	教科書 1～8p を読む。		
				復習	領域「環境」の概要についての課題		
	第3回	内容	子どもの生活と物的環境①－保育の環境構成（保育室、園舎）。	予習	教科書 11～15p を読む。		
				復習	類機室の環境に関する課題		
	第4回	内容	子どもの生活と物的環境②－保育の環境構成（園庭）。	予習	教科書 27～31p を読む。		
				復習	園庭の環境に関する課題		
	第5回	内容	子どもの生活と自然環境①－子どもを取り巻く自然環境	予習	教科書 45～47p を読む。		
				復習	幼稚園教育要領解説 195p を読む。		
	第6回	内容	子どもの生活と自然環境②－自然環境と保育実践（自然への気づき・季節感）	予習	教科書 47～54p を読む。		
				復習	幼稚園教育要領解説 197p を読む。		
	第7回	内容	子どもの生活と自然環境③－動物との関わり、飼育動物の特徴と配慮	予習	教科書 54～57p を読む。		
				復習	幼稚園教育要領解説 66, 67p を読む。		
	第8回	内容	子どもの生活と自然環境④－植物の関わり、栽培植物の特徴と配慮、実践例	予習	教科書 57～58p を読む。		
				復習	幼稚園教育要領解説 199p を読む。		
	第9回	内容	子どもの生活と社会環境①－社会環境と地域の特性、情報化と保育	予習	教科書 61～67p を読む。		
				復習	幼稚園教育要領解説 205p を読む。		
	第10回	内容	子どもの生活と社会環境②－情報と生活、伝統的な行事との関わり、地域や施設との関わり	予習	教科書 67～75p を読む。		
				復習	幼稚園教育要領解説 200 p を読む。		
	第11回	内容	数量や文字に関する取り扱い①－子どもの生活と数、子どもの生活と文字	予習	教科書 77～84p を読む。		
				復習	幼稚園教育要領解説 203 p を読む。		
	第12回	内容	数量や文字に関する取り扱い②－小学校教育とのつながり	予習	教科書 84～91p を読む。		
				復習	幼稚園教育要領解説 212 p を読む。		
	第13回	内容	小学校教育への連続性－保育内容「環境」と小学校教育の「生活科」「総合学習」への連続性	予習	教科書 93～99p を読む。		
				復習	小学校「生活科」についての課題		
	第14回	内容	保育内容「環境」に関わる教育思想の変遷－ベスタロッツ・フレーベル・オウエン・倉橋惣三など。	予習	配布された資料を読む		
				復習	環境を通した保育思想についてまとめる。		
	第15回	内容	グループ討論と発表。授業の振り返りとまとめ。	予習	教科書 123～126p を読む。		
				復習	「環境を通して行う保育」のレポート作成。		
予習に要する学習時間：概ね 30 分を目安とする。復習に要する学習時間：概ね 30 分を目安とする。							
課題へのフィードバック	Google Classroom を用いて課題に対するフィードバックを行う。						
成績評価	試験期間における定期試験：実施（ ）する／（○）しない 成績評価の方法： 筆記試験（ ）、レポート・課題（100%）、作品・発表（ ）、実技（ ）、授業態度（ ）						
教科書	『令和 5 年度最新版 幼児期までのこどもの育ちに係る基本的なビジョン 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領<原本>』（文部科学省・厚生労働省・内閣府、チャイルド本社）『コンパス 保育内容 環境』（高橋貴志・目良秋子編、建帛社）						
参考文献	なし						
補足事項	なし https://drive.google.com/file/d/lq00IEkm0afqjsIKAJiz8SN8AsbZ9G0tp/view?usp=sharing						

科 目 名	言 葉		単 位 数	I	授業時間数	3 0	担当教員	いざわ えいしゅう
ナバ`リング`コード`	CHS12105		授業形態	演習	実務経験			伊澤 永 修
授 業 方 式	対面 ・ 遠隔 ・ その他（ ）					アクティブ・ラーニングの実施		有 ・ 無
授 業 の 内 容	人が社会の中で生活するために必要な言葉の意義や機能、乳幼児の言葉の発達過程、言葉の楽しさや美しさなどを映像や事例を通して具体的に学ぶ。また、保育の中で効果的に活用できるように、児童文化財についての教材研究を行い、また、実際に演じることで保育への活かし方について体験的に学ぶ。							
到 達 目 標	1.「言葉」の意義や機能について理解している 2.乳幼児の言葉の発達過程について理解している 3.領域「言葉」のねらいや内容に基づく保育内容について理解している							
学位授与方針	幼児教育学科（1、2、5）地域保育学科（ ）文化表現学科（ ）							
授 業 計 画	第1回	内容	オリエンテーション 適切な自己紹介文章の作成方法について理解する	予習	シラバスを読んでおく			
				復習	この科目で習得できる内容について理解する 自分を効果的に表現できる言葉や文章及び文章の構成について振り返りを行う			
	第2回	内容	作成した自己紹介文を用いて自己紹介を行うことで効率的な言葉による伝達方法について理解する 幼児教育の根幹について、保育者の使命や幼児期の特性とともに理解する	予習	テキストの該当箇所を読み込んでおく			
				復習	伝える内容及適切な伝え方についての振り返りを行う 授業の内容を踏まえ、テキストの該当箇所を読み理解の定着を図る			
	第3回	内容	幼児教育において育みたい資質・能力、幼児期の終わりまでに育ってほしい姿について理解する	予習	テキストの該当箇所を読み込んでおく			
				復習	授業の内容を踏まえ、テキストの該当箇所を読み理解の定着を図る			
	第4回	内容	幼児期の終わりまでに育ってほしい姿それぞれについての理解を深める 主体的・対話的で深い学びについてグループディスカッションを行い自らの考え方を整理する。	予習	テキストの該当箇所を読み込んでおく			
				復習	授業の内容を踏まえ、テキストの該当箇所を読み理解の定着を図る			
	第5回	内容	主体的・対話的で深い学びについて理解する 幼児教育における非認知能力について理解する	予習	テキストの該当箇所を読み込んでおく			
				復習	授業の内容を踏まえ、テキストの該当箇所を読み理解の定着を図る			
	第6回	内容	非認知能力の必要性について理解する 乳児保育における3つの視点について理解し、乳児保育の視点と幼児教育の領域の関係性について及び養護と教育の一体性について理解する	予習	テキストの該当箇所を読み込んでおく			
				復習	授業の内容を踏まえ、テキストの該当箇所を読み理解の定着を図る			
	第7回	内容	幼児期におけるふさわしい教育とは何かについて、グループディスカッション及び解説を通して理解する	予習	テキストの該当箇所を読み込んでおく			
				復習	授業の内容を踏まえ、テキストの該当箇所を読み理解の定着を図る			
	第8回	内容	幼児教育における環境を通して教育することの意義や目的、方法などについて理解する	予習	テキストの該当箇所を読み込んでおく			
				復習	授業の内容を踏まえ、テキストの該当箇所を読み理解の定着を図る			
	第9回	内容	現代社会における幼児教育施設の存在意義について理解する 幼児教育の基本と保育者の様々な役割について理解する	予習	幼児教育施設の意義や役割についてまとめておく			
				復習	授業の内容を踏まえ幼児教育施設の意義や役割についてまとめ、その中での子どもと関わる保育者の役割についてまとめる			
	第10回	内容	乳幼児期の言葉の発達について理解する	予習	乳幼児期の言葉の発達について事前に調べておく			
				復習	乳幼児期の言葉の発達についてまとめる			
	第11回	内容	身振り手振りを使っのグループワークを通して言葉の機能について理解する	予習	言葉の働きや役割についてまとめておく			
				復習	グループワークで体験したことを振りかえりながら改めて言葉の機能について理解を深める			
	第12回	内容	言葉の働きや役割及び言葉と文化の関係性を理解する	予習	前回のグループワークを通して言葉の働きや役割について改めてまとめておく			
				復習	言葉の働きや機能及び言葉の与える様々な影響についてまとめを行う			
	第13回	内容	日本語の美しさと魅力について理解する 乳幼児期のことばの発達を映像視聴から理解を深める（前半）	予習	日本語の特徴などについてまとめておく これまで学んだ乳幼児のことばの発達について振り返りをしておく			
				復習	映像から理解できたことをこれまで学習してきたことと照らし合わせて理解を深める			

	第 14 回	内容	乳児期のことばの発達とおとなの存在について理解する 乳幼児期のことばの発達を映像視聴から理解を深める（後半）	予習	テキストの該当箇所を読み込んでおく これまで学んだ乳幼児のことばの発達について振り返りをしておく
				復習	日本語の美しさや魅力についてまとめる 映像から理解できたことをこれまで学習してきたことと照らし合わせて理解を深める
	第 15 回	内容	児童文化と児童文化財についての理解する オノマトペについて理解する	予習	児童文化財におよびオノマトペについての下調べをしておく
				復習	効果的な児童文化財やオノマトペの使い方についてまとめる
	予習に要する学習時間：概ね 2 5 分を目安とする。 復習に要する学習時間：概ね 2 0 分を目安とする。				
課題へのフィードバック	提出物に関する評価を行い、返却時に解説する。				
成績評価	試験期間における定期試験：実施（ ）する／（○）しない 成績評価の方法： 筆記試験（ ）％）、レポート・課題（ 6 0 ％）、作品・発表（ ）％）、実技（ ）％）、授業態度【参加度合】（ 4 0 ％）				
教科書	『事例で学ぶ保育内容』 無藤隆監修 萌文書林				
参考文献	『保育所保育指針』『幼稚園教育要領』『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』フレーベル館				
補足事項	ルーブリック：https://drive.google.com/file/d/106HbBseWB4cgfcg9Wnv_kwpTyg5PXw7q/view?usp=sharing				

科 目 名	造形表現		単 位 数	I	授業時間数	3 0	担当教員	やまだ さえこ 山田 佐映子
ナバ`リング`コード`	CHS12106		授業形態	演習	実務経験			
授 業 方 式	対面 ・ 遠隔 ・ その他（ ）							
授 業 の 内 容	こどもの表現に対する理解を深めることを目的として成長に寄り添う活動を解説する。実際の保育現場で役立つ素材、画材、道具に触れ、色や形、感触などからイメージを豊かにする。表現する楽しみを体感することで、こどもが描きつくることを遊び、主体的、対話的に学ぶことから自己を表現していく指導法や配慮を考察する。実際の準備から活動、片付けまでの流れをグループで協力的に行う。造形あそびの環境づくりをできる保育者としての技能を身につける。							
到 達 目 標	1. こどもの発達や育ちを考慮した遊びとして造形活動の指導計画を立案する 2. 保育現場で実際に扱う材料や用具の説明をできる 3. 造形表現の多様さを味わい、その楽しみをこどもと共有できる							
学位授与方針	幼児教育学科（ 2・3・4・5 ） 地域保育学科（ ） 文化表現学科（ ）							
授 業 計 画	第1回	内容	ガイダンス（授業の説明）・幼児の造形表現とは	予習	5領域「表現」について読み込んでおく			
				復習	幼児の造形表現について自身の考えをまとめる			
	第2回	内容	ハサミの出会いと展開 ハサミの1回切り	予習	ハサミ使用について年齢別特徴を調べる			
				復習	ハサミ使用時の注意点をまとめる			
	第3回	内容	身近な生活素材からつくってあそぶ工作(1) 紙皿、紙コップ	予習	幼児が楽しめる工作について調べる			
				復習	体験した準備と流れ、配慮をまとめる			
	第4回	内容	身近な生活素材からつくってあそぶ工作(2) 封筒	予習	幼児が楽しめる工作について調べる			
				復習	体験した準備と流れ、配慮をまとめる			
	第5回	内容	色のイメージをあそぶ(1) 色彩を学ぶ	予習	色彩について調べる			
				復習	色彩について学んだ内容をまとめる			
	第6回	内容	色のイメージをあそぶ(2) パレット 共同あそびへの展開	予習	絵の具の共同あそびを調べる			
				復習	共同あそびへの展開について自分の考えをまとめる			
	第7回	内容	絵画技法(1) スクラッチ	予習	スクラッチ技法を調べる			
				復習	体験した準備と流れ、配慮をまとめる			
	第8回	内容	絵画技法(2) デカルコマニー	予習	デカルコマニー技法を調べる			
				復習	体験した準備と流れ、配慮をまとめる			
	第9回	内容	絵画技法(3) スタンピング	予習	スタンピング技法を調べる			
				復習	体験した準備と流れ、配慮をまとめる			
	第10回	内容	絵画技法(4) フロッターージュ	予習	フロッターージュ技法を調べる			
				復習	体験した準備と流れ、配慮をまとめる			
	第11回	内容	季節を感じる遊びの体験をする	予習	秋冬の造形あそびを調べる			
				復習	体験した準備と流れ、配慮をまとめる			
	第12回	内容	ステープラーの出会いと展開 バッグづくり①	予習	こどものバッグづくりの制作活動を調べる			
				復習	自身の創作工程をまとめる			
	第13回	内容	ステープラーに慣れる バッグづくり②	予習	どの材料が適当か考えておく			
				復習	体験した準備と流れ、配慮をまとめる			
	第14回	内容	作品発表 作品整理と振り返り	予習	発表作品の創意工夫ポイントをまとめておく			
				復習	こどもと自身の創作の違いを意識して考える			
	第15回	内容	乳幼児の描画について 保育者の役割を考える	予習	これまでの授業でまとめた記録を見直す			
				復習	授業を通して感じた保育者の役割をまとめる			
予習に要する学習時間：概ね 30 分を目安とする。 復習に要する学習時間：概ね 45 分を目安とする。								
課題へのフィードバック	課題に対して活動毎に解説を行う。こどもの造形あそびへの導入や展開、声かけの配慮について留意点を伝える。							
成績評価	試験期間における定期試験：実施（ ）する／（○ ）しない 成績評価の方法：レポート課題（30%）、作品・発表（40%）、授業態度【積極的参加・丁寧な制作】（30%）							
教科書	なし（適宜資料を提示する）							
参考文献	『つくる・かく・あそぶ こどものアートブック』鮫島良一・馬場千晶著 日本文教出版（2021年）							
補足事項	制作活動に積極的に、丁寧に取り組むこと。汚れを気にしない格好で受講すること。進行によりシラバスの回を入れ替える場合がある。							

科 目 名	音楽・身体表現	単 位 数	I	授業時間数	30	担当教員	しおぎき はせがわ 塩 崎 ・ 長谷川
ナバ`リング`コード`	CHS12107	授業形態	演習	実務経験			
授 業 方 式	対面 ・ 遠隔 ・ その他（ ）				アクティブ・ラーニングの実施		有 ・ 無
授 業 の 内 容	領域「表現」における音楽・身体表現の指導法に関する、乳幼児期の特徴を捉え、乳幼児の感性や創造性を豊かにする表現遊びや環境について実践的に学ぶとともに、保育者として必要な知識・技能を学び、豊かな感性と表現力を身に付ける。また、ICT を活用し、スマートフォンやタブレット端末を使用し、コメントや評価など双方向型授業も行う。						
到 達 目 標	1.見る・聴く・動くなどの様々な表現を楽しむことを通して、イメージを豊かにすることができている。 2.生活の中での出来事を、様々な素材を生かして表現することができる。 3.それぞれの表出・表現を受け止め、表現する過程を工夫し、より楽しめるよう発展させることができている。 4.他者を受け入れ、互いに共感しあう活動を通して、表現の楽しさの要因についての知識を深め、生かすことができている。						
学位授与方針	幼児教育学科（ 1・2・5 ）地域保育学科（ ）文化表現学科（ ）						
授 業 計 画	第1回	内容	「表現とは」 領域「表現」のねらい及び内容について理解する		予習	領域「表現」のねらいの箇所を読んでくる	
					復習	本時の内容についてノートにまとめる	
	第2回	内容	「リズムカルなダンス」 リズムカルなダンスの実践と、グループで創作し、発表をする。		予習	教科書 43 ページを読んでくる。	
					復習	グループ討議やまとめの内容をノートまとめる	
	第3回	内容	「架空の世界」を題材にした運動会作品の実践と、グループ創作、発表を行う。		予習	宇宙についての導入を考えてくる。	
					復習	創作過程、発表後の振り返りを行う	
	第4回	内容	「童謡」や「歌遊び」を題材とした身体表現遊びの実技の実践とまとめ		予習	身体表現へ用いることのできる「歌遊び」を2つ探してくる	
					復習	本時の活動を発達ごとにノートにまとめる	
	第5回	内容	「絵本と身体表現」 絵本を題材とした身体表現遊びの実技を通して、展開についてグループ討議する。		予習	身体表現に利用できる絵本を探してくる	
					復習	気に入った絵本で身体表現遊びの活用についてまとめる	
	第6回	内容	「自然と身体表現」 自然を題材とした身体表現遊びの実技を通して、展開についてグループ創作・発表、討議をする。発表作品を動画で撮影する。		予習	自然観察し、動きに用いることのできる対象物を選び動画、写真などに撮影してくる	
					復習	本時の発表作品を動画にまとめる。	
	第7回	内容	「生活の中での身体表現」 生活を題材とした身体表現遊びの実技を通して、豊かな表現活動の展開の可能性についてグループ討議する。		予習	生活の中での身表現の題材について考えてくる	
					復習	本時の活動を発達ごとにノートにまとめ、考察する	
	第8回	内容	「ICTを使った身体表現」 ICTを活用した表現方法について実践し、生かし方・工夫について話し合い、まとめる。		予習	ICTの意味について調べ活用方法について考えてくる	
					復習	活用の仕方、操作の仕方の練習をする	
	第9回	内容	音楽の応用 1 多様な音楽表現の方法		予習	授業で指示した資料を確認する	
					復習	経験した音楽表現法を記録し振り返りをする	
	第10回	内容	音楽の応用 2 アレンジによる音楽表現の応用		予習	コードネームについて確認する	
					復習	経験した音楽表現法を記録し振り返りをする	
	第11回	内容	音楽表現の展開 1 幼児の豊かな表現力と音楽的な資質・能力を養うための教材選択		予習	授業で指示した資料を確認する	
					復習	教材選択の観点について考察し記録する	
	第12回	内容	音楽表現の展開 2 童謡を用いた総合的な表現活動の展開		予習	授業で支持した課題に取り組む	
					復習	経験した総合的な表現活動について記録する	
	第13回	内容	音楽と身体表現の出会い 音と体を使って表現を楽しむ、工夫する		予習	発表の題材について考えてくる	
					復習	本時の内容をまとめ、次時の課題を考えてくる	
	第14回	内容	様々な表現方法を用いて 様々な表現を集めて小作品を創作する		予習	音楽、動きについて考えてくる	
					復習	発表作品の練習課題についてまとめる	
	第15回	内容	学習のまとめを発表する		予習	発表作品の練習をする	
					復習	ノートのまとめをし、考察する	
	予習に要する学習時間：概ね 20 分を目安とする。 復習に要する学習時間：概ね 25 分を目安とする。						
課題へのフィードバック	ノートや課題提出の際は、コメントを記入し返却する。 発表後は、講評を行う。						

成績評価	試験期間における定期試験：実施（ ）する／（○）しない 成績評価の方法： 筆記試験（ ）、レポート・課題（30%）、作品・発表（30%）、実技（20%）、授業態度【積極的参加、出席状況】（20%）
教科書	『遊んで育て！表現の力ー保育で使える活動例と指導法』（塩崎みづほ・小口偉・長谷川恭子、推敲舎）
参考文献	『乳幼児・児童の運動あそび・表現あそび からだとこころを育む指導法』（宮下恭子編著、大学図書出版）
補足事項	身体表現の授業では、学校指定のジャージを着用のこと。 塩崎（9回）、長谷川（9回） 音楽表現ルーブリック評価表：https://drive.google.com/file/d/lnwNbgi_b02NIIFkvB80yqW0R05eu49wy/view?usp=sharing 身体表現ルーブリック評価表：https://drive.google.com/file/d/IjvLiPxsBghXZoJh-FjUjiH10H530C6lh/view?usp=sharing

科 目 名	音楽・身体表現		単 位 数	I	授業時間数	30	担当教員	しおざき まるやま 塩 崎 ・ 丸 山
ナバ`リング`コード`	CHS12107		授業形態	演習	実務経験			
授 業 方 式	対面 ・ 遠隔 ・ その他（ ）					アクティブ・ラーニングの実施		有 ・ 無
授 業 の 内 容	領域「表現」における音楽・身体表現の指導法に関する、乳幼児期の特徴を捉え、乳幼児の感性や創造性を豊かにする表現遊びや環境について実践的に学ぶとともに、保育者として必要な知識・技能を学び、豊かな感性と表現力を身に付ける。また、ICT を活用し、スマートフォンやタブレット端末を使用し、コメントや評価など双方向型授業も行う。							
到 達 目 標	1.見る・聴く・動くなどの様々な表現を楽しむことを通して、イメージを豊かにすることができている。 2.生活の中での出来事を、様々な素材を生かして表現することができる。 3. 他者を受け入れ、互いに共感しあう活動を通して、表現の楽しさの要因についての知識を深め、生かすことができている。							
学位授与方針	幼児教育学科（ 1・2・5 ）地域保育学科（ ）文化表現学科（ ）							
授 業 計 画	第1回	内容	「表現」とは 領域「表現」のねらい及び内容について理解する。	予習	領域「表現」のねらいの箇所を読んでくる			
				復習	本時の内容についてノートにまとめる			
	第2回	内容	「リズムカルなダンス」 リズムカルなダンスの実践と、グループで創作し、発表をする。	予習	教科書 43 ページを読んでくる。			
				復習	グループ討議やまとめの内容をノートまとめる			
	第3回	内容	「架空の世界」を題材にした運動会作品の実践と、グループ創作、発表を行う。	予習	宇宙についての導入を考えてくる。			
				復習	創作過程、発表後の振り返りを行う			
	第4回	内容	「童謡」や「歌遊び」を題材とした身体表現遊びの実技の実践とまとめ	予習	身体表現へ用いることのできる「歌遊び」を2つ探してくる			
				復習	本時の活動を発達ごとにノートにまとめる			
	第5回	内容	「絵本と身体表現」 絵本を題材とした身体表現遊びの実技を通して、展開についてグループ討議する。	予習	身体表現に利用できる絵本を探してくる			
				復習	気に入った絵本で身体表現遊びの活用についてまとめる			
	第6回	内容	「自然と身体表現」 自然を題材とした身体表現遊びの実技を通して、展開についてグループ創作・発表、討議をする。発表作品を動画で撮影する。	予習	自然観察し、動きに用いることのできる対象物を選び動画、写真などに撮影してくる			
				復習	本時の発表作品を動画にまとめる。			
	第7回	内容	「生活の中での身体表現」 生活を題材とした身体表現遊びの実技を通して、豊かな表現活動の展開の可能性についてグループ討議する。	予習	生活の中での身表現の題材について考えてくる			
				復習	本時の活動を発達ごとにノートにまとめ、考察する			
	第8回	内容	「I C Tを使った身体表現」 ICT を利活用した表現方法について実践し、生かし方・工夫について話し合い、まとめる。	予習	ICT の意味について調べ活用方法について考えてくる			
				復習	活用の仕方、操作の仕方の練習をする			
	第9回	内容	音楽の応用 1 多様な音楽表現の方法	予習	授業で指示した資料を確認する			
				復習	経験した音楽表現法を記録し振り返りをする			
	第10回	内容	音楽の応用 2 アレンジ表現の応用	予習	コードネームについて確認する			
				復習	経験した音楽表現法を記録し振り返りをする			
	第11回	内容	音楽表現の展開 1 幼児の豊かな表現力と音楽的な資質・能力を養うための教材選択	予習	授業で指示した資料を確認する			
				復習	教材選択の観点について考察し記録する			
	第12回	内容	様々な楽器を用いた総合的な表現活動の音楽表現展開 2 童謡を展開	予習	授業で支持した課題に取り組む			
				復習	経験した総合的な表現活動について記録する			
	第13回	内容	音楽と身体表現の出会い 音と体を使って表現を楽しむ、工夫する	予習	発表の題材について考えてくる			
				復習	本時の内容をまとめ、次時の課題を考えてくる			
	第14回	内容	様々な表現方法を用いて 様々な表現を集めて小作品を創作する	予習	音楽、動きについて考えてくる			
				復習	発表作品の練習課題についてまとめる			
	第15回	内容	音楽表現の学習のまとめを発表する	予習	発表作品の練習をする			
				復習	ノートのまとめをし、考察する			
予習に要する学習時間：概ね 20 分を目安とする。 復習に要する学習時間：概ね 25 分を目安とする。								
課題へのフィードバック	ノートや課題提出の際は、コメントを記入し返却する。 発表後は、講評を行う。							
成績評価	試験期間における定期試験：実施（ ）する／（○）しない 成績評価の方法： 筆記試験（ ）％、レポート・課題（30％）、作品・発表（30％）、実技（20％）、授業態度【積極的参加、出席状況】（20％）							

教科書	『遊んで育て！表現の力—保育で使える活動例と指導法』（塩崎みづほ・小口偉・長谷川恭子、推敲舎）
参考文献	『乳幼児・児童の運動あそび・表現あそび からだとこころを育む指導法』（宮下恭子編著、大学図書出版）
補足事項	身体表現の授業では、学校指定のジャージを着用のこと。 塩崎（８回）、丸山（８回） 身体表現ルーブリック評価表：https://drive.google.com/file/d/1jvLiPxs8ghXZoJh-FjUjiHl0H530C6lh/view?usp=sharing

科 目 名	音 楽 I		単 位 数	I	授業時間数	3 0	担当教員	しか と かずのり 鹿 戸 一 範 他	
ナバ`リング`コード`	EDSI2101		授業形態	演習	実務経験				
授 業 方 式	対面 ・ 遠隔 ・ その他（ ）					アクティブ・ラーニングの実施		有 ・ 無	
授 業 の 内 容	この授業では、保育現場で求められるピアノ演奏技術の修得を目的として、個人レッスンとクラス授業を組み合わせる。個人レッスンでは、保育現場に必要なピアノ演奏技術の向上を図り、クラス授業では、音楽理論や楽典、歌唱法、伴奏法などを学ぶ。学生は、ピアノの個人レッスン（2～3人のグループで実施）とクラス授業を、それぞれ45分ずつ受講する。								
到 達 目 標	1. 基礎的な技術を身につけるための練習曲に取り組み、保育現場で求められるピアノ演奏技術を修得している 2. 幼稚園・保育所実習および保育現場での実践に対応できるよう、子どものうたの弾き歌いができる。 3. 音楽理論を理解し、ピアノ演奏に活かす力を身につけ、保育における音楽活動に役立てることができる。								
学位授与方針	幼児教育学科（ 1・2・5 ）地域保育学科（ ）文化表現学科（ ）								
授 業 計 画	第1回	内容	オリエンテーション：授業内容・進め方について	予習	事前にシラバスを確認しておく				
				復習	シラバスの内容を読み、授業の流れを把握する				
	第2回	内容	ハ長調の和音・分散和音の伴奏形① 大学ピアノ教本 No.1～8	予習	大学ピアノ教本 No.1～8の予習				
				復習	大学ピアノ教本 No.1～8の復習				
	第3回	内容	分散和音の伴奏形②・③ 大学ピアノ教本 No.9～16	予習	大学ピアノ教本 No.9～16の予習				
				復習	大学ピアノ教本 No.9～16の復習				
	第4回	内容	分散和音の伴奏形④ 4分音符と8分音符 大学ピアノ教本 No.17～24	予習	大学ピアノ教本 No.17～24の予習				
				復習	大学ピアノ教本 No.17～24の復習				
	第5回	内容	ハ長調の下属和音 大学ピアノ教本 No.25～26	予習	大学ピアノ教本 No.25～26の予習				
				復習	大学ピアノ教本 No.25～26の復習				
	第6回	内容	ヘ長調の主和音・下属和音・属和音 大学ピアノ教本 No.27～32	予習	大学ピアノ教本 No.27～32の予習				
				復習	大学ピアノ教本 No.27～32の復習				
	第7回	内容	ト長調の主和音・下属和音・属和音 大学ピアノ教本 No.33～38	予習	大学ピアノ教本 No.33～38の予習				
				復習	大学ピアノ教本 No.33～38の復習				
	第8回	内容	中間発表会（個人発表） いろいろな伴奏形①～④ 大学ピアノ教本 No.39～42	予習	大学ピアノ教本 No.39～42の予習				
				復習	大学ピアノ教本 No.39～42の復習				
	第9回	内容	高い音の練習 大学ピアノ教本 No.43～46	予習	大学ピアノ教本 No.43～46の予習				
				復習	大学ピアノ教本 No.43～46の復習				
	第10回	内容	3/8拍子と6/8拍子 大学ピアノ教本 No.47～48 生活のうたの弾き歌い①	予習	大学ピアノ教本 No.47～48 他の予習				
				復習	大学ピアノ教本 No.47～48 他の復習				
	第11回	内容	付点4分音符を用いたリズム 大学ピアノ教本 No.49～54 生活のうたの弾き歌い②	予習	大学ピアノ教本 No.49～54 他の予習				
				復習	大学ピアノ教本 No.49～54 他の復習				
	第12回	内容	ハ長調の音階 大学ピアノ教本 No.55～58 生活のうたの弾き歌い③	予習	大学ピアノ教本 No.55～58 他の予習				
				復習	大学ピアノ教本 No.55～58 他の復習				
	第13回	内容	ヘ長調の音階 大学ピアノ教本 No.59～61 生活のうたの弾き歌い④	予習	大学ピアノ教本 No.59～61 他の予習				
				復習	大学ピアノ教本 No.59～61 他の復習				
	第14回	内容	ト長調の音階 大学ピアノ教本 No.62～67 生活のうたの弾き歌い⑤	予習	大学ピアノ教本 No.62～67 他の予習				
				復習	大学ピアノ教本 No.62～67 他の復習				
	第15回	内容	これまでの授業のまとめと発表	予習	発表曲の予習				
				復習	これまでの内容を振り返る				
	予習に要する学習時間：概ね30分を目安とする。 復習に要する学習時間：概ね30分を目安とする。								
	課題へのフィードバック	授業内での発表や実技試験での演奏に対して、個別に講評を行う。							
	成績評価	試験期間における定期試験：実施（○）する／（ ）しない 成績評価の方法： 筆記試験（ ）、作品・発表（30%）、実技（60%）、授業態度〔積極的な取り組み〕（10%）							
教科書	『教職課程のための大学ピアノ教本』（大学音楽教育研究グループ、教育芸術社） 『3訂版 ポケットいっぱいのうた 実践 子どものうた 簡単に弾ける162選』（編著：鈴木恵津子、教育芸術社）								
参考文献	必要に応じて、楽譜やプリントを配布する。								
補足事項	ルーブリック： https://drive.google.com/drive/u/l/folders/16u6nK-ajnSgK1SzG0o12HYahu7TTJ4U								

科 目 名	音 楽Ⅱ		単 位 数	I	授業時間数	3 0	担当教員	しか と かずのり 鹿 戸 一 範 他
ナバ`リング`コード`	EDSI2102		授業形態	演習	実務経験			
授 業 方 式	対面 ・ 遠隔 ・ その他（ ）					アクティブ・ラーニングの実施		有 ・ 無
授 業 の 内 容	この授業では、保育現場で求められるピアノ演奏技術の修得を目的として、個人レッスンとクラス授業を組み合わせる。個人レッスンでは、保育現場に必要なピアノ演奏技術の向上を図り、クラス授業では、音楽理論や楽典、歌唱法、伴奏法などを学ぶ。学生は、ピアノの個人レッスン（2～3人のグループで実施）とクラス授業を、それぞれ45分ずつ受講する。							
到 達 目 標	1．基礎的な技術を身につけるための練習曲に取り組み、保育現場で求められるピアノ演奏技術を修得している 2．幼稚園・保育所実習および保育現場での実践に対応できるよう、子どものうたの弾き歌いができる。 3．音楽理論を理解し、ピアノ演奏に活かす力を身につけ、保育における音楽活動に役立てることができる。							
学位授与方針	幼児教育学科（ 1・2・5 ）地域保育学科（ ）文化表現学科（ ）							
授 業 計 画	第1回	内容	臨時記号と半音階 大学ピアノ教本 No.68～69 季節のうた（春）弾き歌い①	予習	大学ピアノ教本 No.68～69 他の予習			
				復習	大学ピアノ教本 No.68～69 他の復習			
	第2回	内容	16分音符を用いたリズム 大学ピアノ教本 No.70～72 季節のうた（春）弾き歌い②	予習	大学ピアノ教本 No.70～72 他の予習			
				復習	大学ピアノ教本 No.70～72 他の復習			
	第3回	内容	1短調の主要三和音 大学ピアノ教本 No.73～76 季節のうた（春）弾き歌い③	予習	大学ピアノ教本 No.73～76 他の予習			
				復習	大学ピアノ教本 No.73～76 他の復習			
	第4回	内容	6度・3度の重音 大学ピアノ教本 No.77～78 季節のうた（夏）弾き歌い①	予習	大学ピアノ教本 No.77～78 他の予習			
				復習	大学ピアノ教本 No.77～78 他の復習			
	第5回	内容	3連符 大学ピアノ教本 No.79～80 季節のうた（夏）弾き歌い②	予習	大学ピアノ教本 No.79～80 他の予習			
				復習	大学ピアノ教本 No.79～80 他の復習			
	第6回	内容	へ長調よりハ長調への転調 大学ピアノ教本 No.81 季節のうた（夏）弾き歌い③	予習	大学ピアノ教本 No.81 他の予習			
				復習	大学ピアノ教本 No.81 他の復習			
	第7回	内容	3度の重音と8度の跳躍 大学ピアノ教本 No.82 季節のうた（秋）弾き歌い①	予習	大学ピアノ教本 No.82 他の予習			
				復習	大学ピアノ教本 No.82 他の復習			
	第8回	内容	弱起の曲 大学ピアノ教本 No.83～84 中間発表会（個人発表）	予習	大学ピアノ教本 No.83～84 他の予習			
				復習	大学ピアノ教本 No.83～84 他の復習			
	第9回	内容	二長調・二短調の主要三和音 大学ピアノ教本 No.85～86 季節のうた（秋）弾き歌い③	予習	大学ピアノ教本 No.85～86 他の予習			
				復習	大学ピアノ教本 No.85～86 他の復習			
	第10回	内容	装飾音 大学ピアノ教本 No.87～90 季節のうた（冬）弾き歌い①	予習	大学ピアノ教本 No.87～90 他の予習			
				復習	大学ピアノ教本 No.87～90 他の復習			
	第11回	内容	複付点音符 大学ピアノ教本 No.91 季節のうた（冬）弾き歌い②	予習	大学ピアノ教本 No.91 他の予習			
				復習	大学ピアノ教本 No.91 他の復習			
	第12回	内容	大学ピアノ教本 No.92～94 季節のうた（冬）弾き歌い③	予習	大学ピアノ教本 No.92～94 他の予習			
				復習	大学ピアノ教本 No.92～94 他の復習			
	第13回	内容	マーチ、その他① 大学ピアノ教本 No.95～98	予習	マーチ曲（大学ピアノ教本 No.95～98）の予習			
				復習	マーチ曲（大学ピアノ教本 No.95～98）の復習			
	第14回	内容	マーチ、その他② 大学ピアノ教本 No.99～102 園生活のうたの発表	予習	マーチ曲（大学ピアノ教本 No.99～）の予習			
				復習	マーチ曲（大学ピアノ教本 No.99～）の復習			
	第15回	内容	これまでのまとめと演奏発表	予習	発表曲の予習			
				復習	これまでの復習			
予習に要する学習時間：概ね30分を目安とする。 復習に要する学習時間：概ね30分を目安とする。								
課題へのフィードバック	授業内での発表や実技試験での演奏に対して、個別に講評を行う。							
成績評価	試験期間における定期試験：実施（○）する／（ ）しない 成績評価の方法：筆記試験（％）、作品・発表（30%）、実技（60%）、授業態度〔積極的な取り組み〕（10%）							
教科書	『教職課程のための大学ピアノ教本』（大学音楽教育研究グループ、教育芸術社） 『3訂版 ポケットいっぱいのうた 実践 子どものうた 簡単に弾ける162選』（編著：鈴木恵津子、教育芸術社）							
参考文献	必要に応じて、楽譜やプリントを配布する。							
補足事項	ルーブリック： https://drive.google.com/drive/u/1/folders/16u6nK-ajnSgK1SzG0o12HYahu7TTJ4U							

科 目 名	音楽Ⅲ		単 位 数	Ⅰ	授業時間数	3 0	担当教員	しかと 鹿戸	かすのり 一 範 他	
ナンバリングコード	EDS12201		授業形態	演習	実務経験					
授 業 方 式	対面 ・ 遠隔 ・ その他（ ）					アクティブ・ラーニングの実施		有 ・ 無		
授 業 の 内 容	音楽Ⅰ・音楽Ⅱで学んだ、子どもの音楽活動を支える基礎技能を土台として、さらに高度で実践的なピアノ演奏技術を修得することを目指す。特に、教育実習や保育所実習、採用試験などで重要視される、子どもの歌の弾き歌いを中心に、応用力や表現力を身につけながら学ぶ。授業は、複数の教員による指導のもと、段階的に進められる。									
到 達 目 標	１．これまでに修得した知識や演奏技術をさらに深め、保育現場で多くの子どものうたを弾き歌いできる。 ２．コードネームを用いた楽譜から、簡単な伴奏付けを行うことができる。 ３．さまざまな子どものうたに応じて、伴奏や演奏表現を工夫し、保育現場で適切に表現できる。									
学位授与方針	幼児教育学科（ Ⅰ,2,5 ）地域保育学科（ ）文化表現学科（ ）									
授 業 計 画	第 1 回	内容	オリエンテーション：授業内容・進め方について	予習	事前にシラバスを確認しておく。					
				復習	この科目で学ぶ内容を確認しておく					
	第 2 回	内容	園生活のうた 弾き歌い① 「おはよう」「おはようのうた」他	予習	「おはよう」「おはようのうた」の予習					
				復習	「おはよう」「おはようのうた」を復習					
	第 3 回	内容	園生活のうた 弾き歌い② 「おべんとう」「おかえりのうた」他	予習	「おべんとう」「おかえりのうた」の予習					
				復習	「おべんとう」「おかえりのうた」の復習					
	第 4 回	内容	園生活のうた 弾き歌い③ 「さよならのうた」「おかたづけ」「おむねをはりましょ」	予習	「さよならのうた」の予習					
				復習	「さよならのうた」の復習					
	第 5 回	内容	季節のうた 4 月 「チューリップ」「ちょうちょう」 「あくしゅでこんにちは」「せんせいとおともだち」	予習	「あくしゅでこんにちは」他の予習					
				復習	「せんせいとおともだち」他の復習					
	第 6 回	内容	小グループに分かれて弾き歌いの発表① 歌と伴奏の表現やリズムを確認	予習	「チューリップ」「ちょうちょう」他の予習					
				復習	「ちょうちょう」「めだかの学校」他の復習					
	第 7 回	内容	季節のうた 5 月① 「こいのぼり」「手をたたきましょう」他	予習	「手をたたきましょう」「こいのぼり」他の予習					
				復習	「手をたたきましょう」「こいのぼり」他の復習					
	第 8 回	内容	季節のうた 5 月② 「ぶんぶんぶん」「むすんでひらいて」他	予習	「ぶんぶんぶん」「むすんでひらいて」他の予習					
				復習	「ぶんぶんぶん」「むすんでひらいて」他の復習					
	第 9 回	内容	季節のうた 6 月 「とけいのうた」「すてきなパパ」「あめふりくまのこ」「あまだればったん」他	予習	「あめふりくまのこ」他の予習					
				復習	「あめふりくまのこ」他の復習					
	第 10 回	内容	小グループに分かれて弾き歌いの発表② 歌と伴奏の表現やリズムを確認	予習	「とけいのうた」「すてきなパパ」他の予習					
				復習	「とけいのうた」「すてきなパパ」他の復習					
	第 11 回	内容	季節のうた 7・8 月① 「たなばたさま」「うみ」「アイスクリームのうた」他	予習	「たなばたさま」「うみ」の予習					
				復習	「たなばたさま」「うみ」の復習					
	第 12 回	内容	季節のうた 7・8 月② 「おばけなんてないさ」「シャボン玉」他	予習	「おばけなんてないさ」「シャボン玉」他の予習					
				復習	「おばけなんてないさ」「シャボン玉」他の復習					
	第 13 回	内容	あそびのうた① 「グーチョキパーでなにつくろう」他	予習	「グーチョキパーでなにつくろう」他の予習					
				復習	「グーチョキパーでなにつくろう」他の復習					
	第 14 回	内容	あそびのうた② 「とんとんとんとんひげじいさん」他	予習	「とんとんとんとんひげじいさん」他の予習					
				復習	「とんとんとんとんひげじいさん」他の復習					
	第 15 回	内容	これまでのまとめと演奏発表	予習	発表曲の最終確認					
				復習	学んだ技能を総合的に活用し、自己評価を行う					
	予習に要する学習時間：概ね 分を目安とする。 復習に要する学習時間：概ね 分を目安とする。									
	課題へのフィードバック	子どもに伝わる音楽表現を通して、子どもの中にある音楽を引き出し、保育現場で応用できる力を支援するため、演奏技術や表現力、即興演奏の工夫を確認し、課題曲の改善点を指導する。								
	成績評価	試験期間における定期試験：実施（ ）する／（ ○ ）しない 成績評価の方法： 作品・発表（ 70 %）、実技（ %）、授業態度〔積極的な取り組み〕（ 30 %）								
教科書	『改訂 ポケットいっぱい うた 実践 子どものうた 簡単に弾ける 144 選』（監修・編著：鈴木恵津子 富田英也、教育芸術社）									
参考文献	必要に応じて楽譜やプリントを配布する。									
補足事項	ルーブリック： https://drive.google.com/drive/u/1/folders/16u6nK-ajNsygKISzG0o12HYahu7TTJ4U									

科 目 名	ピアノと幼児の音楽	単 位 数	I	授業時間数	30	担当教員	しかと かずのり 鹿戸 一 範 他
ナバ`リング`コード`	EDSI2203	授業形態	演習	実務経験			
授 業 方 式	対面 ・ 遠隔 ・ その他（ ）				アクティブ・ラーニングの実施		有 ・ 無
授 業 の 内 容	教育実習や保育所実習、採用試験で重視される子どもの歌の弾き歌いを中心に学ぶとともに、ピアノ曲やさまざまな伴奏形の演奏にも取り組む。さらに、初見演奏やコードネームを用いた即興的な伴奏付けにも挑戦し、演奏技術の高度な修得を目指す。また、表現力や演奏の個性を豊かにすることを通して、子どもへの音楽指導や保育現場での実践力を高めることを重視する。						
到 達 目 標	1. 個人選択のピアノ曲・子どものうたを演奏しながら、表現力や即興演奏の技術を身につけることができる。 2. コードネームを用いた伴奏や初見演奏を実践し、保育活動で演奏場面に活用できる。 3. 自己の演奏を振り返り、改善点を整理して表現力の向上に活かすことができる。						
学位授与方針	幼児教育学科（ 1.2.5 ）地域保育学科（ ）文化表現学科（ ）						
授 業 計 画	第1回	内容	オリエンテーション 授業の目的・内容、進め方について これまでの学びの振り返りと今後の目標設定	予習	シラバスを読んで授業の流れを理解しておく		
				復習	この科目で学ぶ内容を確認し、学習計画の立案		
	第2回	内容	個人の選択に基づくピアノ曲、子どものうたのレッスン①	予習	課題曲を選び、譜読みを行う		
				復習	課題曲の復習		
	第3回	内容	個人の選択に基づくピアノ曲、子どものうたのレッスン②	予習	課題曲について調べる		
				復習	課題曲の復習		
	第4回	内容	個人の選択に基づくピアノ曲、子どものうたのレッスン③	予習	課題曲を練習する		
				復習	課題曲の復習		
	第5回	内容	個人の選択に基づくピアノ曲、子どものうたのレッスン④ 発表に向けた仕上げ	予習	発表に備え課題曲を仕上げる		
				復習	課題曲の復習		
	第6回	内容	中間発表会 学習の到達度を確認する	予習	発表曲の最終確認		
				復習	発表後の振り返り、改善点の整理		
	第7回	内容	個人の選択に基づくピアノ曲、子どものうたのレッスン⑤ コードネームによる伴奏付け①	予習	コードネームの基本構造について調べる		
				復習	課題曲の復習		
	第8回	内容	個人の選択に基づくピアノ曲、子どものうたのレッスン⑥ コードネームによる伴奏付け②	予習	基本的なコードネームを用いて演奏する		
				復習	課題曲の復習		
	第9回	内容	個人の選択に基づくピアノ曲、子どものうたのレッスン⑦ コードネームによる伴奏付け③	予習	様々な調性に応用して演奏する		
				復習	課題曲の復習		
	第10回	内容	個人の選択に基づくピアノ曲、子どものうたのレッスン⑧ コードネームによる伴奏付け④	予習	コードネームを用いた伴奏を仕上げる		
				復習	課題曲の復習		
	第11回	内容	発展段階発表	予習	課題曲の復習		
				復習	発表曲の最終確認		
	第12回	内容	個人の選択に基づくピアノ曲、子どものうたのレッスン⑨ 初見演奏①	予習	初見演奏について各自調べる		
				復習	課題曲の復習		
	第13回	内容	個人の選択に基づくピアノ曲、子どものうたのレッスン⑩ 初見演奏②	予習	各自初見演奏に取り組む		
				復習	課題曲の復習		
	第14回	内容	個人の選択に基づくピアノ曲、子どものうたのレッスン⑪ 初見演奏③	予習	総合練習		
				復習	課題曲の復習		
	第15回	内容	まとめ・個人発表	予習	発表曲の最終確認		
				復習	学んだ技能を総合的に活用し、自己評価を行う		
予習に要する学習時間：概ね 分を目安とする。 復習に要する学習時間：概ね 分を目安とする。							
課題へのフィードバック	子どもに伝わる音楽表現を通して、子どもの中にある音楽を引き出し、保育現場で応用できる力を支援するため、演奏技術や表現力、即興演奏の工夫を確認し、課題曲の改善点を指導する。						
成績評価	試験期間における定期試験：実施（ ）する／（ ○ ）しない 成績評価の方法： 作品・発表（ 70 %）、実技（ %）、授業態度【積極的な取り組み】（ 30 %）						
教科書	『改訂 ポケットいっぱいのうた 実践 子どものうた 簡単に弾ける 144 選』（監修・編著：鈴木恵津子 富田英也、教育芸術社）						
参考文献	必要に応じて楽譜やプリントを配布する。						
補足事項	ループリック： https://drive.google.com/drive/u/l/folders/I6u6nK-ajnSygKISzG0oI2HYahu7TTJ4U						

科 目 名	教育社会学		単 位 数	2	授業時間数	30	担当教員	まつき ひさこ 松木 久子	
ナバ`リング`コード`	SOE12101		授業形態	講義	実務経験				
授 業 方 式	対面 ・ 遠隔 ・ その他 ()				アクティブ・ラーニングの実施			有 ・ 無	
授 業 の 内 容	現代社会が抱えるさまざまな問題や事柄を社会的な視点でとらえ直しながら、これまで当たり前と思ってきた教育の実態や学校のシステムについて再度、考え直し見つめ直していくための視点を提供していきます。また、日本社会全体についても考え、今後においてより良くしていくためにはどうすればよいかを共に考えていきたいと思います。								
到 達 目 標	1. 子どもを取り巻く環境について、自分なりの考えを説明できる 2. ジェンダーをめぐる問題について、自分なりの考えを説明できる 3. 日本社会が抱える問題点について、自分なりの考えを説明できる								
学位授与方針	幼児教育学科 (1・3・5)								
授 業 計 画	第1回	内容	オリエンテーション：諸注意と必要事項について	予習	教育問題について調べままとめておく				
				復習	理解したことをまとめておく				
	第2回	内容	教育社会学を学ぶということとは何かについて知る	予習	教育社会学について調べままとめておく				
				復習	理解したことをさらに調べまとめる				
	第3回	内容	絵本作家について考える (1)	予習	自分の好きな絵本作家について調べまとめる				
				復習	理解したことをさらに調べまとめる				
	第4回	内容	絵本作家について考える (2)	予習	絵本作家にどのような背景があるか調べる				
				復習	理解したことをさらに調べまとめる				
	第5回	内容	絵本作家について考える (3)	予習	海外の絵本作家について調べままとめておく				
				復習	理解したことをさらに調べまとめる				
	第6回	内容	日本における学校教育の現状について学ぶ	予習	教育における問題点を調べまとめる				
				復習	理解したことをさらに調べまとめる				
	第7回	内容	日本における学校病理について学ぶ	予習	学校病理について調べままとめておく				
				復習	理解したことをさらに調べまとめる				
	第8回	内容	昭和という時代について考える (1)	予習	「昭和」という時代について調べままとめておく				
				復習	理解したことをさらに調べまとめる				
	第9回	内容	昭和という時代について考える (2)	予習	「昭和」という時代の特徴についてまとめる				
				復習	理解したことをさらに調べまとめる				
	第10回	内容	スポーツについて考える (1)	予習	スポーツについて調べままとめておく				
				復習	理解したことをさらに調べまとめる				
	第11回	内容	スポーツについて考える (2)	予習	スポーツの教育的意義について調べまとめる				
				復習	理解したことをさらに調べまとめる				
	第12回	内容	学校や園の中のジェンダーについて考える	予習	ジェンダーについて調べままとめておく				
				復習	さらに興味をもったことについて調べまとめる				
	第13回	内容	メディア社会と教育について考える	予習	メディアについて調べままとめておく				
				復習	さらに興味をもったことについて調べまとめる				
	第14回	内容	幼児教育の普及と早期化について考える	予習	早期教育について調べままとめておく				
				復習	理解したことについてさらに調べまとめる				
	第15回	内容	全体のまとめと確認	予習	今まで理解したことについてまとめておく				
				復習	興味をもったことについてさらに調べまとめる				
予習に要する学習時間：概ね90分を目安とする。 復習に要する学習時間：概ね90分を目安とする。									
課題へのフィードバック	数回にわたって小エッセイを課し、小テストや中間テストを実施するなどして、学生の理解度を把握していこうと思います。								
成績評価	試験期間における定期試験：実施 () する／ (○) しない 成績評価の方法：筆記試験 (50%)、レポート・課題 (30%)、授業態度【発言の頻度等】 (20%)								
教科書	特に指定はしません。								
参考文献	授業中に必要に応じて適宜、紹介していきます。								
補足事項	日本社会に渦巻くさまざまな問題について、主体的に貪欲に調べ、ニュース等に触れるようにしてほしいと思います。								

科 目 名	教育方法・技術論		単 位 数	I	授業時間数	30	担当教員	こまきね たけし 駒木根 剛	
ナバ`リング`コード`	EDUI2203		授業形態	演習	実務経験				
授 業 方 式	対面 ・ 遠隔 ・ その他（ ）					アクティブ・ラーニングの実施		有 ・ 無	
授 業 の 内 容	幼児が成長するなかで育むべき資質や能力を身につけられるよう、周囲がどのように働きかけるとよいか、指導方法を学ぶと共に指導の立案について検討する。								
到 達 目 標	1．身体、言葉、表現、科学や算数的理解など幼児が学ぶべき領域や内容について理解している。 2．Iを幼児が身につけるために具体的な指導方法について理解できている。 3．総合学習や ICT（情報通信技術）教育の内容について理解できている。								
学位授与方針	幼児教育学科（ I、3、4 ）地域保育学科（ ）文化表現学科（ ）								
授 業 計 画	第1回	内容	子どもの特徴を脳の仕組みや心理学の視点から理解する。	予習	シラバスをよく読むこと。				
				復習	子どもの特長について教科書を読み返す。				
	第2回	内容	子どもの身近な環境を取りあげ、幼児の発達を促すための環境指導法について学ぶ。	予習	子どもの環境とは何か調べる。				
				復習	自ら環境指導法について再度考える。				
	第3回	内容	造形表現の特質と課題を理解し、造形表現の指導方法について学ぶ。	予習	造形表現の特質と課題について調べる。				
				復習	自ら造形表現や指導法について再度考える。				
	第4回	内容	子どもの発達に伴う身体表現について理解するとともに、子どもの表現を引き出す指導方法について学ぶ。	予習	身体表現について調べる。				
				復習	子どもの表現を引き出す指導方法を考える。				
	第5回	内容	新しい時代を生きるための音楽表現や幼児の感性について理解し、指導法を学ぶ。	予習	幼児の感性とは何か調べる。				
				復習	新しい時代の音楽表現ついて再度考える。				
	第6回	内容	幼児期に発達する言葉の能力、現代における言葉の習得および発達の課題について理解する。	予習	幼児期の言葉の発達について調べる。				
				復習	言葉の習得および発達の課題を読み返す。				
	第7回	内容	幼児の算数的活動の内容について理解し、発達に応じた算数的理解を促すための指導法について学ぶ。	予習	幼児の算数的活動について調べる。				
				復習	算数的理解を促す指導法について考える。				
	第8回	内容	幼児教育における科学の指導の必要性和小学校教育への橋渡し（連携）について学ぶ。	予習	幼児教育における科学とは何か調べる。				
				復習	小学校教育への連携の意義を読み返す。				
	第9回	内容	総合学習の理論と実践について学び、指導法を立案し、その立案した指導法をひとに発表できるものに仕上げる。	予習	これまでの指導法について読み返す。				
				復習	自ら総合学習の指導法について再度考える。				
	第10回	内容	ICT教育の内容について学び、支援や指導の方法について立案し、立案した指導法を発表できるものに仕上げる。	予習	ICT教育とは何か調べる。				
				復習	自ら ICT教育の指導法について再度考える。				
	第11回	内容	外国諸国の他文化を取り入れた ICT保育および教育について学ぶ。	予習	他文化保育とは何か調べる。				
				復習	他文化保育についての自らの考えをまとめる。				
	第12回	内容	発達の気になる子ども、障害を抱える子どもへの教育や支援の方法（インクルーシブ教育）について学ぶ。	予習	インクルーシブ教育とは何か調べる。				
				復習	インクルーシブ教育について考えをまとめる。				
	第13回	内容	児童虐待について学び、虐待を受けた子どもへの支援方法について学ぶ。	予習	児童虐待の現状について調べる。				
				復習	虐待を受けた子どもへの支援について考える。				
	第14回	内容	幼稚園、保育園、小学校教育の連携の必要性を学び、連携の方法について学ぶ。	予習	小学校教育への連携の意義について調べる。				
				復習	小学校教育との連携の方法について考える。				
	第15回	内容	保育者として幼児教育の方法と技術をどのように捉えるか検討し、検討した指導法を発表できるものに仕上げる。	予習	これまでの理論や指導法について読み返す。				
				復習	保育者として幼児教育の方法と技術についての重要箇所をまとめる。				
予習に要する学習時間：概ね 30 分を目安とする。 復習に要する学習時間：概ね 45 分を目安とする。									
課題へのフィードバック	Google classroom から行います。								
成績評価	試験期間における定期試験：実施（ ）する／（ ）しない 成績評価の方法： 筆記試験（ ）、レポート・課題（ 50 ）、作品・発表（ ）、実技（ ）、授業態度【動画視聴後の感想や意見】（ 50 ）								
教科書	『実践につながる 新しい幼児教育の方法と技術』（大浦賢治 編著、野津直樹 編著、ミネルヴァ書房、2020 年）								
参考文献	『ICT を使って保育を豊かに ワクワクがつながる＆広がる 28 の実践』（秋田喜代美・宮田まり子・野澤祥子編著、中央法規出版、2022 年）								
注意事項	授業ノートを作成することをもとめます。ルーズリーフよりも、針金等が入っていないキャンパスノートを使用することを推奨します。								

科 目 名	教育相談		単 位 数	2	授業時間数	3 0	担当教員	みよし ちから 三好 力	
ナバ`リング`コード`	EDP12203		授業形態	講義	実務経験				
授 業 方 式	対面 ・ 遠隔 ・ その他（ ）					アクティブ・ラーニングの実施		有 ・ 無	
授 業 の 内 容	幼稚園や学校における教育相談は、心理学の専門家や一部の教師が担うものではなく、学級運営と同じように全ての教師が担当する教育活動の一環として位置づけられている。本講義では、教育相談の理論、技術、キンダー（スクール）カウンセラーの位置づけなどについて概説し、幼稚園や学校（教育現場）における教育相談の役割を理解することを目的とする。								
到 達 目 標	1．教育現場での生徒指導上の問題に応じ、適切に対応できる。 2．カウンセリングの基本的な理論と態度技術を身につけている。 3．集団指導に有益な心理的技術について理解している。 4．教育相談における保護者や地域との連携と関わり、キンダー（スクール）カウンセラー等との連携を理解している。								
学位授与方針	幼児教育学科（ 1, 3 ）地域保育学科（ ）文化表現学科（ ）								
授 業 計 画	第 1 回	内容	オリエンテーションとガイダンス：教育相談とは何か	予習	教育相談についてのイメージを膨らませる				
				復習	教育相談の日本における位置づけを整理する				
	第 2 回	内容	子どもを支えるために必要な教師の資質とカウンセリングマインド	予習	教師の資質について考えておく				
				復習	カウンセリングマインドを整理する				
	第 3 回	内容	子ども理解のための心理学——理論と実際の双方向からの多面的理解：教育相談のための発達心理学の基礎知識	予習	子ども家庭支援の心理学などのノートを確認				
				復習	発達理論に基づき各世代について理解整理する				
	第 4 回	内容	子ども理解のための心理学——理論と実際の双方向からの多面的理解：教育相談のための臨床心理学の基礎知識	予習	臨床心理学を漠然とで良いので下調べしておく				
				復習	臨床心理学の有用な技法を整理しておく				
	第 5 回	内容	発達障害をめぐる諸問題	予習	発達障害について下調べしておく				
				復習	学修した後のギャップを整理しておく				
	第 6 回	内容	アセスメント——多面的に子どもを理解する視点と方法	予習	子どもに利用するアセスメントツールを調べる				
				復習	アセスメントについての自分の考えをまとめる				
	第 7 回	内容	心理テスト体験実習（アクティブラーニング実習）	予習	心理テストについて調べる				
				復習	測定されたものについて詳しく調べる				
	第 8 回	内容	カウンセリング——信頼関係を築き、子どもを援助する方法	予習	カウンセリングについて下調べしておく				
				復習	カウンセリング技法について整理する				
	第 9 回	内容	コンサルテーション——よりよい指導・援助のための協働	予習	コンサルテーションとは何かを調べる				
				復習	コンサルテーションにおける連携を整理する				
	第 10 回	内容	ソーシャルスキル教育やストレスマネジメント教育	予習	自分のストレスマネジメントについて整理する				
				復習	S S Tについて整理する				
	第 11 回	内容	教育相談を成立させる現実条件（目標の立て方や進め方）	予習	事前に配布プリントを読み込んでおく				
				復習	教育相談の目標設定について整理する				
	第 12 回	内容	学級経営と学校のリスクマネジメント（危機管理）	予習	学校や園のリスクについて考えておく				
				復習	多くのリスクについて整理しておく				
	第 13 回	内容	「チーム学校」にみる支援体制（他職種連携）、保幼少連携	予習	保幼小連携について大切なことを考えておく				
				復習	他職種連携と保幼小連携について整理する				
	第 14 回	内容	教育相談を成立させる現実条件 相談事例の検討	予習	事前に配布するプリントを読み込んでおく				
				復習	ディスカッションした内容をまとめておく				
	第 15 回	内容	相談事例の検討：家族の問題、親子の問題を伴う問題などを扱いグループディスカッションを行う	予習	事前に配布するプリントを読み込んでおく				
				復習	ディスカッションした内容をまとめておく				
	予習に要する学習時間：概ね 90 分を目安とする。 復習に要する学習時間：概ね 90 分を目安とする。								
	課題へのフィードバック	Google Classroom を用いて課題や小テストのフィードバックを行う。							
	成績評価	試験期間における定期試験：実施（ ）する／（○）しない 成績評価の方法： 筆記試験（ ）、レポート・課題（100%）、作品・発表（ ）、実技（ ）、授業態度【 】（ ）							
教科書	使用しない								
参考文献	絶対役立つ教育相談：学校現場の今に向き合う 藤田哲也他 2017 ミネルヴァ書房 教師のための教育相談の技術 吉田圭吾 2007 金子書房 ほか								
補足事項	毎回小テストや課題を行う。その他、特別教材として別途 500 円（予価）を授業中に集金します。 ルーブリック ： https://drive.google.com/file/d/1E6-kAJi0rXLE0aw_6Lh2wuWSwEJaaHVN/view?usp=sharing								

科 目 名	教育相談	単 位 数	2	授業時間数	3 0	担当教員	いみず ゆたか 今 水 豊
ナバ`リング`コード`	EDPI2203	授業形態	講義	実務経験			
授 業 方 式	対面 ・ 遠隔 ・ その他（ ）				アクティブ・ラーニングの実施		有 ・ 無
授 業 の 内 容	教育相談は、家庭や幼稚園における子どものさまざまな問題について、その望ましい解決に向けて助言や援助を行う実践活動である。もちろんその有用性は保育園においても同様である。授業ではまず援助の前提となる子どもの発達の総まとめをする。次に子どもに起こりうる問題と相談場面の実際を紹介していく。						
到 達 目 標	1. 発達を多角的にとらえることができる 2. 発達の知識と臨床心理学的な知識を援助活動に活かすことができる 3. 相談に必要な臨床心理学的な見立てについて理解している						
学位授与方針	幼児教育学科（3.5 ）地域保育学科（ ）文化表現学科（ ）						
授 業 計 画	第1回	内容	I 教育相談とは何か ①相談の必要性		予習	相談やカウンセリングについて考える	
					復習	教育相談の意義を理解する	
	第2回	内容	I 教育相談とは何か ②相談のながれ 相談の体験グループワーク		予習	相談場面を想像する	
					復習	相談のパターンを理解する	
	第3回	内容	II 子どもの発達の特徴 ①発達の表の作成 (身体・運動・言語の発達)		予習	左記の子どもの発達について考える	
					復習	表を通して発達の特徴を理解する	
	第4回	内容	II 子どもの発達の特徴 ②発達の表の作成 (認知・親子関係の発達)		予習	左記の子どもの発達について考える	
					復習	表を通して認知の発達を理解する	
	第5回	内容	II 子どもの発達の特徴 ③発達の表の作成 (親子関係の発達)		予習	母子関係の発達について考える	
					復習	表を通して人間関係の発達を理解する	
	第6回	内容	II 子どもの発達の特徴 ④発達の表の作成 (社会心理的発達)		予習	身体から親子関係までの発達を把握する	
					復習	表を通じて子どもの発達を多角的に理解する	
	第7回	内容	III 子どもに見られる発達・心理的問題 ①発達障害の実際		予習	発達障害の記事や話題を調べる	
					復習	発達障害の実際を理解する	
	第8回	内容	III 子どもに見られる発達・心理的問題 ②特別支援教育		予習	義務教育の支援について調べる	
					復習	義務教育の支援を把握する	
	第9回	内容	III 子どもに見られる発達・心理的問題 ③養育者の実際		予習	養育者の苦労を考える	
					復習	障害受容について理解する	
	第10回	内容	III 子どもに見られる発達・心理的問題 ④虐待		予習	虐待の記事や話題を調べる	
					復習	虐待の心理的影響を把握する	
	第11回	内容	III 子どもに見られる発達・心理的問題 ⑤大震災と PTSD		予習	東日本大震災当時を思い起こす	
					復習	PTSD について理解する	
	第12回	内容	III 子どもに見られる発達・心理的問題 ⑥心のケアの実際		予習	震災が子どもに及ぼす影響を考える	
					復習	子どもの反応と対応を理解し、その時に備える	
	第13回	内容	IV 相談の実際 ①教育相談の意義		予習	連携する相談機関を調べる	
					復習	教育相談の利点を理解する	
	第14回	内容	IV 相談の実際 ②遊戯療法		予習	遊戯療法について調べる	
					復習	遊戯療法の利点を理解する	
	第15回	内容	IV 相談の実際 ③教育相談の実践		予習	上記授業の総復習	
					復習	子どもの見立てについて理解する	
	予習に要する学習時間：概ね 90 分を目安とする。 復習に要する学習時間：概ね 90 分を目安とする。						
課題へのフィードバック	わからない内容や疑問に思うことは、授業後質問して理解すること。 テスト・レポートについては、実施後に答え合わせ、解説、紹介等のフィードバックを行う。						
成績評価	試験期間における定期試験：実施（ ）する／（○）しない 成績評価の方法： 筆記試験（ 50%）、レポート・課題（ 30%）、作品・発表（ %）、実技（ %）、授業態度【積極的参加】（20%）						
教科書	とくになし						
参考文献	都度紹介する						

補足事項	教育相談では、保護者の相談ごとに耳を傾け、その心情を理解する謙虚な態度が不可欠である。 その姿勢を身につけるためにも、授業をしっかり聞き理解するという構えを求める。
------	---

科 目 名	保育・教職実践演習(幼稚園)		単 位 数	2	授業時間数	30	担当教員	おおくま まるはし 大 熊 ・ 丸 橋 他	
ナバ`リング`コード`	EDU12204		授業形態	演習	実務経験				
授 業 方 式	対面 ・ 遠隔 ・ その他（ ）					アクティブ・ラーニングの実施		有 ・ 無	
授 業 の 内 容	これまでの教育に関する科目および教職に関する科目の学修や実習経験を踏まえ、保育士・幼稚園教諭として必要な学びを振り返り、将来の教職生活のために自己課題を見つける。尚、学生が主体的に学ぶことを基本とし、これまで履修してきた科目や実習とのつながりを理解し、保育を総合的に捉えることができるよう演習を展開する。								
到 達 目 標	幼児教育学科のディプロマポリシーに照らして、本演習を通して保育士・幼稚園教諭として必要な以下の資質能力を身につけている。 1. 幼児教育学・保育学の知識と技能をしっかりと習得している。 2. コミュニケーション能力があり、周囲の人と協調することができる。 3. 子どもを取り巻く環境や社会問題を理解し、自ら課題を見つけ取り組むことができる。 4. 自然と生命を大切にすることをもち、それを子どもに伝えることができる。 5. 自分を生き生きと表現し、他者の表現を受け入れることができる。								
学位授与方針	幼児教育学科（1・2・3・4・5）地域保育学科（ ）文化表現学科（ ）								
授 業 計 画	第1回	内容	保育・教職実践演習の授業の進め方について これまでの学修の振り返り			予習	この授業についてシラバスを読んでおく。		
						復習	授業の概要をまとめる。		
	第2回	内容	保育者の役割・職務内容・子どもに対する責任等について （講義・レポート・グループワーク）			予習	保育者の役割・職務内容について調べる。		
						復習	講義内容を振り返り、レポートを書く。		
	第3回	内容	学級経営、学級経営案の作成について（講義・レポート）			予習	学級経営について調べてくる。		
						復習	授業内容を振り返り、レポートを書く。		
	第4回	内容	子ども理解の方法と実際について （講義・グループワーク・レポート）			予習	子ども理解の方法について調べる。		
						復習	授業を振り返り、レポートを書く。		
	第5回	内容	感性と認識について（自然保育実習）（講義・レポート・グループワーク）			予習	幼児の感性について調べる。		
						復習	講義内容を振り返り、レポートを書く。		
	第6回	内容	感性と認識についてのフィールドワーク（自然保育実習・レポート・演習）			予習	身近な自然環境について調べる		
						復習	自然保育実習を振り返り、レポートを書く。		
	第7回	内容	保護者や地域の関係者との人間関係の構築について （グループワーク・ロールプレイング）			予習	保護者や地域関係者との交流について調べる。		
						復習	グループワーク・ロールプレイングを振り返り、まとめる。		
	第8回	内容	子どもを取り巻く環境、子育てに関する社会問題について （講義・レポート・ディスカッション）			予習	子どもを巡る社会問題について調べる。		
						復習	講義内容を振り返り、レポートを書く。		
	第9回	内容	保育内容と保育方法について（グループワーク）			予習	保育内容と保育方法について調べる。		
						復習	グループワークを振り返り、まとめる。		
	第10回	内容	保育における活動の計画（グループワーク）			予習	保育における様々な活動を調べる。		
						復習	話し合った計画についてまとめる。		
	第11回	内容	保育における活動を実践する①グループワーク			予習	グループでの計画を実践するための材料を準備し、方法を調べる。		
						復習	グループでの計画を実践するための材料を準備し、方法を調べる。		
	第12回	内容	保育における活動を実践する②グループワーク			予習	グループでの計画を実践するための材料を準備し、方法を調べる。		
						復習	グループでの計画を実践するための材料を準備し、方法を調べる。		
	第13回	内容	保育における活動を実践する③グループワーク・発表			予習	グループでの計画を実践するための材料を準備し、方法を調べる。		
						復習	実践したことを振り返り、まとめる。		
	第14回	内容	保育者の専門性について（グループワーク・レポート）			予習	保育者の専門性について確認する。		
						復習	グループワークの内容をまとめる。		
	第15回	内容	授業全体の振り返り・資質能力の確認			予習	学科のディプロマポリシーを読み、自己課題を考える。		
						復習	授業全体を振り返り、自己課題をまとめる。		
	予習に要する学習時間：概ね15分を目安とする。 復習に要する学習時間：概ね30分を目安とする。								
	課題へのフィードバック	各回の担当者が課題への取り組みまたは発表後に講評を行う。							

成績評価	試験期間における定期試験：実施（ ）する／（○）しない 成績評価の方法： レポート・課題（３０％）、作品・発表（４０％）、授業態度【積極的参加】（３０％）
教科書	各担当の指示による
参考文献	なし
補足事項	オムニバス形式での授業（幼児教育学科全専任教員で担当）。各回の授業担当教員が異なるため、欠席回数の把握に注意すること。 ループリック：

科 目 名	保育所実習Ⅰ	単 位 数	2	授業時間数	90	担当教員	おぐち せき 小口・関
ナンバリングコード	CHS12108	授業形態	実習	実務経験			
授 業 の 内 容	講義、演習で学んだ内容を基礎として、保育所保育、保育所の機能・役割、保育士の職務内容等について、実際の保育の場で観察・参加実習をすることで理解を深める。実習中は課題を明確にし、日誌へ記録し考察をする。保育所実習のうち保育所実習Ⅰは前期実習となる。						
到達目標	1. 保育所の役割や機能について具体的に理解している。 2. 子どもの生活や健康、安全、遊びのための援助の仕方を理解している。 3. 子どもの保育や保護者への支援について理解している。 4. 保育の計画や記録及び、自己評価等について具体的に理解している。 5. 保育士の職務内容と職業倫理を具体的に理解している。						
学位授与方針	幼児教育学科（ 1,2,3,4,5 ）地域保育学科（ ）文化表現学科（ ）						
授 業 計 画	第1回 実習施設について理解する 第2回 保育所における一日の流れを学ぶ 第3回 観察と記録により子どもを理解する 第4回 子どもの生活と遊びについて学ぶ 第5回 子どもの発達過程を理解し援助や関わり方を学ぶ 第6回 保育計画や発達過程に応じた保育内容を学ぶ 第7回 保育の環境について学ぶ 第8回 安全への配慮について学ぶ 第9回 保育者の個々の子どもや保護者への対応について学ぶ 第10回 保育士の業務内容や役割分担、連携方法について学ぶ 第11回 保育士の役割と職業倫理について学ぶ 第12回 反省会を通し実習を振り返る						
成績評価	試験期間における定期試験：実施（ ）する／（ ）しない 成績評価の方法： 筆記試験（ ）、レポート・課題（ ）、作品・発表（ ）、実技（ ）、授業態度【 】（ ）						
教科書	『実習の手引き』（秋草学園短期大学・実習委員会）						
参考文献							
補足事項	実習関係書類の提出遅延・実習中の怠惰等があった場合は本学「実習派遣規制」により、実習の中止等があり得るので注意すること。						

科 目 名	保育所実習指導Ⅰ		単 位 数	Ⅰ	授業時間数	40	担当教員	おぐち せき 小口・関
ナンバリングコード	CHS12109		授業形態	演習	実務経験			
授 業 方 式	対面 ・ 遠隔 ・ その他（ ）					アクティブ・ラーニングの実施		有 ・ 無
授 業 の 内 容	保育所実習Ⅰに必要な知識や技術を学ぶ。保育所実習の目的、内容、方法、実習施設の機能を学ぶとともに、手続書類の作成等について指導を行う。実習に対する課題を立て、事後の学習目標を明確にしていくことで今後の実習に対する意欲を高める。							
到 達 目 標	1. 保育所実習の意義・目的・内容を理解している。 2. 実習の計画、実践、観察、評価の方法について理解し実践できる。 3. 実習課題を明確にし、事前準備に取り組むことができる。 4. 事後指導の実習の統括と自己評価から、課題と目標を明確にしている。							
学位授与方針	幼児教育学科（ 1,2,3,4,5 ）地域保育学科（ ）文化表現学科（ ）							
授 業 計 画	第1回	内容	実習の意義と目的・種類と時期 （保育所・教育実習指導Ⅰ共通）	予習	実習の手引きp8を読んでくる			
				復習	実習の意義・目的・種類と時期を確認する			
	第2回	内容	実習申込書・配当資料について 実習の段階を知る（保育所・教育実習指導Ⅰ共通）	予習	実習の手引きp12を読んでくる			
				復習	配当圖を調べ、配当資料を作成する			
	第3回	内容	実習生としての心構え・守秘義務について 実習派遣規制について（保育所・教育実習指導Ⅰ共通）	予習	実習手引きの個人情報に関する事例集を読む			
				復習	実習派遣規制について実習の手引きを読み返す			
	第4回	内容	言葉遣い・礼儀・マナーについて （保育所・教育実習指導Ⅰ共通）	予習	言葉遣いやマナーについて考えてくる			
				復習	配布資料を読みかえす			
	第5回	内容	実習日誌の作成指導Ⅰ 実習日誌の書き方①～保育の記録の説明～（保育所・教育実習指導Ⅰ共通）	予習	教科書p84～85を読んでくる			
				復習	配布資料・教科書を読み返す			
	第6回	内容	実習日誌の作成指導2 実習日誌の書き方②～ワーク～（保育所・教育実習指導Ⅰ共通）	予習	保育の記録の書き方について確認する			
				復習	時系列のワークを最後まで行う			
	第7回	内容	実習の持ち物・服装・身支度 （保育所・教育実習指導Ⅰ共通）	予習	教科書p33を読んでくる			
				復習	配布資料を読み返す			
	第8回	内容	実習における礼儀・マナー② （保育所・教育実習指導Ⅰ共通）	予習	教科書p94～95を読んでくる			
				復習	礼儀・マナーの復習をする			
	第9回	内容	保育実習Ⅰの目的を理解する	予習	事前の配布資料を読む			
				復習	保育所の一日の流れをノートにまとめる			
	第10回	内容	参加・観察実習の留意点を知る	予習	事前の配布資料を読む			
				復習	参加・観察実習の留意点をノートにまとめる			
	第11回	内容	保育所の一日の流れを知る	予習	事前の配布資料を読む			
				復習	保育所の一日の流れをノートにまとめる			
	第12回	内容	実習日誌の作成指導3 実習開始前に必要な記入事項の説明	予習	テキストの関連ページを読み込んでおく			
				復習	必要事項を日誌に記入する			
	第13回	内容	「実習課題」を考えて実習の課題を明確にする 「実習生調査書」を作成する	予習	テキストの関連ページを読み込んでおく			
				復習	実習課題を考える			
	第14回	内容	実習日誌の作成指導4 時系列記録による記録方法の理解Ⅰ	予習	テキストの関連ページを読み込んでおく			
				復習	記録方法をノートに整理する			
	第15回	内容	実習日誌の作成指導5 エピソード記録による記録方法の理解	予習	テキストの関連ページを読み込んでおく			
				復習	記録方法をノートに整理する			
	第16回	内容	実習日誌の作成指導6 様々な記録の方法と振り返り等の書き方の理解	予習	テキストの関連ページを読み込んでおく			
				復習	記録方法をノートに整理する			
	第17回	内容	部分実習指導計画案作成指導	予習	テキストの関連ページを読み込んでおく			
				復習	指導計画案を作成する			
	第18回	内容	実習オリエンテーションについて理解する 持ち物、身だしなみ等、実習の諸注意について	予習	事前配布資料を読んでおく			
				復習	オリエンテーションの注意事項をノートにまとめる			
	第19回	内容	実習の評価の観点と訪問指導を理解する	予習	事前配布資料を読んでおく			
				復習	訪問指導についての必要性をノートにまとめる			
		内容		予習	これまでの授業のノートを見直す			

	第 20 回		実習の総括と自己評価	復習	実習指導Ⅰから学んだ事をノートにまとめる
	第 21 回	内容	事後指導 評価面談	予習	保育所実習Ⅰの総括を行う
				復習	評価面談の内容の受け、保育所実習Ⅱの課題を考える
	第 22 回	内容	事後指導 評価面談	予習	保育所実習Ⅰの総括を行う
				復習	評価面談の内容の受け、保育所実習Ⅱの課題を考える
	第 23 回	内容	事後指導 評価面談	予習	保育所実習Ⅰの総括を行う
				復習	評価面談の内容の受け、保育所実習Ⅱの課題を考える
	第 24 回	内容	事後指導 評価面談	予習	保育所実習Ⅰの総括を行う
				復習	評価面談の内容の受け、保育所実習Ⅱの課題を考える
	第 25 回	内容	事後指導 評価面談	予習	保育所実習Ⅰの総括を行う
				復習	評価面談の内容の受け、保育所実習Ⅱの課題を考える
	第 26 回	内容	事後指導 評価面談	予習	保育所実習Ⅰの総括を行う
				復習	評価面談の内容の受け、保育所実習Ⅱの課題を考える
	第 27 回	内容	事後指導 評価面談	予習	保育所実習Ⅰの総括を行う
				復習	評価面談の内容の受け、保育所実習Ⅱの課題を考える
第 28 回	内容	事後指導 評価面談	予習	保育所実習Ⅰの総括を行う	
			復習	評価面談の内容の受け、保育所実習Ⅱの課題を考える	
第 29 回	内容	事後指導 評価面談	予習	保育所実習Ⅰの総括を行う	
			復習	評価面談の内容の受け、保育所実習Ⅱの課題を考える	
第 30 回	内容	事後指導 評価面談	予習	保育所実習Ⅰの総括を行う	
			復習	評価面談の内容の受け、保育所実習Ⅱの課題を考える	
予習に要する学習時間：概ね 90 分を目安とする。 復習に要する学習時間：概ね 90 分を目安とする。					
課題へのフィードバック	授業内で課題への補足説明を行う。				
成績評価	試験期間における定期試験：実施（ ）する／（○）しない 成績評価の方法： 筆記試験（ %）、レポート・課題（80％）、授業態度【 積極的な参加 】（20％）				
教科書	『パターンと練習問題でだれでも書けるようになる！保育実習日誌・指導案』（浅井拓久也、明治図書出版） 『幼稚園・保育所実習パーフェクトガイド』（小櫃智子他 2 名、わかば社） 『実習の手引き』（秋草学園短期大学・実習委員会）				
参考文献	『保育所保育指針<平成 29 年告示>』（厚生労働省、フレーベル館）、『保育所保育指針解説 平成 30 年 3 月』（厚生労働省、フレーベル館）				
補足事項	1. 実習について必要な事柄や注意事項の説明，提出書類の作成を行うので，原則として欠席は認めない。 2. 実習書類の遅延，授業態度の怠慢等は「実習派遣規制」によって禁じられており，実習派遣できなくなるので十分に留意すること。 3. 実習手続きに必要な資料は、授業内で適宜配布する 4. 評価ルーブリック https://drive.google.com/drive/u/1/folders/10dPuQ17IA9Vu6dGQVLzzRE7IK6pesDdw				

科 目 名	施設実習指導			単 位 数	I	授業時間数	60	担当教員	し の は ら み よ し 志濃原・三好
ナンバリングコード	SWS12205			授業形態	演習	実務経験			
授 業 方 式	対面 ・ 遠隔 ・ その他（ ）						アクティブ・ラーニングの実施		有 ・ 無
授 業 の 内 容	この授業は、施設実習の前後に行なわれるものである。事前授業では実習の目的、実習施設の機能、保育者の職務内容、および実習手続き書類の作成等について学習し、実習心得を身に付け、実習参加意欲の高揚を図るとともに、各自の実習課題を確立する。 実習後授業は、実習報告会の参加、実習報告書と実習アンケートの作成等を通して、自己の適性を見直し、保育者としての使命感や人権意識等を考え今後の学習課題を設定する。								
到 達 目 標	1．実習施設について理解を深めている。 2．実習課題が設定できる。 3．自己の適性を理解している。								
学位授与方針	幼児教育学科（ 1.3 ）地域保育学科（ ）文化表現学科（ ）								
授 業 計 画	第1回	内容	オリエンテーション（履修上の諸注意）	予習	シラバスを確認する				
				復習	履修上の諸注意を確認する				
	第2回	内容	施設実習の意義の理解	予習	実習の手引きを一読する				
				復習	実習の手引きを確認しながら理解を深める				
	第3回	内容	実習施設の配当発表及び各実習施設の理解	予習	配当の確認をする				
				復習	配当の施設について調べる				
	第4回	内容	居住型福祉施設の生活実態を知る（乳児院）	予習	児童福祉施設の知識の復習をする				
				復習	感想文を書く				
	第5回	内容	実習生調書の作成	予習	実習生調書下書き				
				復習	実習生調書を直す				
	第6回	内容	居住型福祉施設の生活実態を知る（児童養護施設）	予習	児童福祉施設の知識の復習をする				
				復習	感想文を書く				
	第7回	内容	居住型福祉施設の生活実態を知る（障害児関連施設）	予習	障害児への知識を確認する				
				復習	感想文を書く				
	第8回	内容	居住型福祉施設の生活実態を知る（障害者関連施設）	予習	障がい者福祉の知識を確認する				
				復習	感想文を書く				
	第9回	内容	各施設への実習前訪問と諸注意	予習	実習先の概要を確認する				
				復習	実習先への交通経路等の確認をする				
	第10回	内容	外部講師の話	予習	実習への心構えを考えておく				
				復習	感想文を書く				
	第11回	内容	実習日誌の書き方1	予習	実習日誌を一読する				
				復習	日誌の記入方法等を確認する				
	第12回	内容	実習日誌の書き方2	予習	実習日誌を一読する				
				復習	日誌の記入方法等を確認する				
	第13回	内容	実習関係書類作成、細菌検査、実習課題について1	予習	提出書類の記入及び準備をする				
				復習	書類の確認・実習課題の整理をする				
	第14回	内容	実習関係書類作成、細菌検査、実習課題について2	予習	提出書類の記入及び準備をする				
				復習	書類の確認・実習課題の整理をする				
	第15回	内容	実習に向けての諸注意1	予習	実習に向けて準備を整える				
				復習	諸注意の確認をする				
	第16回	内容	実習に向けての諸注意2	予習	実習に向けて準備を整える				
				復習	諸注意の確認をする				
	第17回	内容	実習概要報告書の作成（書き方の説明）	予習	提出物・書類の確認、報告書の下書きをする				
				復習	報告書の作成、実習の振り返りと自己評価				
	第18回	内容	実習概要報告の作成	予習	提出物・書類の確認、報告書の下書きをする				
				復習	報告書の作成、実習の振り返りと自己評価				
	第19回	内容	評価面談1	予習	自己評価と省察				
				復習	実習の振り返りと自己評価				
		内容			予習	自己評価と省察			

	第 20 回		評価面談	復習	実習の振り返りと自己評価
	第 21 回	内容	評価面談 2	予習	自己評価と省察
				復習	実習の振り返りと自己評価
	第 22 回	内容	評価面談 3	予習	自己評価と省察
				復習	実習の振り返りと自己評価
	第 23 回	内容	評価面談 4	予習	自己評価と省察
				復習	実習の振り返りと自己評価
	第 24 回	内容	評価面談 5	予習	自己評価と省察
				復習	実習の振り返りと自己評価
	第 25 回	内容	評価面談 6	予習	自己評価と省察
				復習	実習の振り返りと自己評価
	第 26 回	内容	評価面談 7	予習	自己評価と省察
				復習	実習の振り返りと自己評価
	第 27 回	内容	評価面談 8	予習	自己評価と省察
				復習	実習の振り返りと自己評価
	第 28 回	内容	評価面談 9	予習	自己評価と省察
				復習	実習の振り返りと自己評価
	第 29 回	内容	実習を振り返って	予習	自己評価と省察
				復習	実習の振り返りと自己評価
	第 30 回	内容	まとめ、日誌の返却、講評	予習	自己評価と省察
				復習	実習の振り返りと自己評価
予習に要する学習時間：概ね 30 分を目安とする。 復習に要する学習時間：概ね 30 分を目安とする。					
課題へのフィードバック	実習の評価面談、及び反省を通して、フィードバックする				
成績評価	試験期間における定期試験：実施（ ）する／（ ○ ）しない 成績評価の方法： 筆記試験（ %）、レポート・課題（ 30%）、作品・発表（ 20%）、実技（ %）、授業態度【積極的参加】（ 50%）				
教科書	『施設実習』（立花直樹他著者、ミネルヴァ書房）				
参考文献	『保育福祉小六法 2025 年版』（保育福祉小六法編集委員会編、みらい）				
補足事項	各実習園に対する注意事項の説明、提出書類の作成等を行うので、原則として欠席は認めない。また、実習提出書類の遅延、非行・怠惰等は、「実習派遣規制基準」によって禁じられているので十分に留意すること。 ◎派遣施設が決まったら、自主的にその施設機能や利用者について予備学習を行うこと。				

科 目 名	施設実習指導		単 位 数	I	授業時間数	60	担当教員	みよし ちから 三好 力
ナンバリングコード	SWS12205		授業形態	演習	実務経験			
授 業 方 式	対面 ・ 遠隔 ・ その他（ ）					アクティブ・ラーニングの実施		有 ・ 無
授 業 の 内 容	この授業は、施設実習の前後に行なわれるものである。事前授業では実習の目的、実習施設の機能、保育者の職務内容、および実習手続き書類の作成等について学習し、実習心得を身に付け、実習参加意欲の高揚を図るとともに、各自の実習課題を確立する。 実習後授業は、実習報告会の参加、実習報告書と実習アンケートの作成等を通して、自己の適性を見直し、保育者としての使命感や人権意識等を考え今後の学習課題を設定する。							
到 達 目 標	1．実習施設について理解を深めている。 2．実習課題が設定できる。 3．自己の適性を理解している。							
学位授与方針	幼児教育学科（ I, 3 ）地域保育学科（ ）文化表現学科（ ）							
授 業 計 画	第1回	内容	オリエンテーション（履修上の諸注意）	予習	シラバスを確認する			
				復習	履修上の諸注意を確認する			
	第2回	内容	施設実習の意義の理解	予習	実習の手引きを一読する			
				復習	実習の手引きを確認しながら理解を深める			
	第3回	内容	実習施設の配当発表及び各実習施設の理解	予習	配当の確認をする			
				復習	配当の施設について調べる			
	第4回	内容	居住型福祉施設の生活実態を知る（乳児院）	予習	児童福祉施設の知識の復習をする			
				復習	感想文を書く			
	第5回	内容	実習生調査書の作成	予習	実習生調査書下書き			
				復習	実習生調査書を直す			
	第6回	内容	居住型福祉施設の生活実態を知る（児童養護施設）	予習	児童福祉施設の知識の復習をする			
				復習	感想文を書く			
	第7回	内容	居住型福祉施設の生活実態を知る（障害児関連施設）	予習	障害児への知識を確認する			
				復習	感想文を書く			
	第8回	内容	居住型福祉施設の生活実態を知る（障害者関連施設）	予習	障がい者福祉の知識を確認する			
				復習	感想文を書く			
	第9回	内容	各施設への実習前訪問と諸注意	予習	実習先の概要を確認する			
				復習	実習先への交通経路等の確認をする			
	第10回	内容	外部講師の話 実習前の問題について討議	予習	実習への心構えを考えておく			
				復習	感想文を書く			
	第11回	内容	実習日誌の書き方	予習	実習日誌を一読する			
				復習	日誌の記入方法等を確認する			
	第12回	内容	実習関係書類作成、細菌検査、実習課題について	予習	提出書類の記入及び準備をする			
				復習	書類の確認・実習課題の整理をする			
	第13回	内容	実習に向けての諸注意	予習	実習に向けて準備を整える			
				復習	諸注意の確認をする			
	第14回	内容	実習概要報告書の作成（書き方の説明）	予習	提出物・書類の確認、報告書の下書きをする			
				復習	報告書の作成、実習の振り返りと自己評価			
	第15回	内容	実習概要報告書の作成（書き方の説明）	予習	報告書の作成、実習の振り返りと自己評価			
				復習	報告の提出			
	第16回	内容	評価面談1	予習	自己評価と省察			
				復習	実習の振り返りと自己評価			
	第17回	内容	評価面談2	予習	自己評価と省察			
				復習	実習の振り返りと自己評価			
	第18回	内容	評価面談3	予習	自己評価と省察			
				復習	実習の振り返りと自己評価			
	第19回	内容	評価面談4	予習	自己評価と省察			
				復習	実習の振り返りと自己評価			
		内容			予習	自己評価と省察		

	第 20 回		評価面談 5	復習	実習の振り返りと自己評価
	第 21 回	内容	評価面談 6	予習	自己評価と省察
				復習	実習の振り返りと自己評価
	第 22 回	内容	評価面談 7	予習	自己評価と省察
				復習	実習の振り返りと自己評価
	第 23 回	内容	評価面談 8	予習	自己評価と省察
				復習	実習の振り返りと自己評価
	第 24 回	内容	評価面談 9	予習	自己評価と省察
				復習	実習の振り返りと自己評価
	第 25 回	内容	評価面談 10	予習	自己評価と省察
				復習	実習の振り返りと自己評価
第 26 回	内容	まとめ、日誌の返却、講評	予習	特に準備の必要はなし	
			復習	返却された日誌などをもとに振り返り替える	
予習に要する学習時間：概ね 30 分を目安とする。 復習に要する学習時間：概ね 30 分を目安とする。					
課題へのフィードバック	実習の評価面談、及び反省を通して、フィードバックする				
成績評価	試験期間における定期試験：実施（ ）する／（○）しない 成績評価の方法： 筆記試験（ %）、レポート・課題（ 30%）、作品・発表（ 20%）、実技（ %）、授業態度【積極的参加】（ 50%）				
教科書					
参考文献	『保育福祉小六法 2024 年版』（保育福祉小六法編集委員会編、みらい）				
補足事項					

科 目 名	保育所実習指導Ⅱ		単 位 数	I	授業時間数	40	担当教員	おぐち せき 小口・関
ナンバリングコード	CHS12211		授業形態	演習	実務経験			
授 業 方 式	対面 ・ 遠隔 ・ その他（ ）					アクティブ・ラーニングの実施		有 ・ 無
授 業 の 内 容	保育実習に必要な知識や技術を学ぶ。 保育所実習の目的、内容、方法、実習施設の機能を学ぶとともに手続き書類の作成等について指導を行う。 実習に対する課題を立て、実習後の学習目標を明確にすることで今後の実習に対する意欲を高める。							
到 達 目 標	1．保育実習の意義と目的を理解し保育について総合的に理解している 2．実習や既習の教科の内容やその関連性を踏まえ保育実践力が身についている 3．保育の観察記録および自己評価などを踏まえた保育の改善について実践や事例を通して検討できる 4．保育士の専門性と職業倫理について理解している 5．実習の事後指導を通して実習の総括と自己評価を行ない保育に対する課題や認識を明確にできる							
学位授与方針	幼児教育学科（ 1.2.3.4.5 ） 地域保育学科（ ） 文化表現学科（ ）							
授 業 計 画	第1回	内 容	保育実習指導Ⅱの目的と概要			予習	シラバスを確認する	
			事例から学ぶ 実習事例報告・検討会			復習	実習概要についてまとめる	
	第2回	内 容	保育実習の振り返り及び課題について検討する			予習	保育実習Ⅰの振り返り、反省をまとめる	
						復習	事例報告をまとめ課題をシートに記入する	
	第3回	内 容	実習の意義と目的の理解中黒実習課題の明確化			予習	保育実習Ⅱの実習課題を考える	
						復習	実習課題をまとめる	
	第4回	内 容	部分実習責任実習指導計画の作成の準備① 模擬授業1、2、3の準備（グループワーク）			予習	模擬授業1、2、3の内容を考える・調べる	
						復習	模擬授業の準備・部分実習案の作成	
	第5回	内 容	部分実習責任実習指導計画の作成の準備① 模擬授業1の準備（グループワーク）			予習	模擬授業1の内容を考える・調べる	
						復習	模擬授業1の準備・部分実習案の作成	
	第6回	内 容	模擬授業1			予習	模擬授業1の準備・部分実習案の作成	
						復習	模擬授業1の振り返りを行う	
	第7回	内 容	部分実習責任実習指導計画の作成の準備② 模擬授業2の準備（グループワーク）			予習	模擬授業2の内容を考える・調べる	
						復習	模擬授業2の準備・部分実習案の作成	
	第8回	内 容	模擬授業2			予習	模擬授業2の準備・部分実習案の作成	
						復習	模擬授業2の振り返りを行う	
	第9回	内 容	部分実習責任実習指導計画の作成の準備③ 模擬授業3の準備（グループワーク）			予習	模擬授業3の内容を考える・調べる	
						復習	模擬授業3の準備・部分実習案の作成	
	第10回	内 容	模擬授業3			予習	模擬授業3の準備・部分実習案の作成	
						復習	模擬授業3の振り返りを行う	
	第11回	内 容	保育実習に必要な書類の準備			予習	実習に必要な書類を用意する	
						復習	実習園に提出する書類を作成する	
	第12回	内 容	模擬授業4・5の準備（グループワーク）			予習	模擬授業4、5の内容を考える・調べる	
						復習	模擬授業の準備・部分実習案の作成	
	第13回	内 容	模擬授業4			予習	指導案を確認し模擬授業の練習を行う	
						復習	模擬授業4の振り返りを行う	
	第14回	内 容	模擬授業5			予習	指導案を修正し模擬授業の練習を行う	
						復習	模擬授業5の振り返りを行う	
	第15回	内 容	実習日誌の書き方1 目的と概要			予習	保育実習Ⅰの日誌を確認する	
						復習	保育実習Ⅱで求められていることを考える	
	第16回	内 容	実習日誌の書き方2 エピソード記録			予習	保育実習Ⅰの日誌を確認する	
						復習	エピソード記録のワークに取り組む	
	第17回	内 容	実習日誌の書き方3 エピソード記録を中心とした実習日誌の書き方			予習	保育実習Ⅰの日誌を確認する	
						復習	エピソード記録のワークに取り組む	
	第18回	内 容	実習前の心構え・実習における諸注意			予習	心構えなどをまとめる	
						復習	守秘義務マナーなどの再確認・持ち物確認	
		内				予習	保育実習の課題シートを確認する	

	第 19 回	容	実習前の心構え・実習における諸注意	復習	保育実習Ⅰの振り返りと保育実習Ⅱの課題を書く
	第 20 回	内 容	保育実習Ⅱを振り返る	予習	実習を振り返り自己評価を行う
				復習	自己評価シートを記入する
	第 21 回	内 容	自己評価と実習の総括 グループワーク 1 パワーポイント発表練習	予習	実習を振り返り自己評価を行う
				復習	グループワークで行ったことをまとめる
	第 22 回	内 容	自己評価と実習の総括 グループワーク 2 パワーポイント発表練習	予習	実習を振り返り自己評価を行う
				復習	パワーポイントを作成する
	第 23 回	内 容	自己評価と実習の総括 グループワーク 3 パワーポイント発表練習	予習	パワーポイントを修正する
				復習	パワーポイント発表練習を行う
	第 24 回	内 容	自己評価と実習の総括 発表	予習	パワーポイント発表練習を行う
				復習	発表の感想をまとめる
	第 25 回	内 容	実習の振り返りと今後の課題について 事後指導（評価面談等）	予習	実習の自己評価をまとめる
				復習	評価を受けて省察する
	第 26 回	内 容	実習の振り返りと今後の課題について 事後指導（評価面談等）	予習	実習の自己評価をまとめる
				復習	評価を受けて省察する
	第 27 回	内 容	実習の振り返りと今後の課題について 事後指導（評価面談等）	予習	実習の自己評価をまとめる
				復習	評価を受けて省察する
	第 28 回	内 容	実習の振り返りと今後の課題について 事後指導（評価面談等）	予習	実習の自己評価をまとめる
				復習	評価を受けて省察する
	第 29 回	内 容	実習の振り返りと今後の課題について 事後指導（評価面談等）	予習	実習の自己評価をまとめる
				復習	評価を受けて省察する
	第 30 回	内 容	まとめ日誌の返却公表	予習	自己評価シートのまとめを書く
復習				自己評価を考察する	
予習に要する学習時間：概ね 30 分を目安とする。 復習に要する学習時間：概ね 60 分を目安とする。					
課題へのフィードバック	個人面談等で実習に関する評価を伝える				
成績評価	試験期間における定期試験：実施（ ）する／（○）しない 成績評価の方法： レポート・課題（50%）、発表（25%）、授業態度【積極的な参加】（25%）				
教科書	ISBN 978-4-89347-398-1『保育実習』（萌文書林） 『実習の手引き』（秋草学園短期大学・実習委員会）				
参考文献	『パターンと練習問題で誰でも書けるようになる！保育実習日誌・指導案』（浅井拓久也編著、明治図書）				
補足事項					

科 目 名	教育実習指導Ⅰ		単 位 数	Ⅰ	授業時間数	60	担当教員	おおくま しおざき 大熊・塩崎	
ナバ`リング`コード`	EDUI2108		授業形態	演習	実務経験				
授 業 方 式	☒ 対面` ` ` `								

	第 19 回	内容	教育実習日誌の作成指導③ 実習課題とは	予習	前期教育実習において学びたいことを箇条書きにしておく
				復習	実習課題をまとめる
	第 20 回	内容	直前指導・最終確認	予習	日誌の必要な部分を記入する
				復習	最終チェックの項目を自分で確認し実習への準備を進める
	第 21 回	内容	前期教育実習の振り返り：自己評価	予習	実習日誌を完成し実習園への提出などを行う
				復習	自分自身の評価を記入する
	第 22 回	内容	前期教育実習の振り返り：グループワーク	予習	実習の振り返りを自分の言葉でまとめておく
				復習	振り返りを共有した感想などをまとめる
	第 23 回	内容	後期実習とは	予習	実習の手引きの必要箇所を読んてくる
				復習	前期実習の課題をノートにまとめる
	第 24 回	内容	責任実習とは	予習	教科書の必要事項についてまとめる
				復習	責任実習で行う活動について考える
	第 25 回	内容	後期実習に向けて 先輩の体験談	予習	質問事項についてノートに記入する
				復習	振り返りフォームに記入し、体験談の要点をまとめる
	第 26 回	内容	指導案の作成	予習	部分実習指導案の活動内容を考える
				復習	指導案に活動内容をまとめる
	第 27 回	内容	評価面談 1	予習	評価面談にむけて実習の振り返りを行う
				復習	園からの評価を受け、後期への課題を考える
	第 28 回	内容	評価面談 2	予習	評価面談にむけて実習の振り返りを行う
				復習	園からの評価を受け、後期への課題を考える
	第 29 回	内容	評価面談 3	予習	評価面談にむけて実習の振り返りを行う
				復習	園からの評価を受け、後期への課題を考える
	第 30 回	内容	評価面談 4	予習	評価面談にむけて実習の振り返りを行う
				復習	園からの評価を受け、後期への課題を考える
予習に要する学習時間：概ね 90 分を目安とする。 復習に要する学習時間：概ね 90 分を目安とする。					
課題へのフィードバック	レポートや課題について評価を伝える。 評価面談にて実習の評価を伝え、後期実習につなげていく。				
成績評価	試験期間における定期試験：実施（ ）する／（○）しない 成績評価の方法：レポート・課題（ 80 %）、授業態度【 積極的参加 】（20 %）				
教科書	『幼稚園・保育所実習パーフェクトガイド』（小櫃智子他 2 名、わかば社） 『実習の手引き』（秋草学園短期大学・実習委員会）				
参考文献	『幼稚園教育要領』（文部科学省） 『パターンと練習問題でだれでも書けるようになる！保育実習日誌・指導案』（浅井拓久也、明治図書出版）				
補足事項	1. 実習について必要な事柄や注意事項の説明，提出書類の作成を行うので，原則として欠席は認めない。 2. 実習書類の遅延，授業態度の怠慢等は「実習派遣規制」によって禁じられており，実習派遣できなくなるので十分に留意すること。 3. 必要な資料は授業内で適宜、配布するので、毎週持参すること。				

科 目 名		教育実習指導Ⅱ		単 位 数	I	授業時間数	60	担当教員	おおくま いざわ 大熊・伊澤
ナンバリングコード		EDU12206		授業形態	演習	実務経験			
授 業 方 式		対面 ・ 遠隔 ・ その他（ ）					アクティブ・ラーニングの実施		有 ・ 無
授 業 の 内 容		教育実習Ⅱと並行して行われる授業であり、後期教育実習に関する事前事後の指導を行う。具体的には、後期教育実習の目的、幼稚園の機能、幼稚園教諭の職務内容について学ぶとともに、実習手続きに必要な書類の作成の指導を行っていく。後期実習における実習内容や目的、実習記録の方法、指導計画の理解と作成について学習することを目的とする。							
到 達 目 標		1．後期教育実習の事前準備として、実習の心構えを理解し、実習に必要な態度や意欲を持っている。 2．後期教育実習の事前準備として、実習の課題を明確にしている。 3．実習の事前事後指導を通し、保育者としての資質・能力を身につけている。							
学位授与方針		幼児教育学科（1、2、3）地域保育学科（ ）文化表現学科（ ）							
授 業 計 画		第1回	内容	実習生調査書の書き方と記入	予習	実習生調査書への記入項目について事前に考えておく			
					復習	記入内容について確認する			
		第2回	内容	個人情報保護について 実習課題を考える	予習	手引きの該当部分を読み込んでおく 前期実習の日誌等をもとに前期実習の振り返りを行う			
					復習	個人情報保護について自身の日々の行動についての振り返りを行う 実習課題を再考する			
		第3回	内容	後期実習について 責任実習について	予習	手引きの該当部分を読み込んでおく			
					復習	後期実習や責任実習についてのまとめを行う			
		第4回	内容	実習園オリエンテーションについて 実習指導案について	予習	指導案の立案について下調べをしておく			
					復習	指導案を立案する意義と目的についてまとめる			
		第5回	内容	保育の記録の書き方のポイントについて	予習	前期実習で記入した保育の記録の仕方について振り返りを行う			
					復習	前期実習で記入した保育の記録の修正点等を探る			
		第6回	内容	保育の記録の事例をもとにした実際の書き方について	予習	前回の授業内容をもとに基本的な保育の記録の書き方について整理をする			
					復習	実習に向けての健康管理法について考える			
		第7回	内容	部分実習指導案について	予習	指導案の記入方法についての振り返りを行う			
					復習	指導案例を作成する			
		第8回	内容	保育の記録と指導案の関係について	予習	保育の記録と指導案への記載内容について確認しておく			
					復習	保育の記録と指導案の共通点と相違点をまとめる			
		第9回	内容	実習日誌のチェック お礼状の書き方	予習	実習日誌の確認を行う お礼状の書き方について調べておく			
					復習	お礼状を書く練習をする			
		第10回	内容	実習概要報告書の作成	予習	実習の振り返りを行う			
					復習	作成した実習概要報告書の確認を行う			
		第11回	内容	実習の振り返りを行う（1）	予習	実習の振り返りを行う			
					復習	改めて実習の成果や課題をまとめる			
		第12回	内容	実習の振り返りを行う（2） グループワーク	予習	実習の振り返りを行う			
					復習	改めて実習の成果や課題をまとめる			
		第13回	内容	振り返りのワーク（1） グループワーク	予習	実習の振り返りを行う			
					復習	課題を仕上げる			
		第14回	内容	振り返りのワーク（2） グループワーク	予習	実習の振り返りを行う			
					復習	課題を仕上げる			
		第15回	内容	振り返りのワーク（3） グループワーク	予習	実習の振り返りを行う			
					復習	課題を仕上げる			
		第16回	内容	評価面談	予習	実習の自己評価をまとめる			
					復習	評価を受けて、省察する。			
		第17回	内容	評価面談	予習	実習の自己評価をまとめる			
					復習	評価を受けて、省察する。			
		第18回	内容	評価面談	予習	実習の自己評価をまとめる			
					復習	評価を受けて、省察する。			
			内容		予習	実習の自己評価をまとめる			

	第 19 回		評価面談	復習	評価を受けて、省察する。
	予習に要する学習時間：概ね 15 分を目安とする。 復習に要する学習時間：概ね 30 分を目安とする。				
課題へのフィードバック	個別面談にて実習に関する評価を伝える。				
成績評価	試験期間における定期試験：実施（ ）する／（ ○ ）しない 成績評価の方法： レポート・課題（60%）、授業態度【 主体的取組 】（40%）				
教科書	『実習の手引き』（実習委員会）				
参考文献	『幼稚園教育要領』『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』フレーベル館				
補足事項	1. 実習について必要な事柄や注意事項の説明、提出書類の作成を行うので、原則として欠席は認めない。 2. 実習書類の遅延、授業態度の怠慢等は「実習派遣規制」によって禁じられており、実習派遣できなくなるので十分に留意すること。				